

授 業 科 目 名	心 理 学	単 位 認 定 者	榎 本 光 邦
対 象 学 年	第 1 学 年	学 期	後 期
単 位 数	2 単 位 ( 1 5 コ マ )	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	講義・演習（講義内にて）・事例検討
科 目 の 目 的	人間の成長発達を理解する基礎として、各発達段階における知的、心理的、社会的発達、人格の発達を理解することを目的とする。
学 習 到 達 目 標	1 心理学の概要を理解し、国家試験対策の基礎を形成する。 2 心理学理論による人間理解を深めるとともに自分について振り返る。 3 心理学的援助の概要と方法について理解し、自らの専門分野に生かす。
関 連 科 目	専門基礎科目：発達心理学、臨床心理学、カウンセリング 専門科目：地域理学療法
成績評価方法・基準	定期試験（80％）に受講時の意見文・感想文やレポート課題等平常点（20％）を加味して評価する。
準 備 学 習 の 内 容	前回の講義時に指示をする。

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準
			理学療法士
1	心理学を学ぶ意義	医療と心理学、心理学の領域	【専門基礎】 -4 人間発達学 A 総論 b 発達理論 c 発達段階と発達課題 g 心理社会的発達 -1 医学概論 B 健康と病気概念 a 健康の定義 b 病気の定義と分類 -3 リハビリテーション医学 G リハビリテーション治療 j 心理的アプローチ -4 臨床心理学 D 心理療法およびカウンセリング
2	物理的世界と心の世界	五感のはたらき、地と図、錯覚、知覚の恒常性	
3	記憶と注意の心理	記憶のしくみ、忘却、日常記憶、記憶の障害	
4	学習のメカニズム	古典的学習、オペラント学習、観察学習	
5	欲求と動機づけ	動機・欲求の種類、社会的欲求、欲求の階層、欲求不満と葛藤	
6	心理学的性格論	性格とは何か？、性格の類型論と特性論	
7	心理学的性格論	性格検査とその活用	
8	成長と発達の心理	ピアジェの発達理論、エリクソンの発達理論	
9	集団行動の心理	集団の分類、リーダーシップ	
10	人間関係の心理	対人認知、原因帰属、ハロー効果、寛大効果	
11	健康と異常	健康の定義、ポジティブ心理学	
12	臨床心理学	ストレスと心の病理	
13	カウンセリングと心理療法	カウンセリングの理論と方法、看護におけるカウンセリングマインド	
14	カウンセリングと心理療法	医療現場における様々な心理学的介入	
15	まとめ		

教 科 書	「基礎から学ぶ心理学・臨床心理学」山祐嗣・山口素子・小林知博 編著（北大路書房）
参 考 書	講義中に随時紹介する

授 業 科 目 名	生 命 倫 理	単 位 認 定 者	森 川 功
対 象 学 年	第 1 学 年	学 期	後 期
単 位 数	2 単 位 ( 1 5 コ マ )	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	講義 15 コマ
科 目 の 目 的	生命倫理の基本原則について学び、具体的な事案の倫理的是非について第三者的な立場から論じることができるようになるとともに、人の存在価値に関する概念的対立について学び、具体的な事案の当事者として自己の主張を論理的に展開することができるようになることを目的とする。
学 習 到 達 目 標	1 現代医療における倫理的な諸問題の概要を把握する。 2 基本的な倫理原則について説明できる。 3 具体的な事案の倫理的是非について少なくとも第三者的な立場から論じることができる。
関 連 科 目	
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	レポート（複数回提出）の成績（100%）および講義中の質疑応答（レポートの総合成績に加点）
準 備 学 習 の 内 容	各回の講義時間内において詳細を紹介できない事柄（倫理綱領や種々の事件）について文献等を調べて理解しておくこと。

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準
			理学療法士
1	生命倫理とは	倫理と道徳 生命倫理学とは 生命倫理学の成立に影響した数々の出来事 ナチスによる人体実験（ニュルンベルク綱領） タスキギー梅毒研究 ウィローブルック研究 ユダヤ慢性病病院事件 何故にいま生命倫理学なのか	【専門基礎】 -1 医学概論 A 医学の基本 a 生命倫理 b 基本的人権 c 医の倫理（患者の権利、医療者の義務） -1 保健医療福祉 A 医療 a インフォームドコンセント
2	倫理理論と種々の倫理原則	倫理理論 直観主義 義務尊重主義 結果尊重主義 権利重視の倫理 種々の倫理原則（看護倫理を含む）	
3	基本倫理原則（1）	侵害回避の原則 ヒポクラテスの誓い 避けるべき害悪 ガン告知と専門家の守秘義務 二重効果の原則 医療行為の是非 恩恵の原則 互惠の確保 恩恵を与える義務に対する制約 義務を負うか否かを判断するための考慮事由 パターンリズム 最善の利益 生体的な善とその他の善	
4	基本倫理原則（2）	自律の原則 自律とは 自律を行使するために必要とされる能力 イマニュエル・カント 医療に関する観念としての自由 情報の開示 事前指示書 リビング・ウィル	

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準
			理学療法士
5	基本倫理原則(3)	<p>カレン・アン・クインラン事件 持続的代理決定委任状 ナンシー・クルーザン事件 自律の原則の優先性</p> <p>公正の原則 資源配分 マクロな配分とミクロな配分 資源の稀少性 恩恵(利益)と害悪(負担)の配分 公正の概念 公正な資源配分に関する理論 功利主義理論 マクシミン理論 平等主義理論 臓器移植における患者の選抜を事例として</p>	
6	インフォームド・コンセント	<p>インフォームド・コンセントに関する種々の誤解 インフォームド・コンセントの概念 治療法選択の段階でのインフォームド・コンセント インフォームド・コンセントの構成要素 患者による理解と決定のための「患者の意思能力」 重要情報の「医師による開示」 医学的処置の「医師による推薦」 開示された情報などの「患者による理解」 医学的処置を支持する「患者の決定」 支持する決定における「患者の自由意思」 医学的処置の実行に関する「患者による授権」</p>	
7	生命の神聖さ(SOL)と生の質(QOL)	<p>人とはいかなる存在であるのか 生命とその属性 SOLの概念 QOLの概念 SOL対QOL</p>	
8 ~ 15	個別的な論題および種々の事案の紹介と検討	<p>個別的な論題については履修者が希望するものを選びあげる。特に希望がない場合には、</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 高齢患者による治療拒否</li> <li>2) 植物状態患者(死の定義)</li> <li>3) 安楽死</li> <li>4) 生殖補助医療</li> <li>5) 出生前検査・診断</li> <li>6) 新生児医療</li> </ol> <p>などを論題として採りあげ、種々の事案の倫理的是非の検討を行なう予定である。</p>	

教科書	使用しない。プリントを配布する。
参考書	森川 功『生命倫理の基本原則とインフォームド・コンセント』(じほう、2002年) その他については、講義中に適宜指示する。

授業科目名	教 育 学	単 位 認 定 者	横 井 利 男
対象学年	第 1 学 年	学 期	前 期
単 位 数	2 単 位 ( 1 5 コ マ )	必 修 ・ 選 択	選 択

指 導 方 法	講義
科 目 の 目 的	本授業では、「教育」について一般的・基本的事項を講義する。 意図的な「教育」は、主として学校や家庭で行われるが、看護や医療の場において教育的な配慮が必要であることは言うまでもない。教員や親としてはもとより、医療従事者にとっても必要な「教育者」の素養を身につけることを目的とする。
学 習 到 達 目 標	教育の本質（概念・思想・理論など）を理解し、広い視野から多面的に考え、学習者の実態に即して望ましい教育のあり方を考えることができるようにする。 青少年の問題行動について関心を持ち、親として、またはその青少年に身近な成人としてどのように対処するか短期的、または長期的に解決する方策を考えることができるようにする。
関 連 科 目	個人・家族学と生活 地域社会学 心理学 臨床心理学 カウンセリング
成績評価方法・基準	試験(70%) 授業への参加度(30%)
準 備 学 習 の 内 容	各回終了時の次時の予告に基づいて、自分の経験などから問題意識を持つておくこと

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準
			理学療法士
1	教育	「教育」を考える 教育哲学・教育思想 「しつける」「教える」「育てる」 「覚える」「分かる」 動機づけ	【専門】 - 1 理学療法の概要   研究・教育
2	教と育		
3	学と習		
4			
5	発達と教育	教育の適時性	
6		乳児期・児童期・青年前期	
7		教育内容・教育方法 「何を」「どのように」	
8	教育制度の変遷	近代以前：庶民の教育 明治以降の教育改革：ゆれる教育改革	
9	教育関係法	教育基本法 教育関係法規 行政機関との関係	
10	心の教育	道徳的心情の教育 宗教教育・人権教育	
11	学校不応	不登校・引きこもり・いじめ	
12		事例研究	
13	特別支援教育	心身に障害がある子供	
14		発達の偏りがある子供 インテグレーション	
15	まとめ		

教 科 書	使用しない
参 考 書	授業時に紹介

授業科目名	医療民俗学	単位認定者	板橋春夫
対象学年	第1学年	学期	前期
単位数	2単位(15コマ)	必修・選択	選択

指導方法	講義
科目の目的	誕生、病気、医療、死、霊魂をキーワードに医療文化を民俗学的視点から学ぶ。
学習到達目標	現代医療を考えるための民俗学的アプローチの方法に親しみ、日常生活における疑問解決の方法を学ぶことができる。
関連科目	生命倫理
成績評価方法・基準	試験70%・授業への参加度30%
準備学習の内容	教科書を事前に読み、必要に応じて下調べをする。

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準
			理学療法士
		オリエンテーション(学習の進め方) 生死のこと/徒然草にみる生死 丙午俗信と出産行動(医療と俗信の関係) いのち観と人生儀礼([生命]と「いのち」) 名前と人生(いのちの名付け) 現代の名前(名付けの基本を考える) 霊魂の伝承(昔話・身近な言い伝え) 夜の民俗(妖怪魔物・眠らない夜) 長寿の民俗(長寿銭習俗・高齢社会の問題) 病気の民俗(大安退院問題・急病人搬送) 看取りと臨終(終末期医療) 死の儀礼(死者儀礼の学習) 死の判定とタマヨビ(医療化以前の伝統文化) まとめ まとめ	

教科書	『叢書いのちの民俗学3生死』 板橋春夫著 (社会評論社)
参考書	

授業科目名	健康スポーツ理論	単位認定者	近藤 照彦
対象学年	第 1 学年	学期	後 期
単位数	2 単位 ( 1 5 コマ )	必修・選択	選 択

指導方法	「入門運動生理学」のテキストを中心に講義する。講義内容の理解を深めるために、関連するビデオにて学習する。講義内容に関連するスポーツや健康の話題について報告する。
科目の目的	理学療法士の資格を目指す学生に対して、スポーツ科学および運動生理学の側面から身体におよぼす運動の効果、健康づくりを实践するための理論について学習する。
学習到達目標	運動における生体の生理的变化（筋・神経系、呼吸循環系、肥満・代謝系など）の概論が理解できる。教材学習によりテキストで理解した内容を充実させる。
関連科目	生理学 解剖学
成績評価方法・基準	定期試験（80点）・出席点および学習点（20点）の総合100点の評価とする。
準備学習の内容	テキストの課題を準備学習する。

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準
			理学療法士
1	ガイダンス	講義概要・運動生理学の学習の意義について	【専門】 -1 基礎 C 地域理学療法 h 健康増進
2	筋の機能と役割	筋線維の種類とその特徴	
3	筋の機能と役割	筋の収縮様式と筋力	
4	運動と呼吸	運動と循環	
5	運動と呼吸	運動と呼吸	
6	運動と内分泌	運動とホルモン	
7	運動と肥満	身体組成と肥満	
8	運動処方	運動処方・車いすバスケットボール	
9	運動と生活習慣病	メタボリックシンドローム、肥満の最近の知見	
10	運動と体温	運動と体温調節	
11	運動と疲労	筋疲労の要因	
12	運動と老化	老化にともなう身体機能の変化	
13	運動と栄養	運動と栄養、運動選手の栄養	
14	健康と運動	健康と運動	
15	まとめ	まとめ	

教科書	入門運動生理学 勝田 茂編著 杏林書院
参考書	

授業科目名	健康スポーツ実技	単位認定者	近藤照彦
対象学年	第1学年	学期	前期
単位数	1単位(15コマ)	必修・選択	必修

指導方法	高山キャンパスの体育館、高山運動公園グラウンドおよび高山キャンパス周辺において、健康づくりを実践するための実技を行う。からだの調整(コンディショニング)としてウォーキングを中心に行い、次第に個人の体力レベルとモチベーションを高めることを目標とする。スポーツは、体育館およびグラウンドで行える選択制のレクリエーションスポーツとする。
科目の目的	健康スポーツ理論の実践として健康増進、体力向上のための運動を行う。生涯スポーツ、レクリエーション参加を通じた生活の質の向上を実践する。スポーツの実践を通してクラブ活動やスポーツ大会参加などの社会参加を養う。
学習到達目標	健康のための運動実践と体力向上を実技15回出席目標とする。健康度の全身持久性指標である12分間走テストから推定される最大酸素摂取量年齢別男女平均値に到達できることを目標とする。集団行動における協調性やコミュニケーションを養うことも目標とする。
関連科目	健康スポーツ理論
成績評価方法・基準	12分間走テスト年齢別男女平均値基準到達および出席(15回)・学習能力での総合評価とする。
準備学習の内容	健康管理に努める

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準
			理学療法士
1	ガイダンス 実技1	講義概要の解説(高山キャンパス) ウォーキング	
2	実技2-3	高山キャンパス、キャンパス周辺、グラウンド、体育館、コンディショニング(体力の調整)、ストレッチ ウォーキング	
3			
4	実技4-5		
5		高山キャンパス、コンディショニング(体力の調整) 12分間走	
6	実技6-7	高山キャンパス、12分間走テスト予備 コンディショニング(体力の調整)	
7			
8	実技8-9	高山キャンパス、グラウンド選択スポーツ、テニス選択 体育館選択スポーツ	
9			
10	実技10-11		
11		高山キャンパス、グラウンド選択スポーツ、テニス選択 体育館選択スポーツ	
12	実技12-13	高山キャンパス、グラウンド選択スポーツ、テニス選択 体育館選択スポーツ	
13			
14	実技14-15	高山キャンパス、グラウンド選択スポーツ、テニス選択 12分間走 体育館選択スポーツ	
15			

教科書	使用せず
参考書	使用せず

授 業 科 目 名	総 合 英 語	単 位 認 定 者	柴 山 森 二 郎
対 象 学 年	第 1 学 年	学 期	前 期
単 位 数	1 単 位 ( 1 5 コ マ )	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	保健医療・理学療法に関連して、1) 語句の意味を考え、構文を分析しながら、英文を精読することによって読解力をつける。2) VOA、APTA などのビデオを利用して英語の聴解の訓練をする。
科 目 の 目 的	専門分野の英語に取り組める力をつけることを目的とし、英語では主に読解力と聴解力の養成と基本的な語彙と表現の習得に重点をおく。
学 習 到 達 目 標	保健医療・理学療法に関連して、1) 辞書を有効に使うと専門的な英語文献を読むことができる、2) ビデオなどの英語を聞いてある程度内容を理解することができる。
関 連 科 目	総合英語、英語表現、ステップアップ英語、教養科目、専門基礎科目、専門科目
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	期末試験 (60%)、小テスト(20%)、出席・課題 (20%)
準 備 学 習 の 内 容	1. 指示に従って授業の予習と復習をする。 2. 授業で分からないことは積極的に質問する。 3. 授業以外に自主的に英語を勉強する。 4. 英検、TOEIC などを積極的に受験する。

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準
			理学療法士
1	総合英語 の学習方法	1) 座席指定、2) 教科書の紹介と学習方法の説明	
2	Unit 1. Stress and Anxiety	1) Text の精読、2) 語彙と構文分析	
3	NLM Video	3) 語彙少テスト、4) Video Q & A	
4	Unit 2. Vitamins and Supplements	1) Text の精読、2) 語彙と構文分析	
5	NLM Video	3) 語彙少テスト、4) Video Q & A	
6	Unit 3. Alzheimer's	1) Text の精読、2) 語彙と構文分析	
7	NLM Video	3) 語彙少テスト、4) Video Q & A	
8	Unit 4. Music Therapy	1) Text の精読、2) 語彙と構文分析	
9	NLM Video	3) 語彙少テスト、4) Video Q & A	
10	Unit 5. Laughter as Medicine	1) Text の精読、2) 語彙と構文分析	
11	NLM Video	3) 語彙少テスト、4) Video Q & A	
12	APTA Video	1) Video Q & A 2) Quiz	
13	APTA Video	1) Video Q & A 2) Quiz	
14	APTA Video	1) Video Q & A 2) Quiz	
15	まとめ	期末試験に向けて、復習と質疑	

教 科 書	English for Health and Medicine, John S. Lander 著、朝日出版社
参 考 書	ジーニアス英和辞典 (大修館) 看護英和辞典 (医学書院)

授業科目名	総合英語	単位認定者	柴山森二郎
対象学年	第1学年	学期	後期
単位数	1単位(15コマ)	必修・選択	必修

指導方法	保健医療・理学療法に関連して、1) 英文を精読することによって読解力をつける。2) VOA、APTAなどのビデオを利用してQ & Aを行う。3) 簡単な英文を書く
科目の目的	専門分野の英語に取り組める力をつけることを目的とし、英語では、英語で養った力を持続させることに加えて、さらに話すことや書くことの訓練も行う。
学習到達目標	保健医療・理学療法に関連して、1) 辞書を有効に使って専門的な英語文献を読むことができる、2) 平易な英語を書くことで、ある程度の情報を伝えることができる。3) 平易な英語を話すことで、ある程度の意志疎通ができる。
関連科目	総合英語、英語表現、ステップアップ英語、教養科目、専門基礎科目、専門科目
成績評価方法・基準	期末試験(60%)、小テスト(20%)、出席・課題(20%)
準備学習の内容	1. 指示に従って授業の予習と復習をする。 2. 授業で分からないことは積極的に質問する。 3. 授業以外に自主的に英語を勉強する。 4. 英検、TOEICなどを積極的に受験する。

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準
			理学療法士
1	総合英語の学習方法	総合英語と総合英語の違い	
2	Unit 6. Robotic Surgery	1) Textの精読、2) 語彙と構文分析、3) 英文を書く	
3	NLM Video	4) 語彙少テスト、5) Video Q & A	
4	Unit 7. Safe Anesthetics	1) Textの精読、2) 語彙と構文分析、3) 英文を書く	
5	NLM Video	4) 語彙少テスト、5) Video Q & A	
6	Unit 8. Physical Therapy	1) Textの精読、2) 語彙と構文分析、3) 英文を書く	
7	NLM Video	4) 語彙少テスト、5) Video Q & A	
8	Unit 11. Safe Blood and AIDS Prevention	1) Textの精読、2) 語彙と構文分析、3) 英文を書く	
9	NLM Video	4) 語彙少テスト、5) Video Q & A	
10	Unit 12. The Visible Human Project	1) Textの精読、2) 語彙と構文分析、3) 英文を書く	
11	NLM Video	4) 語彙少テスト、5) Video Q & A	
12	APTA Video	1) Video Q & A 2) Quiz	
13	APTA Video	1) Video Q & A 2) Quiz	
14	APTA Video	1) Video Q & A 2) Quiz	
15	まとめ	期末試験に向けて、復習と質疑	

教科書	English for Health and Medicine, John S. Lander 著、朝日出版社
参考書	ジーニアス英和辞典(大修館)、看護英和辞典(医学書院)

授業科目名	英語表現	単位認定者	柴山森二郎
対象学年	第1学年	学期	後期
単位数	1単位(15コマ)	必修・選択	選択

指導方法	1) Listening, 2) 説明, 3) Repetition, 4) Pair Work, 5) Role Play, 6) Dictation
科目の目的	保健医療・理学療法の分野で、英語で意志の疎通や情報の交換をできるようになるために、英語オーラルコミュニケーションの学習法を学ぶ。
学習到達目標	保健医療・理学療法の分野で、1) 外国人患者に英語で対応する力をつけることができる、2) 海外視察・国際学会などで英語で情報の交換をする力をつけることができる。
関連科目	総合英語、総合英語、ステップアップ英語、教養科目、専門基礎科目、専門科目
成績評価方法・基準	期末試験(60%)、小テスト(20%)、出席・課題(20%)
準備学習の内容	1. 指示に従って授業の予習と復習をする。 2. 授業で分からないことは積極的に質問する。 3. 授業以外に自主的に英語を勉強する。 4. 英検、TOEICなどを積極的に受験する。

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準
			理学療法士
1	英語表現の学習法		
2	Unit 1. 通院	1) Dialog, 2) Useful Expressions, 3) Dictation	
3	Unit 10. リハビリ室	1) Dialog, 2) Useful Expressions, 3) Dictation	
4	Unit 11. 基本的指示	1) Dialog, 2) Useful Expressions, 3) Dictation	
5	Unit 12. 関節可動域訓練	1) Dialog, 2) Useful Expressions, 3) Dictation	
6	Unit 13. ベッドサイド	1) Dialog, 2) Useful Expressions, 3) Dictation	
7	Unit 14. 移乗動作	1) Dialog, 2) Useful Expressions, 3) Dictation	
8	Review	復習	
9	Unit 15. マット上訓練	1) Dialog, 2) Useful Expressions, 3) Dictation	
10	Unit 16. 立ち上がり訓練	1) Dialog, 2) Useful Expressions, 3) Dictation	
11	Unit 17. 歩行練習	1) Dialog, 2) Useful Expressions, 3) Dictation	
12	Unit 18. 呼吸・排痰訓練	1) Dialog, 2) Useful Expressions, 3) Dictation	
13	Unit 19. 温熱療法	1) Dialog, 2) Useful Expressions, 3) Dictation	
14	Unit 20. 水治療	1) Dialog, 2) Useful Expressions, 3) Dictation	
15	Review	復習	

教科書	20 Medical Dialogs, by Koga, Taruishi & Soga, 鷹書房弓プレス
参考書	ジーニアス英和辞典(大修館)、看護英和辞典(医学書院)

授業科目名	ステップアップ英語	単位認定者	杉田雅子
対象学年	第1学年	学期	後期
単位数	1単位(15コマ)	必修・選択	選択

指導方法	プリントにより進める。教材は受講者の希望によって変更もありうる。講義と受講者の授業参加。
科目の目的	専門分野の文献が読める力の強化。将来の進学や就職に備えて読解力、リスニング力の強化。
学習到達目標	難易度高めの英語文献を正しく理解できる。英語専門用語の定着。リスニング力の向上。
関連科目	【関連する教養科目】 英語Ⅰ 英語Ⅱ 看護学のための基礎英語 英語表現 広くは看護に関する科目全般に関連する。
成績評価方法・基準	後期末試験(90%) 授業への取り組み姿勢(10%) 全回出席が大前提。
準備学習の内容	事前にテキストを読んで、わからない単語は調べ、理解しにくい箇所を明確にしておくこと。

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準
			理学療法士
1	Reading&Listening	Episodes from ER を読む。 TOEIC のリスニング問題	
2	Reading&Listening	Episodes from ER を読む。 TOEIC のリスニング問題	
3	Reading&Listening	Episodes from ER を読む。 TOEIC のリスニング問題	
4	Reading&Listening	Episodes from ER を読む。 TOEIC のリスニング問題	
5	Reading&Listening	Episodes from ER を読む。 TOEIC のリスニング問題	
6	Reading&Listening	Helen Keller の essay を読む。 TOEIC のリスニング問題	
7	Reading&Listening	Helen Keller の essay を読む。 TOEIC のリスニング問題	
8	Reading&Listening	Helen Keller の essay を読む TOEFL のリスニング問題	
9	Reading&Listening	New York Times の記事を読む TOEFL のリスニング問題	
10	Reading&Listening	New York Times の記事を読む。 TOEFL のリスニング問題	
11	Reading&Listening	New York Times の記事を読む。 TOEFL のリスニング問題	
12	Reading&Listening	New York Times の記事を読む。 TOEFL のリスニング問題	
13	Reading&Listening	New York Times の記事を読む。 TOEFL のリスニング問題	
14	Reading&Listening	New York Times の記事を読む。 TOEFL のリスニング問題	
15	まとめ		

教科書	プリントを使用する。
参考書	英和辞書

授 業 科 目 名	中 国 語	単 位 認 定 者	深 町 悦 子
対 象 学 年	第 1 学 年	学 期	前 期
単 位 数	1 単 位 ( 1 5 コ マ )	必 修 ・ 選 択	選 択

指 導 方 法	講義
科 目 の 目 的	[読む、書く、聴く、話す]の四能力のうち、特に[聴く、話す]に重点を置きながら、日常生活ができる語学力を習得させる。また、学習を通じて、中国の社会状況、地理、文化、歴史、生活習慣などを理解する。多文化多言語が共生する現代社会の中で、一国際人として、それに適応できる語学力を身につけたい。
学 習 到 達 目 標	中国語の難関は発音と四声である。それを習得するには、毎日の練習と個々の指導が不可欠である。テキストの例文を使って、文法形態を理解してもらおう。また日本語と違うところも判ってもらおう。会話を中心に楽しく勉強できる雰囲気をつくり、日常会話ができる基礎づくりを目標とします。
関 連 科 目	
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	学期末に筆記試験を行う。出席数、受講時の学習態度及び試験の成績を参考の上、成績を評価する。基準は試験50%、授業への参加度50%
準 備 学 習 の 内 容	前回の授業で学習した内容を復習すること。特に発音と四声はテキストのCDを参考しながら毎回練習して欲しい。新しい単語は暗記し、書く練習と読む練習をすること。次回授業の予習もして置く事。

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準
			理学療法士
1	発音の基本	ガイダンス、母音、四声	
2	発音練習	母音、子音、四声	
3	発音練習	音節表の読む練習	
4	第1課	挨拶【こんにちは】、語彙と文法	
5	第2課	会話【あなたは中国人ですか】、語彙と文法	
6	第3課	会話【健康保険証を持っていますか】、語彙と文法	
7	第4課	会話【家族にはどんな人がいますか】、語彙と文法	
8	第5課	会話【あそこで少しお待ちください】、語彙と文法	
9	復習	第1課から第5課までの復習	
10	第6課	会話【少し話せます】、語彙と文法	
11	第7課	会話【検査室へ行ってください】、語彙と文法	
12	第8課	会話【どうしましたか】、語彙と文法	
13	第9課	会話【口を開けてください】、語彙と文法	
14	第10課	会話【この薬を飲んだことがありますか】、語彙と文法	
15	まとめ	試験	

教 科 書	[医療学生の初級中国語] 山田真一 著 【白帝社】
参 考 書	

授 業 科 目 名	コ リ ア 語	単 位 認 定 者	青 木 順
対 象 学 年	第 1 学 年	学 期	前 期
単 位 数	1 単 位 ( 1 5 コ マ )	必 修 ・ 選 択	選 択

指 導 方 法	講義
科 目 の 目 的	基礎的なコリア語を学ぶと同時に、韓国社会や文化への理解も深める。
学 習 到 達 目 標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ハングル文字を正確に読み書きできるようになる。</li> <li>・正確な発音をマスターする。</li> <li>・挨拶をはじめ、簡単な日常会話を身につける。</li> </ul>
関 連 科 目	
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	授業中の小テスト数回 ( 3 0 % ) ・ 期末テスト ( 7 0 % )
準 備 学 習 の 内 容	付属のCDを繰り返し聴くこと。

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準
			理学療法士
1	第一課	コリア語は語順が日本語と非常に似ており日本人にとっては学び易い言語といえる。反面、日本語にない発音が多いため正確な発音を習得するには少々時間を要する。そこで、発音の練習とともに語彙を増やし、基本文法や会話を体系的に指導していく。	
2	第二課	前半はハングル文字の読み書きを中心に、語彙を増やすとともに簡単な挨拶言葉が言えるように、後半は文法を中心に簡単な日常会話ができるように講義を行う。また映画などの鑑賞を通して、韓国の社会や文化に触れさせる。	
3	第三課	<文字と発音>	
4	第四課	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ハングルの読み方 ( 1 ) 基本母音と基本子音</li> <li>・ハングルの読み方 ( 2 ) 激音と濃音</li> <li>・ハングルの読み方 ( 3 ) 合成母音とパッチム</li> <li>・挨拶言葉など通して韓国文化を学ぶ。</li> </ul>	
5	第五課	<文法と会話>	
6	第六課	・「私は日本人です」	
7	第七課	・「それは何ですか」	
8	第八課	・「週末には何をしますか」	
9	第九課	・「いつ行きますか」	
10	第十課	・「どうやっていきますか」	
11	第十一課	・「いつ日本へ来ましたか」	
12	第十二課	・「どちらへ行ったらっしゃいましたか？」	
13	第十三課	・「温泉に行きたいです」	
14	第十四課	・「プレゼントをかうのでお金をたくさん使います」	
15	まとめ	・「結婚式に何を着ていけばいいですか？」	
		・まとめ	

教 科 書	新装版「できる韓国語」初級1 新大久保語学学院 李志暎 著 DEKIRU 出版 CD付
参 考 書	携帯版 「韓国語とっさのひとこと辞典」金裕鴻 著 (DHC刊)

授業科目名	個人・家族と生活	単位認定者	内藤和美
対象学年	第1学年	学期	前期
単位数	2単位(15コマ)	必修・選択	必修

指導方法	講義
科目の目的	学生は皆、家族関係の中にあり、今後その多くは自ら新しい家族を形成していく。また、保健医療サービスの対象者の多くは家族関係の中にあり、サービス提供にあたっては、その人だけでなく、家族や家族関係をも対象とすることが必須である。この科目は、職業人、生活者、市民としての家族に関する見識と“家族する力”の養成と、家族を踏まえた適切な保健医療サービスの提供を可能にする知識の形成を目的とする。
学習到達目標	1. 近代家族の特徴、家族機能など、家族を理解し、考察し、ひいては将来サービス対象とするための基本的な概念を習得する 2. 自分と定位家族、自らが将来つくるかもしれない家族、そこにおける家庭生活、家庭生活と職業生活のバランス等についてより具体的に考えられるようになる 3. サービス対象者が家族関係の中にあることや、当事者だけでなく家族関係もサービス対象となることが認識できる
関連科目	個人・家族と社会 地域社会学 法学
成績評価方法・基準	学習到達目標の達成度を測る内容の定期試験の結果に出席、毎回のミニツツペーパーの記述・提出、取り組み姿勢をはじめとする平常点を加味して評価する。配点内訳は、試験点8:平常点2を目安とする。
準備学習の内容	前回授業の重要事項を見直しておくこと

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準
			理学療法士
1	家族をとらえる(1)	近代家族の基本概念 近代家族の特徴 近代家族の誕生 日本における家族の近代化	
2	家族をとらえる(2)	家族と世帯、世帯の動向、家族周期 国際家族年に示された家族の理念	
3	家族の機能(1)	近代家族が担ってきた基本機能=生活保障 生活保障の第一側面：家事労働	
4	家族の機能(2)	生活保障の第二側面：就労による経済基盤の確保 生活保障の第三側面：感情機能	
5	家族をめぐる制度(1)	民法第四編 親族 親族 婚姻	
6	家族をめぐる制度(2)	民法第四編 親族 親子 後見 第五編 相続	
7	家族をめぐる制度(3)	戦前明治民法における「家」制度	
8	家族をめぐる制度(4)	“夫婦別姓”とはどういう問題か	
9	家庭経済(1)	家庭経済内部の4つの活動とその循環 稼得：収入と所得、所得の種類、賃金とその内訳	
10	家庭経済(2)	モノの購入・家計支出、家計支出の内訳、家事労働：消費と労働力の再生産、家事労働の種類、貯蓄	
11	生活習慣(1)	生活習慣、医療と生活習慣、生活習慣への働きかけ、家族と生活習慣 食生活	
12	生活習慣(2)	家族と生活習慣 喫煙、飲酒	
13	ワークライフバランス	ワーク・ライフ・バランス 働く人の生活への配慮	
14	ワークライフバランス(1)	家庭責任をもつ人の仕事への支援	
15	ワークライフバランス(2)		
15	まとめ	まとめ	

教科書	使用しない(プリントによる)
参考書	落合恵美子：21世紀家族へ 家族の戦後体制の見かた・超えかた．有斐閣、2004 山田昌弘：迷走する家族 戦後家族のモデルの形成と解体．有斐閣、2005 岡野八代：家族 新しい「親密圏」を求めて．岩波書店、2010

授 業 科 目 名	個 人 ・ 家 族 と 社 会	単 位 認 定 者	内 藤 和 美
対 象 学 年	第 1 学 年	学 期	後 期
単 位 数	2 単 位 ( 1 5 コ マ )	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	講義
科 目 の 目 的	家族・労働・暴力を例に、社会構造と具体的な現象を関連づけられるようになる
学 習 到 達 目 標	1.家族の中の暴力が、単に個人的な問題ではなく、社会が引き起こしている面もある問題であることが理解できる 2.家族・労働・暴力をめぐる、従来の問題を乗り越えた、より公正で、より生きやすい社会の姿を認識できる 3.2.のような社会へと向かう中で社会人・生活者・市民となっていく自分の生活と仕事をより具体的に考えることができる
関 連 科 目	個人・家族と生活、地域社会学、法学
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	講義を踏まえ、主に、課題に対する自身の分析・解釈・見解を論述する形の試験を実施する。試験点に出席、毎回のミニツツペーパーの記述・提出、取組み姿勢をはじめとする平常点を加味して評価する。配点内訳は、試験点8:平常点2を目安とする
準 備 学 習 の 内 容	前回授業の重要事項を見直しておくこと

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準
			理学療法士
1	家族の中の暴力と社会・児童虐待1	児童虐待の定義、種類、問題	
2	家族の中の暴力と社会・児童虐待2	児童虐待の実態：1つの調査から	
3	家族の中の暴力と社会・児童虐待3	児童虐待問題への対応 自己肯定感情	
4	家族の中の暴力と社会・児童虐待4	児童虐待問題への対応 ネットワーク	
5	家族の中の暴力と社会・児童虐待5	DVD視聴による児童虐待問題の具体化	
6	家族の中の暴力と社会・女性への暴力	女性に対する暴力を生み出す社会構造、社会構造は個人関係の中に「立場」を設定する！、	
7	家族の中の暴力と社会・DV1	女性に対する暴力の一型としてのドメスティック・バイオレンス、DVの実態	
8	家族の中の暴力と社会・DV2	配偶者間のDVとデートDV、被害者像と加害者像、DV防止法に基づく対応制度	
9	家族の中の暴力と社会・DV3	VTR視聴によるDV問題と対応の具体化	
10	社会的立場の濫用1	ハラスメント	
11	社会的立場の濫用2	事例講読によるハラスメントの具体化	
12	社会的労働1	理学療法士を職業とすること	
13	社会的労働2	理学療法士の職場	
14	公正な社会の希求	社会的公正・正義とはどういうことか	
15	まとめ		

教 科 書	使用しない(プリントによる)
参 考 書	川崎二三彦：児童虐待．岩波新書、2006 宮田雄吾：「生存者」と呼ばれる子どもたち 児童虐待を生き抜いて．角川書店、2010 サンデルの政治哲学 正義 とは何か．平凡社新書、2011

授 業 科 目 名	地 域 社 会 学	単 位 認 定 者	坂 本 祐 子
対 象 学 年	第 2 学 年	学 期	前 期
単 位 数	2 単 位 ( 1 5 コ マ )	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	講義
科 目 の 目 的	日常生活においては、あまり意識することのない「地域」であるが、様々な領域において、「地域」の重要性が再認識されている。少子高齢の進行する日本社会において、高齢者と子どもの生活も「地域」を基盤としているし、環境や防災の問題においても結局は「地域」での解決を要する問題である。講義を通して、地域社会における問題点、自分の身近な地域における生活の問題と意味を考えることを目的とする。
学 習 到 達 目 標	1. 社会に関する基本的な知識（地域社会の概念、日本社会における歴史的な地域社会の状況、地域社会の構成要素など）を身につける。 2. 地域社会で解決しうる現代社会の諸問題について学ぶ。 3. 地域社会を身近なこととしてとらえ、地域社会に対して各自が関心と意見を持つ。
関 連 科 目	関連し合う教養科目 ・ 個人・家族と生活 個人・家族と社会 ボランティア活動論 環境学 経済学 この科目が基盤となる専門基礎科目 ・ 社会福祉・地域サービス論 障害者スポーツ・レクリエーション論 この科目が基盤となる専門科目 ・ 生活環境学 日常生活活動学 地域理学療法学 環境理学療法学
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	講義時間内に、何度か小レポートを実施。定期試験、小レポート、平常点などを考慮して総合的に評価する（定期試験 70%・出席と小レポート 30%）。
準 備 学 習 の 内 容	普段から社会の変化を感じ、地域社会で何が問題になっているのか自分で考える力を養うため、新聞を読む習慣をつけてもらいたい。

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準
			理学療法士
1	地域社会学の概論(1)	地域社会、地域コミュニティへのアプローチ。なぜ今「地域」が重要なのか。地域社会とは何か。	【専門基礎】 -2 リハビリテーション概論 E リハビリテーションの諸相 e 地域リハビリテーション
2	地域社会学の概論(2)	地域社会の都市化への変遷・歴史。生活の質とライフスタイルの変化。	
3	地域社会学の概論(3)	地域社会で解決しうる諸問題について（環境、家族、教育、福祉、防災など）	
4	地域社会学の概論(4)	地域社会で解決しうる諸問題について（環境、家族、教育、福祉、防災など）	
5	地域社会学の概論(5)	地域社会で解決しうる諸問題について（環境、家族、教育、福祉、防災など）	
6	地域と家族(1)	労働環境の変化と家族	
7	地域と家族(2)	家族の機能と家族の変容	
8	子育てと地域社会(1)	都市化の進展と子育て環境の変化	
9	子育てと地域社会(2)	地域で育児を支援する様々な取り組み	
10	地域コミュニティの担い手(1)	コミュニティ福祉の理念と方法	
11	地域コミュニティの担い手(2)	ボランティアと住民組織の再評価	

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準
			理学療法士
12	地域コミュニティの担い手(3)	NPOの可能性とコミュニティ・リーダー	
13	地域コミュニティの担い手(4)	地域における社会起業家の活躍	
14	地域コミュニティの形成	地域におけるソーシャル・キャピタルとネットワーク	
15	まとめ	講義内容の振り返り	

教科書	教科書は特に定めない。必要に応じて随時、レジюмеや資料を配布する。
参考書	「地域の社会学」森岡清志編（有斐閣アルマ）

授業科目名	ボランティア活動論	単位認定者	竹澤泰子
対象学年	第1学年	学期	前期
単位数	1単位(15コマ)	必修・選択	選択

指導方法	講義・学生の発表
科目の目的	ボランティアとは何か。ボランティア活動の問題点。ボランティア活動と心の問題。
学習到達目標	ボランティアの基本概念と歴史を習得。 国内外におけるボランティア活動を知る。現行のボランティア活動を調査・分析して報告することにより各自のボランティアにたいする考えをまとめる。
関連科目	
成績評価方法・基準	発表の内容並びに発表態度・発表についてのレポート(70%) 授業後毎回提出の意見(20%) 授業への参加率(10%)
準備学習の内容	グループ毎の発表のための準備 講義に関しては別になし

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準
			理学療法士
1	ボランティアとは エゴグラムテスト	学生の関わったボランティア活動やボランティアについて意見を話し合う エゴグラムテストにより自己分析を行う	
2	ボランティア活動	講師が30年間行ってきたボランティア活動について述べる	
3	ボランティアの歴史	ボランティア活動の歴史(国内・国外)	
4	ボランティア活動の経験談1	アジアを知ろうの会の代表	
5	ボランティア活動の経験談2	アゼルバイジャンの方	
6	ボランティア活動の経験談3	カンボジアに学校を設立している方	
7	活動のプレゼンテーション 調査開始	グループに分かれる、テーマを決めて話し合う 論点を抑えて調査する指導を行う 調査結果のまとめに重点を置くよう指導	
8	同上	グループの発表 発表者以外はプレゼンテーションの内容態度を評価、コメントする。	
9	グループ発表開始	プレゼンテーション継続	
10・14回		プレゼンテーションのまとめレポート提出	
15	まとめ		

教科書	なし
参考書	PCのボランティア活動サイト

授 業 科 目 名	法 学 ( 医 療 法 規 含 )	単 位 認 定 者	斎 藤 周
対 象 学 年	第 1 学 年	学 期	後 期
単 位 数	2 単 位 ( 1 5 コ マ )	必 修 ・ 選 択	選 択

指 導 方 法	講義
科 目 の 目 的	1. 基本的人権・民主主義・平和といった問題を検討することを通じて、ひとりひとりが幸せに生きられる社会のあり方を考える。 2. 法的観点から医療を考える。
学 習 到 達 目 標	1. 政治・経済・社会への認識を深め、主権者として成長する。あるいはより一般的に言えば、事実に基づいて論理的にものごとを考える力をつける。法律の条文や解釈を暗記することは必要ない。 2. 理学療法士の資格と業務、業務の法律上の位置づけ、およびそれらと関連する他法規の事項を理解する。また、医療に関わる問題を法的側面から考える力をつける。
関 連 科 目	経済学・個人家族と生活・個人家族と社会・教育学・理学療法概論
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	論述中心の筆記試験により評価する。自分の考えを、説得力をもって説明できているかどうかを、評価の基準とする。なお、授業回数の3分の1を超えて欠席した場合は、履修を放棄したものとみなし、評価の対象としない。
準 備 学 習 の 内 容	参考文献を読む。

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準
			理学療法士
1	序論	憲法・法律の役割	【専門基礎】 - 1 保健医療福祉 D 関連法規 a 医療法規 医療法 理学療法士及び作業療法士法 b 保健衛生法規 地域保健法 精神保健及び精神障害者福祉に関する法律 高齢者の医療の確保に関する法律 c 福祉関係法規 障害者自立支援法 児童福祉法 身体障害者福祉法 知的障害者福祉法 老人福祉法
2	人権(1)	人権とは何か	
3	人権(2)	家族と人権	
4	人権(3)	労働と人権	
5	民主主義	民主主義と独裁政治	
6	平和(1)	日本の戦争	
7	平和(2)	憲法9条の考え方	
8	医療関係法規(1)	理学療法士・作業療法士法	
9	医療関係法規(2)	保健師助産師看護師法と医師法・定義, 免許, 業務	
10	医療関係法規(3)	医療法 - 医療提供の理念、医療提供施設の種類と定義、医療提供に関する情報と安全管理	
11	医療関係法規(4)	医療法 - 病床の種類別、医療提供施設各論、公共医療、医療法人	
12	医療に関わる法律問題(1)	医療と自己決定 - 輸血拒否と治療法	
13	医療に関わる法律問題(2)	医療と自己決定 - 脳死と臓器移植	
14	医療に関わる法律問題(3)	医療と自己決定 - リプロダクティブ・ライツ/ヘルス	
15	まとめ		
	各回の授業内容と順番は、変更することがある。		

教 科 書	使用しない。
参 考 書	森英樹『新版 主権者はきみだ - 憲法のわかる50話 -』岩波ジュニア新書

授業科目名	経済学	単位認定者	飯島正義
対象学年	第1学年	学期	後期
単位数	2単位(15コマ)	必修・選択	選択

指導方法	講義形式。
科目の目的	経済学は、私たちの経済生活の中に存在する本質を明らかにすることを目的とした学問です。したがって、経済学を学ぶということは私たちの経済生活そのものを知ることです。
学習到達目標	1. まず、経済学の基礎理論を理解できるようにする。 2. その上で、現実の経済現象について理解できるようにする。
関連科目	
成績評価方法・基準	平常点(出欠席や学習態度、授業中に行う確認)40%、学期末試験60%で総合的に評価します。
準備学習の内容	高校時代に学んだ「政治・経済」の「経済」のところをもう1度見直しておいて下さい。一層理解が深まると思います。

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準
			理学療法士
1	イントロダクション	授業内容とその進め方、成績評価についての説明	
2	国民経済の仕組み	経済3主体と国民経済の仕組み	
3	市場メカニズム	市場メカニズムとは何か	
4	物価	物価とは、インフレ・デフレが及ぼす影響は？	
5	市場の失敗	市場メカニズムの限界、外部経済	
6	政府の役割	政府の役割、政府の失敗	
7	財政・金融政策(1)	財政政策	
8	財政・金融政策(2)	金融政策	
9	国内総生産	国内総生産(GDP)とは、日本は世界何位？	
10	経済成長	経済成長とは、日本の成長率は？	
11	貿易と国際収支	比較優位説、「国際収支表」を読む	
12	為替レート	為替レートとは、私たちへの影響は？	
13	経済統計を読む(1)	「景気動向」に関する諸統計を読む	
14	経済統計を読む(2)	「国民経済計算」を読む	
15	試験	筆記試験	

教科書	使用しません。当日プリント資料を配布します
参考書	必要に応じて随時紹介します。

授 業 科 目 名	環 境 学	単 位 認 定 者	西 園 大 実
対 象 学 年	第 1 学 年	学 期	後 期
単 位 数	2 単 位 ( 1 5 コ マ )	必 修 ・ 選 択	選 択

指 導 方 法	講義
科 目 の 目 的	環境問題への認識は、現代社会を生きていくために不可欠の要素である。また、疾病の発症するバックグラウンドとして、その時代の環境が色濃く反映している。環境理解を深めることによって、社会人としてよりよく生き、適切な保健医療サービスを提供できるようになることを目指す。
学 習 到 達 目 標	1. 環境問題の背景と発生原因への理解 2. 公害問題、地球環境問題とその対策、関連する法制度の理解 3. 資源・エネルギーの適切な利用の理解と循環型社会・持続可能社会構築への認識
関 連 科 目	
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	定期試験 ( 8 0 % )、出席・受講状況 ( 2 0 % )
準 備 学 習 の 内 容	自筆ノートの整理

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準
			理学療法士
1	環境とは	環境問題の範囲と背景	
2	地球の環境の構造	地球の自然の成り立ち	
3	生活を支える資源	再生可能資源と再生不能資源	
4	環境問題の変遷	公害問題から地球環境問題への歴史的・内容的変遷	
5	典型七公害	足尾鉍毒、水俣病、イタイイタイ病	
6	酸性雨	燃焼生成物、硫酸・硝酸の生成	
7	オゾン層破壊	オゾン破壊物質、オゾン層の状況と見通し	
8	地球温暖化( )	温室効果ガス、気候変動の状況と見通し、対策	
9	地球温暖化( )	予防原則、世代間公平の原則、先進国途上国の責任	
10	エネルギー問題	日本の1次エネルギー現状、再生可能エネルギー	
11	廃棄物問題( )	一般廃棄物、産業廃棄物、医療廃棄物、感染性廃棄物	
12	食料生産と環境	食料生産の現状、窒素循環、フードマイレージ	
13	循環型社会	3 R、熱回収、適正処分	
14	持続可能社会	再生可能資源中心の社会づくり	
15	まとめ	内容を振り返ってまとめる	

教 科 書	使用せず
参 考 書	「平成22年版環境白書」環境省編(ぎょうせい)

授 業 科 目 名	情 報 処 理	単 位 認 定 者	西 谷 泉
対 象 学 年	第 1 学 年	学 期	前 期
単 位 数	1 単 位 ( 1 5 コ マ )	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	コンピュータを使った実習形式で行う。
科 目 の 目 的	Excel を使用した実習を通して、情報処理の基本的な知識・技能を実習的に習得する。
学 習 到 達 目 標	Excel を用いて種々のデータを表やグラフ等に表現処理し、その結果を考察すると共に、結果をプレゼンテーションできるようにする。
関 連 科 目	特になし
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	試験(40%)・課題提出(15%)・発表(15%)・出席状況(30%)を総合判断して、成績評価を行う。詳細は、講義の中で説明する。
準 備 学 習 の 内 容	特になし

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準
			理学療法士
1	統計学の基礎	統計学の歴史について指導する	【専門基礎】 -1 保健医療福祉 A 医療 e EBM(根拠に基づいた医療)
2	統計学の基礎	統計学の基本的事項について指導する	
3	Excel の基本	Excel の基本的事項について指導する	
4	合計、平均の計算	種々のデータの合計、平均について指導する	
5	関数の活用	Excel 内の種々の関数について指導する	
6	最大・最小	種々のデータの最大値・最小値について指導する	
7	表の作成	種々のデータを表にする方法を指導する	
8	グラフ作成	種々のデータのグラフの描き方について指導する	
9	様々なグラフ	種々のグラフの描き方等について指導する	
10	データベースの基本事項	種々のデータベース作成について指導する	
11	データのソート、検索、集計	種々のデータのソート、検索、集計を指導する	
12	Word への Excel の埋め込み	Word への Excel の埋め込みについて指導する	
13	研究課題の発表	各受講生が独自に調べた内容を PowerPoint を用いてプレゼンテーションを行う	
14	研究課題の発表	各受講生が独自に調べた内容を PowerPoint を用いてプレゼンテーションを行う	
15	まとめ	全体的なまとめを行う	

教 科 書	「30 時間でマスター Excel2007」(実教出版)
参 考 書	特になし

授 業 科 目 名	情 報 処 理	単 位 認 定 者	西 谷 泉
対 象 学 年	第 1 学 年	学 期	後 期
単 位 数	1 単 位 ( 1 5 コ マ )	必 修 ・ 選 択	選 択

指 導 方 法	コンピュータを使った実習形式で行う。
科 目 の 目 的	Excel を使用した実習を通して、情報処理の基本的な知識・技能を実習的に習得する。
学 習 到 達 目 標	Excel を用いて種々のデータを表やグラフ等に表現処理し、その結果を考察すると共に、結果をプレゼンテーションできるようにする。
関 連 科 目	特になし
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	試験(50%)・発表(20%)・出席状況(30%)を総合判断して、成績評価を行う。詳細は、講義の中で説明する。
準 備 学 習 の 内 容	特になし

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準
			理学療法士
1	統計学・情報処理の復習	前期で学習した内容を復習・確認する。	【専門基礎】 -1. 保健医療福祉 A 医療 e EBM (根拠に基づいた医療)
2	統計学・情報処理の復習	前期で学習した内容を復習・確認する。	
3	統計学・情報処理の復習	前期で学習した内容を復習・確認する。	
4	統計学・情報処理の応用	統計的な方法や情報処理の技術を具体的な場面でどのように応用するかを指導する。	
5	統計学・情報処理の応用	統計的な方法や情報処理の技術を具体的な場面でどのように応用するかを指導する。	
6	統計学・情報処理の応用	統計的な方法や情報処理の技術を具体的な場面でどのように応用するかを指導する。	
7	統計学・情報処理の応用	統計的な方法や情報処理の技術を具体的な場面でどのように応用するかを指導する。	
8	統計学・情報処理の応用	統計的な方法や情報処理の技術を具体的な場面でどのように応用するかを指導する。	
9	統計的方法の社会での活用について	現実社会における統計的な方法がどのように生かされているかを学習する。	
10	統計的方法の社会での活用について	現実社会における統計的な方法がどのように生かされているかを学習する。	
11	統計的方法の社会での活用について	現実社会における統計的な方法がどのように生かされているかを学習する。	
12	統計的方法の社会での活用について	現実社会における統計的な方法がどのように生かされているかを学習する。	
13	発表	各受講生が独自に調べた内容を PowerPoint を用いてプレゼンテーションを行う	
14	発表	各受講生が独自に調べた内容を PowerPoint を用いてプレゼンテーションを行う	
15	まとめ	全体的なまとめを行う	

教 科 書	特になし
参 考 書	特になし

授業科目名	生活の中の数学	単位認定者	栗田昌裕
対象学年	第1学年	学期	前期
単位数	1単位(7.5コマ)	必修・選択	選択

指導方法	毎回、講義内容に関連する内容のプリントを配布し、解説する。簡単な問題をその場で考えて解く。
科目の目的	高校数学の基礎を復習し、数学の各分野の概念を再確認し、それを医療を含む生活での現象に結びつけて応用するセンスと技能を学び、将来、理学療法士として数理現象を見出し、定量的に表現し、その上で分析、評価するための基礎的な能力を磨く。
学習到達目標	1. 基礎的な数学の概念の復習をする。2. 数学の概念や道具を自力で扱えるようにする。3. 定量的にものごとを評価するセンスを磨く。
関連科目	
成績評価方法・基準	筆記試験(100%)
準備学習の内容	

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準
			理学療法士
1	数と式	多項式の四則演算を復習する。生活の中でそのセンスを磨くことを促す。	
2	方程式と不等式	1次不等式、2次方程式の復習をする。生活の中でそのセンスを役立てることを促す。	
3	2次関数	関数とグラフの概念を復習する。 関数の最大・最少の求め方を整理する。 2次関数のグラフと2次方程式・2次不等式の関係。 生活の中で定量的なセンスを発揮することを促す。	
4	図形と計量	三角比、正弦定理と余弦定理、図形の計量に関して復習する。生活の中でそのセンスを磨くことを考える。	
5	個数の処理	集合とその要素の個数、場合の数、順列、組み合わせ・二項定理の復習。生活の中でそのセンスを応用、活用することを考える。	
6	確率	事象と確率、確率の性質、反復試行の確率、期待値の復習。生活の中でそのセンスを役立てることを考える。	
7	論理と命題	命題と条件、必要条件、十分条件、逆、裏、対偶の復習。生活や医療の場で論理的にものごとをとらえるセンスを磨くことを促す。	
8	平面図形	平面図形の復習。生活の中でそのセンスを役立てることを考える。	

教科書	なし
参考書	なし

授業科目名	大学の学び入門	単位認定者	内藤和美
対象学年	第1学年	学期	前期
単位数	1単位(15コマ)	必修・選択	必修

指導方法	講義・演習
科目の目的	<p>高校生までの学習・生活から大学生の学習・生活に移行する</p> <p>1. 自立した人間になっていくために必要な知識や技術を身に付けていく高校までの学習から、自ら課題を見つけそれを解決していく大学の学習へ</p> <p>2. 高校までの大人に守られた生活から、責任ある大人としての生活へ</p>
学習到達目標	<p>1. 大学での学習に必要な、基本的な学習習慣・学習技術(アカデミック・スキル)を高める</p> <p>2. 責任ある大人としての生活に必要な、基本的な生活習慣を身につけ、人間関係能力を高める(スチューデント・スキル)</p>
関連科目	理学療法概論
成績評価方法・基準	出席状況、課題(ワークシート、レポート)の提出状況・取り組み水準による単位認定
準備学習の内容	前回授業の重要事項を見直しておくこと

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準
			理学療法士
1	科目の説明、大学生の学習・生活	科目の目的・目標・進め方の説明、高校生までの学習・生活と大学生の学習・生活の違い	
2	アカデミック・スキルとスチューデント・スキル	アカデミック・スキル“自ら課題を見つけそれを解決していく力”の構成要素、スチューデント・スキル—時間管理を中心とする生活管理、人と関わる力	
3	課題を立てる	前回授業を踏まえた自身の学習と生活を検証し、学習、生活両面の自己課題を整理し、課題シートに記入する	
4	聞く	授業を受ける、ノートを取る、復習とは何をすることか	
5	読む	本や資料を読む	
6	読む	本や資料を読む(続)	
7	調べる	情報を探す	
8	考える	課題を見出す、解決の筋道を組立てる、論理を組立てる	
9	書く	レポートの書き方	
10	書く	レポートの書き方(続)	
11	書く	例題レポートの作成	
12	書く	例題レポートの作成(続)	
13	書く	例題レポートの完成	
14	情報技術	学生による授業アンケートのガイダンス、インターネット利用のルールとマナー	
15	まとめ	まとめ—課題はいかに追求されたか	

教科書	使用しない(プリント、ワークシート)
参考書	<p>「大学生活ナビ」多摩川大学コア・EYE教育センター(玉川大学出版部)2006</p> <p>「スタディ・スキル入門」天野明弘・太田勲他(有斐閣)2008、「理科系の作文技術」木下是雄(中公新書)1981</p> <p>「大学生諸君! 今求められる問題解決力」早川修(流通経済大学出版会)2008</p>

授業科目名	生 物 学	単 位 認 定 者	佐 藤 久 美 子
対 象 学 年	第 1 学 年	学 期	前 期
単 位 数	1 単 位 ( 1 5 コ マ )	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	講義
科 目 の 目 的	高等学校までの生物学の学習と、理学療法士の専門教育をつなぐために、生命現象と生体機能の基礎的理解を深めることを目的とする。
学 習 到 達 目 標	以下3事項について正確に理解する 1. 生体構成成分 2. 細胞の構造、機能と細胞の分化 3. 遺伝の分子メカニズム
関 連 科 目	解剖学、生理学、生化学
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	学習到達目標の達成度を測る内容の定期試験の結果及び時々行うミニテストの結果を加味して評価する。
準 備 学 習 の 内 容	高等学校で生物 を履修、または自己学習していること。

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準
			理学療法士
1	生命を支える物質 ・ その1・	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生物学の研究对象や方法</li> <li>・生命現象の特質</li> <li>・水と生命との関わり</li> <li>・タンパク質の構成単位、アミノ酸の構造と種類</li> <li>・タンパク質の構造と機能について</li> </ul>	
2	生命を支える物質 ・ その2・	<ul style="list-style-type: none"> <li>・炭水化物(糖質)の種類と役割</li> <li>・脂質の種類と役割</li> <li>・遺伝物質である核酸の種類と構造</li> <li>・無機質(無機塩類)の種類と役割</li> </ul>	
3	生命の単位 ・ その1・ ウイルス、原核細胞と 真核細胞	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ウイルス(大きさや形)</li> <li>・原核細胞と真核細胞の構造</li> <li>・真核細胞の膜の働きと細胞質基質の役割 細胞膜の構造と働き、細胞膜を介した物質の輸送、及び細胞質基質内で行われている種々の物質の合成、分解反応などについて</li> </ul>	
4	生命の単位 ・ その2・ 真核細胞	<ul style="list-style-type: none"> <li>・粗面小胞体と滑面小胞体の構造と機能、両者の関係及び粗面小胞体上で合成される蛋白質の特徴</li> <li>・ゴルジ体の構造と機能</li> <li>・小胞体とゴルジ体の関係</li> <li>・リソゾームの形成過程と種類、リソゾームに含まれる酵素の特徴、細胞内で果たす役割について</li> </ul>	
5	生命の単位 ・ その3・ 真核細胞	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ペルオキシソーム</li> <li>・ミトコンドリアの構造と機能</li> <li>・色素体</li> <li>・細胞骨格の種類とその役割について</li> </ul>	
6	生命活動とエネルギー ・ 酵素、光合成、呼吸	<ul style="list-style-type: none"> <li>・酵素の性質や特徴と酵素反応について</li> <li>・光エネルギーを利用して二酸化炭素から炭水化物を作り出す光合成とエネルギー運搬体ATPについて</li> <li>・生体のエネルギー産生とミトコンドリア(解糖系からTCA回路、電子伝達系によるエネルギーの産生)</li> <li>・産生されたエネルギーの行方</li> </ul>	
7	細胞の増殖・生殖細胞の形成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体細胞で見られる細胞分裂(体細胞分裂)と配偶子を形成する過程で見られる減数分裂について</li> <li>・細胞周期とS期、G2期、M期、G1期の各期に起こる形</li> </ul>	

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準
			理学療法士
8	細胞の分化と幹細胞 アポトーシスとネクロシス	<ul style="list-style-type: none"> <li>態的生化学的变化</li> <li>G1期の細胞の特徴について</li> <li>細胞の分化と各種幹細胞、胚性幹細胞、iPS細胞</li> <li>幹細胞の医療分野における応用の可能性について</li> <li>多細胞体の体制維持とアポトーシス</li> </ul>	
9	ヒト配偶子の形成、受精、発生概説	<ul style="list-style-type: none"> <li>ヒトの精子と卵子の形成</li> <li>キアズマ形成と遺伝子組み換えのメカニズムと意義</li> <li>ヒトの受精及び初期発生と胚葉の分化の概要</li> </ul>	
10	・生命の自己増殖・ 染色体の構造、遺伝子の本体DNAとその複製	<ul style="list-style-type: none"> <li>DNAから染色体へ</li> <li>DNA複製機構（DNAの開裂、プライマーの形成、リーディング鎖とラギング鎖、岡崎ピースとDNAポリメラーゼ、DNAリガーゼの役割）</li> </ul>	
11	遺伝情報と形質の発現 ・その1・	<ul style="list-style-type: none"> <li>遺伝情報と形質発現の機構について</li> <li>原核細胞と真核細胞における形質発現機構の相違</li> <li>真核細胞における形質発現の詳細について</li> </ul>	
12	遺伝情報の発現 ・その2・	<ul style="list-style-type: none"> <li>原核生物と真核生物における遺伝情報発現コントロール</li> <li>特定の時期（環境）に特定の遺伝子が発現する機構（あるいは発現しない機構）について</li> <li>性染色体の不活化</li> </ul>	
13	種々の要因によるDNAの変化と人体への影響	<ul style="list-style-type: none"> <li>放射線、化学薬品、食物添加物、化粧品等によるDNAの損傷機構や損傷によって引き起こされる影響</li> <li>生体の備わっているDNA修復機構について</li> </ul>	
14	ヒトの遺伝	<ul style="list-style-type: none"> <li>メンデルの法則とヒトの遺伝</li> <li>常染色体性遺伝病と伴性遺伝病、</li> <li>ミトコンドリア病、多因子遺伝病、</li> <li>染色体とその異常</li> <li>先天異常とその発症要因</li> </ul>	
15	まとめ		

教科書	人の生命科学 医歯薬出版株式会社
参考書	高校で生物を受講しなかった人へ ・生物図録 数研出版 ・総合図説生物 田中隆荘・田村道夫・田中昭男監修 第一学習社 高校で生物を受講した人へ ・はじめの一步のイラスト生化学・分子生物学 前野正夫・磯川桂太郎著 羊土社

授 業 科 目 名	化 学	単 位 認 定 者	西 菌 大 実
対 象 学 年	第 1 学 年	学 期	前 期
単 位 数	1 単 位 ( 1 5 コ マ )	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	講義
科 目 の 目 的	化学は基幹学問の一部を形成しており、医学との関連も深く密着している。高校化学を学ばなかった学生に対しても、理学療法士に必要な化学の基本を学ぶように進める。
学 習 到 達 目 標	医学に重要な生理学や医薬品の特質を深く理解できるようになる。また、専門職としての技能向上だけでなく、健康な生活をおくることの手助けとして、化学的理解が役立てられる。
関 連 科 目	
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	定期試験 ( 8 0 % )、出席・受講状況 ( 2 0 % )
準 備 学 習 の 内 容	自筆ノートの整理

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準
			理学療法士
1	物質の成り立ち	物質は何からできているか	
2	物質の成り立ち	元素、原子と分子	
3	物質の変化	化学反応、燃焼とはなにか	
4	物質の変化	酸化還元、エネルギーの出入り	
5	物質の状態	固体・液体・気体	
6	物質の状態	溶液、コロイド、イオン	
7	有機化合物	炭素の性質、炭化水素	
8	有機化合物	アルコール、有機酸、有機塩基	
9	高分子化合物	炭水化物、脂質	
10	高分子化合物	タンパク質	
11	高分子化合物	核酸と遺伝子	
12	生命と化学	生体高分子、酵素	
13	医薬品とは何か	生体に作用する物質	
14	医薬品とは何か	医薬品になるもの	
15	まとめ	内容を振り返ってまとめる	

教 科 書	「食を中心とした化学」【第3版】東京教学社
参 考 書	

授業科目名	物 理 学	単 位 認 定 者	横 井 利 男
対 象 学 年	第 1 学 年	学 期	前 期
単 位 数	1 単 位 ( 1 5 コ マ )	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	講義・演習実験
科 目 の 目 的	高等学校で物理関係の科目を履修していない学生を想定し、理学療法士として最小限必要な物理学の教養を身につけることを目的とする。
学 習 到 達 目 標	物理現象を分析的に追究し、物理学の基本的な概念や原理・法則の理解を深める。 古典的な物理現象について、定量的・数学的に解釈し、処理することができるようにする。
関 連 科 目	運動学 物理療法学など
成績評価方法・基準	試験等により、物理学の基本的な概念、原理、法則について理解の程度を評価する(70%) 毎時の出席票により、物理事象への興味・関心の広がりや深まりを評価する(30%)
準 備 学 習 の 内 容	前時までの理解がないと、本時の内容を理解することはできない。 前時までの復習をして、十分に理解しておくこと。

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準
			理学療法士
1	物理入門	物理学とは何か 物理量と単位 質量・距離・時間	
2	力と運動	運動と慣性 「重さ」と「力」	
3		運動の変化 運動量と力積	
4		速度と加速度	
5		重力の加速度・万有引力	
6		エネルギー 運動のエネルギー 位置のエネルギー	
		回転運動と剛体の力学	
7	熱現象	熱と温度 分子の運動と温度・圧力	
8		気体の性質 温度・圧力・体積の関係	
9		ものの暖まり方1 伝導・対流	
10	波と電磁波	ものの暖まり方2 放射	
11		電磁波としての光 波長の違い	
12		音の場合 電磁波の発生 電磁誘導	
13	現代物理学入門	原子の構造 電子・原子核	
14		原子核の構造 陽子・中性子 原子力発電など	
15	まとめ		

教 科 書	使用しない
参 考 書	授業時に紹介する

授業科目名	解剖学	単位認定者	内藤延子
対象学年	第1学年	学期	前期
単位数	2単位(30コマ)	必修・選択	必修

指導方法	講義(30コマ)・骨実習(講義時間外に各自で行い、スケッチを提出する) 【骨実習の内容:骨標本の全ての骨について、形態的な特徴をスケッチする】
科目の目的	理学療法を学ぶための最も基本的な知識(骨格系・筋系・神経系・脈管系の構造と機能)を習得する。
学習到達目標	1. 理学療法を学ぶための基礎知識(骨格系・筋系・神経系・脈管系)について説明できる。 2. 身体の動きとその作用部位(関節・筋肉・神経)の関係を説明できる。
関連科目	解剖学、生理学、運動生理学、運動学、各臨床科目
成績評価方法・基準	定期試験・小テスト・骨実習スケッチ(三者の総合で100%)
準備学習の内容	人体構造の基礎知識(骨格系・筋系・神経系・脈管系)は前期中にマスターしなければならない。このため、各回の授業内容については、必ず復習をして、十分に理解しておくこと。

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準
			理学療法士
1	1.解剖学概説	1.『自分の身体を知ろう』 身近な身体情報を整理してみよう。	【専門基礎】 -1.解剖学 A 総論 a 定義、目的、分類 B 骨格系 a 骨の構造と分類 b 骨吸収と骨形成 c 関節の構造と分類 d 各部の骨・腱・靭帯 C 筋系 a 筋の構造と形態 b 各部の筋・腱・靭帯 D 神経系 a 中枢神経系 b 末梢神経系 I 断層解剖 a 中枢神経系 b 筋・骨格・末梢神経系
2			
3			
4	2.上肢の構成	2.骨実習ガイダンス 上肢の『骨格・関節・靭帯・筋系・神経系・脈管系の構造と機能』	
5			
6			
7			
8			
9	3.下肢の構成	下肢の『骨格・関節・靭帯・筋系・神経系・脈管系の構造と機能』	
10			
11			
12			
13	4.頭部・体幹の構成	頭部・体幹の『骨格・関節・靭帯・筋系・神経系・脈管系の構造と機能』	
14			
15			
16			
17	5.脈管系の構成	心臓の構造と機能、 血管系(動脈系・静脈系)の構造と機能 リンパ系の構造と機能	
18			
19			
20			
21	6.神経系の構成	神経系の構造と機能 1.中枢神経系(脳・脊髄と伝導路) 2.末梢神経系(体性神経系・神経叢・筋支配神経) 3.自律神経系(内臓支配神経:交感・副交感神経)	
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30	まとめ(90分)	全範囲	

教科書	・『ネッター解剖学アトラス』(訳)相磯貞和(南江堂) ・『解剖学講義』伊藤隆(南山堂)、・『解剖トレーニングノート』竹内修二(医学教育出版社)
参考書	・『イラスト解剖学』松村譲児(中外医学社)

授業科目名	解剖学	単位認定者	内藤延子
対象学年	第1学年	学期	後期
単位数	1単位(15コマ)	必修・選択	必修

指導方法	講義(15)[随時、模型を利用して、立体的に理解する]
科目の目的	解剖学を補足する。生命活動を担う内臓系の構造と機能を理解し、脈管系・自律神経系・内分泌系が複合的に作用していることを学習する。
学習到達目標	1. 体幹部の内臓の配置と構造を立体的に説明できる。 2. 身体の調節機能が脈管系・自律神経系・内分泌系とどのように関係しているかを説明できる。 3. 疾患、病態との関係を説明できる。
関連科目	解剖学、生理学、運動生理学、各臨床科目
成績評価方法・基準	定期試験・小テスト(両者の総合で100%)
準備学習の内容	内臓諸器官の構造と機能を理解するためには、次の2点に注目していくことが重要。 1. 内臓器官の構造と機能は血管系と密接に関連している。 2. 内臓器官の機能は自律神経と内分泌系によって調節されている。

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準
			理学療法士
1	脈管系・自律神経系	復習テスト(30分) 胎生期の循環器系	[専門基礎] -1 解剖学 E 脈管系 a 心臓 b 動脈系 c 静脈系 d リンパ系 F 内臓諸器官 a 消化器 b 呼吸器 c 泌尿・生殖器 d 内分泌腺 G 感覚器 I 断層解剖 c 内臓諸器官
2	消化器系	口腔-食道-胃-小腸-大腸-肛門	
3		附属腺(肝臓・胆嚢・膵臓)	
4			
5			
6	呼吸器系	気道系・肺	
7			
8	泌尿器系・生殖器系	泌尿器系・男性生殖器・女性生殖器	
9			
10			
11	内分泌系	視床下部-下垂体系	
12	感覚器系	外皮・視覚器・平衡聴覚器・嗅覚器・味覚器、	
13			
14			
15	まとめ(90分)	全範囲	

教科書	・『ネッター解剖学アトラス』(訳)相磯貞和(南江堂) ・『解剖学講義』伊藤隆(南山堂)、 ・『解剖トレーニングノート』竹内修二(医学教育出版社)
参考書	・『イラスト解剖学』松村譲児(中外医学社)、

授業科目名	解剖学実習	単位認定者	小林 寛
対象学年	第 2 学年	学期	通年
単位数	1 単位 ( 2 2 . 5 コマ )	必修・選択	必修

指導方法	講義
科目の目的	人体を構成する諸組織に関する基本的な知識を習得する。
学習到達目標	人体を構成する組織について基本的事項を説明できる。
関連科目	解剖学、解剖学
成績評価方法・基準	定期試験 60%、課題 20%、出席 20%
準備学習の内容	教科書の授業予定の部分を読んでください。

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準
			理学療法士
1	内分泌系	内分泌の一般的な構造、下垂体、松果体	[専門基礎] -1 解剖学 B 骨格系 a 骨の構造と分類 b 骨吸収と骨形成 c 関節の構造と分類 d 各部の骨・腱・靭帯 C 筋系 a 筋の構造と形態 b 各部の筋・腱・靭帯 D 神経系 a 中枢神経系 b 末梢神経系 E 脈管系 a 心臓 b 動脈系 c 静脈系 d リンパ系 F 内臓諸器官 a 消化器 b 呼吸器 c 泌尿・生殖器 d 内分泌腺 G 感覚器 J 組織 a 細胞の構造 b 発生
2		甲状腺、上皮小体、副腎、消化器系における内分泌	
3	皮膚	表皮、真皮、皮下組織	
4		角質器、皮膚腺、皮膚の知覚装置	
5	感覚器系	視覚器	
6		平衡聴覚器	
7		味覚器、嗅覚器	
8	細胞	細胞の構造、細胞小器官、細胞の活動、細胞の一生	
9	上皮組織	上皮組織の構造、上皮組織の分類	
10		腺	
11	支持組織	結合組織	
12		軟骨組織、骨組織	
13	筋組織	骨格筋組織	
14		心筋組織、平滑筋組織	
15	神経組織	神経細胞、神経線維、シナプス	
16		中枢神経系、末梢神経系	
17	脈管系	血管、心臓、リンパ管系、血液	
18	消化器	消化管の組織構造	
19	呼吸器	呼吸器の組織構造	
20	泌尿器	泌尿器の組織構造	
21	生殖器	生殖器の組織構造	
22	まとめ		

教科書	入門組織学、牛木辰男、南江堂
参考書	

授業科目名	表面解剖学と触診法	単位認定者	高橋正明
対象学年	第1学年	学期	後期
単位数	1単位(15コマ)	必修・選択	必修

指導方法	高橋、蛭間、加藤、仲保、黒川により演習形式で実践的体表解剖を指導する。
科目の目的	理学療法士は運動器およびその機能の障害についての専門家である。その専門性を4年かけて学ぶわけであるが、その中の技術領域において最初に習得すべきことが体表解剖の知識と身体部位を体表面から触知できる能力であり、その修得がこの科目の第一義的目的である。また、運動学1と同時並行で授業をすすめ、人の運動を可能にする構造と機能の関連をより深くかつ実践的に理解できるようになることも目的としている。
学習到達目標	1. 骨の部位、関節裂隙、靭帯、筋、腱、動脈を触知により区別できる。 2. 体表から触れることができるそれらの部位を解剖学アトラスで参照できる。 3. それらの名称を述べるができる。
関連科目	関連し合う科目 解剖学、解剖学、運動学、運動学、
成績評価方法・基準	実技試験の正解率60%以上および演習参加への積極性を加えて評価する。
準備学習の内容	初回に触診マニュアルを配布する。当日の触診項目を解剖学アトラスでイメージ化して授業を受ける。

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準
			理学療法士
1	オリエンテーション 手・指	マニュアル配布 オリエンテーション 手・指の体表解剖演習と触診実習	【専門基礎】 -1 解剖学 H 体表解剖 a 動脈 b 神経 c 筋 d 骨 e 関節
2	手・指	手・指の体表解剖演習と触診実習	
3	前腕	前腕の体表解剖演習と触診実習	
4	肘・前腕	肘・前腕の体表解剖演習と触診実習	
5	肩甲帯・上腕	肩甲帯・上腕の体表解剖演習と触診実習	
6	肩甲帯	肩甲帯の体表解剖演習と触診実習	
7	頭・頸部	頭・頸部の体表解剖演習と触診実習	
8	体幹	体幹の体表解剖演習と触診実習	
9	骨盤	骨盤の体表解剖演習と触診実習	
10	骨盤	骨盤の体表解剖演習と触診実習	
11	大腿	大腿の体表解剖演習と触診実習	
12	膝	膝の体表解剖演習と触診実習	
13	下腿	下腿の体表解剖演習と触診実習	
14	足部	足部の体表解剖演習と触診実習	
15	復習	質問形式により知識の確認をする	

教科書	「図解 四肢と脊柱の診かた」Hoppenfeld, H 著 野島元雄監訳 (医学書院) 「ネッター解剖学アトラス」相磯貞和 (南江堂)
参考書	「解剖学カラーアトラス 第6版」(医学書院)

授業科目名	生 理 学	単 位 認 定 者	洞 口 貴 弘
対象学年	第 1 学 年	学 期	前 期
単 位 数	1 単 位 ( 1 5 コ マ )	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	講義
科 目 の 目 的	人体の各部分の構造と機能を学び、医療職に必要な基礎知識を身につける。
学 習 到 達 目 標	人体各部の機能および、それを生み出す基本構造と仕組みを確認すること。 これらを発展させ疾患にたいしたときの機能の低下、不安定状態などをよみとる基礎能力を養う。
関 連 科 目	生理学、解剖学、生化学、運動学、運動生理学
成績評価方法・基準	毎回授業開始直後に前回の講義内容に関する簡単な小テストを行う(出欠の意味も含めて)。 小テストの平均点×0.6+期末試験の点数×0.4 で最終的な評価を決定する。
準 備 学 習 の 内 容	

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準
			理学療法士
1	ガイダンス 生理学の基礎の基礎	生理学講義を受講するにあたって 細胞・組織・器官	[専門基礎] -2 生理学 A 総論 a 定義、目的、分類 B 細胞生理(分子生物学と再生医学の基礎を含む) C 筋 a 筋線維の構造と機能 b 筋収縮 D 神経 a 神経線維の構造 b 興奮と伝導 c シナプス伝達 d 反射 e 受容器-感覚神経伝達 f 神経-筋結合部の伝達 g 中枢神経 h 末梢神経 E 感覚 a 体性感覚(皮膚感覚、深部感覚) b 内臓感覚 c 視覚 d 聴覚、平衡感覚 e 嗅覚・味覚 F 発音・構音・言語 a 発生器官 b 言語中枢
2	神経の基本的機能	神経細胞の形態、興奮伝導、興奮伝達	
3			
4	筋肉の基本的機能	筋細胞の形態と興奮、骨格筋の収縮	
5			
6	神経系の機能	末梢神経系、中枢神経系、内臓機能の調節、運動機能の調節、脳の高次機能	
7			
8			
9			
10	内分泌系の機能	ホルモンの一般的特徴、内分泌器官の機能	
11			
12			
13			
14			
15			

教 科 書	「シンプル生理学 第6版」貴邑富久子、根木英雄(南江堂)
参 考 書	「標準生理学」(医学書院) 「トートラ 人体解剖生理学」(丸善) 「ギャノン生理学」(西村書店)

授 業 科 目 名	生 理 学	単 位 認 定 者	洞 口 貴 弘
対 象 学 年	第 1 学 年	学 期	後 期
単 位 数	1 単 位 ( 1 5 コ マ )	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	講義
科 目 の 目 的	人体の各部分の構造と機能を学び、医療職に必要な基礎知識を身につける。
学 習 到 達 目 標	人体各部の機能および、それを生み出す基本構造と仕組みを確認すること。 これらを発展させ疾患にたいしたときの機能の低下、不安定状態などをよみとる基礎能力を養う。
関 連 科 目	生理学、解剖学、生化学、運動学、運動生理学
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	毎回授業開始直後に前回の講義内容に関する簡単な小テストを行う(出欠の意味も含めて)。 小テストの平均点×0.6+期末試験の点数×0.4 で最終的な評価を決定する。
準 備 学 習 の 内 容	

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準
			理学療法士
1 2 3	感覚の生理学	様々な感覚の受容と知覚のメカニズム	[専門基礎] -2生理学 H 自律神経 a 交感神経系・b 副交感神経系 I 呼吸 a 呼吸運動(肺の内圧変化、容積変化を含む) b ガス交換とガスの運搬 c 酸塩基平衡 d 呼吸中枢 J 循環(心臓の機能を含む) a 循環の調節(血液とリンパの循環) b 心筋の特性 c 心臓拍動の自動性と心拍出量 d 心臓の刺激伝達系 K 血液・免疫 a 血液の成分 b 血液成分の生成と分化 c 血液凝固と線溶現象 d 免疫機能 L 咀嚼・嚥下、消化、吸収 a 唾液分泌の機序 b 嚥下運動と嚥下反射中枢 c 胃内消化(胃液分泌、蠕動運動を含む) d 腸内消化吸収 e 肝臓・胆嚢・膵臓の機能 M 排尿 a 尿の性状 b 糸球体・尿管の機能 c 排尿機構(排尿中枢を含む) N 排便 O 内分泌・栄養・代謝(生化学の基礎を含む) a ホルモンとビタミン b 糖、蛋白、脂肪代謝 c 代謝率(基礎・エネルギー代謝率を含む) P 体温調節 a 体温調節中枢・b 熱の産生と放出の機序 Q 生殖 a 勃起、射精・b 排卵、月経、妊娠、出産 R 老化
4 5	消化と吸収	消化管の基本構造と機能、調節	
6 7 8 9	血液の生理学 循環の生理学	血液の組成とその機能 心臓血管系の基本構造と機能、調節	
10 11	呼吸の生理学	呼吸器系基本構造と機能、調節	
12 13 14	尿の生成と排泄および体液とその調節	腎臓の構造と機能、調整、尿生成、蓄尿と排尿 体液の恒常性を維持する仕組み	
15	体温とその調節		

教 科 書	「シンプル生理学 第6版」貴邑富久子、根木英雄(南江堂)
参 考 書	「標準生理学」(医学書院) 「トートラ 人体解剖生理学」(丸善) 「ギャノン生理学」(西村書店)

授業科目名	生理学実習	単位認定者	洞口 貴 弘
対象学年	第 2 学年	学期	前期
単位数	1 単位 ( 2 2 . 5 コマ )	必修・選択	必修

指導方法	実習、講義
科目の目的	主要臓器の機能および、運動器、感覚器とその伝導路を確認・理解する
学習到達目標	心肺機能の把握、測定器具（心電図計、スパイロメーターなど）の取扱、データの判読 動物を使い、神経路とその働きを理解する
関連科目	生理学 ・ 、解剖学 ・ 、運動学 ・ 、運動生理学
成績評価方法・基準	出席とレポート、小テスト
準備学習の内容	

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準
			理学療法士
1	ガイダンス	生理学実習にあたっての注意	[専門基礎] -2 生理学 C 筋 a 筋線維の構造と機能 b 筋収縮 D 神経 a 神経線維の構造 b 興奮と伝導 E 感覚 a 体性感覚(皮膚感覚、深部感覚) b 内臓感覚 c 視覚 d 聴覚、平衡感覚 e 嗅覚・味覚 I 呼吸 a 呼吸運動(肺の内圧変化、容積変化を含む) b ガス交換とガスの運搬 c 酸塩基平衡 d 呼吸中枢 J 循環(心臓の機能を含む) a 循環の調節(血液とリンパの循環) b 心筋の特性 c 心臓拍動の自動性と心拍出量 d 心臓の刺激伝達系
2		レポートの書き方 機器(LEG-1000)の使用法	
3	筋電図	上腕より筋電図を記録し、運動と筋の関わりを理解する	
4			
5	誘発筋電図	神経を電気刺激することで筋電図を誘発させ、中枢および末梢神経系と筋を理解する	
6			
7	心電図と血圧	心電図および血圧の基本原則、測定の基礎を学ぶ	
8			
9	骨格筋の収縮	神経筋標本を作製し、刺激の大きさや頻度と筋収縮様式との関連を理解する	
10			
11	神経の興奮と伝導	実験動物を用いて、神経の基本的な性質を理解する	
12			
13	呼吸	スパイロメーターを用いて、呼吸機能の測定と解析を行う	
14			
15	脳波	頭部に電極をつなげ、脳の神経活動を経皮的に記録する	
16			
17	感覚	体性感覚等の性質を学ぶ	
18			
19	Visual Basic for Application (VBA)	Microsoft Excelを用いて、実験データ解析に有用な簡単なプログラミングスキルを習得する	
20			
21			
22			
23	まとめと小テスト		
		状況により、順番・内容を変更する場合があります	

教科書	
参考書	「標準生理学」(医学書院) 「トートラ 人体解剖生理学」(丸善) 「ギャノン生理学」(西村書店)

授業科目名	運動生理学	単位認定者	江口勝彦
対象学年	第3学年	学期	後期
単位数	1単位(15コマ)	必修・選択	必修

指導方法	講義・実技演習
科目の目的	<p>理学療法は、英語でPhysical Therapy(主に米国を中心に)、Pysiothrapy(主に英国を中心に)と表されるが、このPhysio-とは、PhysiologyのPhysio-であり、「治療介入により生理学的作用を得るもの」と理解できる。理学療法を学ぶ上で、「生理学」がどれほど重要なものであるか理解できよう。</p> <p>「生理学」の広い領域の中でも理学療法においては、運動の制御に関する「神経生理学」となると、運動の発現や維持に関するこの「運動生理学」は大変重要な領域であり、深い理解が求められる。</p> <p>人体の静的な状態での機能を学ぶ基礎医学系の「生理学」の学習を礎として、応用生理学の入り口として、運動時の人体生理について学ぶ。</p> <p>「運動生理学」を表す英語には「Exercise Physiology」と「Work Physiology」と二つがあるが、本講義で取り扱うのは、前者である。</p> <p>「運動生理学」の基礎は、「運動学」と「生理学」である。通常、「生理学」は、安静時を中心とした人体の正常生理学であるのに対し、運動生理学は、運動する(行っている)人体の生理学であるといえる。この分野は、ベインブリッジ「筋運動の生理」(1919)、A.V. ヒルの「ヒトの筋運動」(1927)などが始まりであろうとされているが、その後オストランドやサルティンらが確立してきたものである。本邦においては吉田章信の「運動生理学」(1916)が著され、東京大学の猪飼道夫はこの分野の牽引者として多くの弟子を育て、現在それらの弟子たちが更に多くの後輩を輩出している。</p> <p>本講義においては、特に理学療法学上、重要かつ必須とされる運動生理学の中から「運動と筋」、「運動と呼吸」、「運動と循環」、「運動とエネルギー代謝」に関する正常生理学を中心に学習する。特に、呼吸・循環を含むエネルギー代謝について理解し、各種運動療法を施行する上で生体に対する運動の影響、さらには、運動の効用として各種スポーツ、メタボリックシンドローム対策など健康増進分野の理学療法を考える。</p> <p>また、理学療法士が行う基礎研究では、運動学に次いで、この分野が多いことから、興味を持って学び、卒業研究さらには卒後の研究を行うにあたり、基礎知識を形成することも目指している。</p>
学習到達目標	<p>「運動と筋」、「運動と呼吸」、「運動と循環」、「運動とエネルギー代謝」に関する正常生理学について、基礎事項を理解し、運動時の各種反応、身体変化を生理学的に理解できることを到達目標とする。</p> <p>各单元ごとに、到達目標・行動目標を示すとともに、学生自身が学習の到達状況を知る為に、形成的評価の一部としてミニクイズを実施する。</p> <p>到達度の最低ラインは国家試験問題を理解できる程度とする。</p>
関連科目	<p>関連し合う科目・解剖学，生理学，生化学，栄養学</p> <p>この科目が基礎となる科目・各理学療法評価・治療学</p>
成績評価方法・基準	<p>形成的評価(ミニクイズ)，総合評価(筆記試験)，出席率，出席態度などを総合的に評価する。ミニクイズおよび筆記試験では、すべてにおいて毎回60%を合格最低ラインと定める。欠席時の点数は0点と扱う。講義期間を通して任意に出席を確認する。出席を確認した内、出席率2/3に満たない場合は、総合評価の試験を受けることができない。講義の邪魔になるような態度(遅刻・私語・他)がみられた場合は、受講を許可しない。</p>
準備学習の内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 毎回、事前に講義予定部分に関する「生理学」の復習を十分にしておくこと。</li> <li>2) 該当部分の生理学(静的な人体正常生理)についても、若干触れるが、基本的には既に理解しているものとして講義を進める。</li> <li>3) ほぼ毎回、講義の最初(あるいは最後)に、基礎事項と前回の講義内容の理解度を確認する為にミニクイズを行う。復習を必ず行うこと。</li> <li>4) 講義時間内に質問などを行い、理解することが望ましいが、理解不足や疑問点などは、参考図書などで補い、それでもわからない場合はオフィスアワー(別途指示)に研究室を訪ねてくること。</li> </ol>

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準
			理学療法士
1	コースオリエンテーション 運動生理学概論 1	オリエンテーション 学習方法などについて 理学療法と運動生理 運動生理学の定義・分類, 体力とは	[専門基礎] -2 生理学 G 運動 a 神経筋運動単位 b 随意運動 c 筋緊張 d 運動における生体の生理変化 -3 運動学 A 総論 e 運動とエネルギー代謝 f 運動と呼吸・循環 -3 リハビリテーション医学 C 機能障害の評価とリハビリテーション f 代謝・内分泌障害 g 発達障害 h 構音障害 -1 保健医療福祉 D 関連法規 c 福祉関係法規 身体障害者福祉法 知的障害者福祉法 老人福祉法  [専門] -2 理学療法の基礎 A 運動発現 a 運動の発現機構 b 関節構造、関節可動域 c 関節構造、関節可動域 C 持久性 a 運動の維持機構 b 呼吸循環 c 代謝 d 疲労 e 消化・吸収
2 ~ 4	筋の運動生理学	身体運動と筋	
5 ~ 7	呼吸の運動生理学	呼吸運動と呼吸生理 運動と呼吸	
8 ~ 10	循環の運動生理学	身体運動と循環	
11	エネルギー代謝と運動生理学	嫌気性代謝と好気性代謝 代謝当量 (METS) エネルギー消費と運動負荷試験 持久性トレーニング	
12	まとめ	* 以上の講義の他に, グループによる運動負荷の実技演習を行う (事前学習、実習、実習のまとめで講義3回分に相当)。なお, 実施方法の詳細は講義の中で別途指示する。	

教科書	<ul style="list-style-type: none"> <li>* 特定の教科書指定はしないが, ある程度まとまったもの (下記「参考書」を参照) の中から各自自分に合ったものを購入すること。</li> <li>* 教科書によっては, 必要な箇所が抜けていたり, 逆に初学者にとっては難しかったりするので, 印刷教材 (運動生理学講義ノートA4版, 約100頁) を主に使用する。 (各自ファイルなどに綴じて製本すること)</li> <li>* 生理学の教科書, 参考書, 運動学教科書なども適宜参照する事。</li> </ul>
参考書	<p>&lt;教科書的&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「運動生理学 第3版・リハビリテーション医学全書3-」石川友衛 (医歯薬出版) 1998。 2008年度まで教科書指定していた。ややわかりづらい箇所がある。</li> </ul> <p>&lt;入門書&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「入門運動生理学 (第2版)」勝田 茂 編著 (杏林書院) 2001。</li> <li>・「運動生理学概論」浅野勝己 編著 (杏林書院) 2002。</li> <li>・「イラスト 運動生理学」浅山正己, 彼末一之, 三木健寿 編著 (東京教学社) 2000。</li> <li>・「運動生理学入門」猪飼道夫 (杏林書院) 1979。・古典的名著!</li> </ul> <p>&lt;中 堅&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「体力トレーニング -運動生理学的基礎と応用-」宮村実晴, 矢部京之助編集 (真興交易医書出版部) 1986。</li> <li>・「-運動・生理・生化学・栄養- 図説運動の仕組みと応用 (第2版)」中野昭一 編集 (医歯薬出版) 1996。</li> <li>・「改訂最大酸素摂取量の科学」山地啓司 (杏林書院) 1992年。</li> </ul> <p>&lt;詳解・上級&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「最新運動生理学 -身体パフォーマンスの科学的基礎-」宮村実晴 編集 (真興交易医書出版部) 1986。</li> <li>・「新 運動生理学 (上・下)」宮村実晴 編集 (真興交易医書出版部) 2001。・最先端の研究成果を含む</li> </ul> <p>&lt;その他&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・一般的な生理学書 (医科生理学展望; 丸善, 真島の生理学; 文光堂など)</li> <li>・大修館書店から出ている運動生理学書など。</li> <li>・NAPから出ている運動生理学書など。</li> </ul>

授 業 科 目 名	生 化 学	単 位 認 定 者	牛 島 義 雄
対 象 学 年	第 1 学 年	学 期	後 期
単 位 数	1 単 位 ( 1 5 コ マ )	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	教科書、プリントなどを使用した講義
科 目 の 目 的	対象とする人間の体に関し、「根拠に基づいた理学療法」を目指し、化学的視点から基本的で、かつ、臨床に役立つ基礎的知識を習得する。
学 習 到 達 目 標	生体を構成する化学物質にはどのようなものがあるかを学び、生体内で起こっている生物化学的反応が理解でき、また、それらが疾病の際にどのように変化するかを説明できる。
関 連 科 目	化学、生物学、生理学、栄養学、薬理学
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	学期末試験、レポートなどによる評価。
準 備 学 習 の 内 容	生き物であるヒトを対象に、その構成物質、働きを化学的に理解するので、生物学と化学の基本的知識を必要とする。

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準
			理学療法士
1	生体分子、細胞とエネルギー生成	生体を構成する元素・分子にはどのようなものがあるか。細胞内小器官の役割分担、ATPの生成と利用等を概説する。	【専門基礎】 -2 生理学 0 内分泌・栄養・代謝（生化学の基礎を含む） a ホルモンとビタミン b 糖、蛋白、脂肪代謝 c 代謝率（基礎・エネルギー代謝率を含む）
2	タンパク質の構造、機能と代謝	タンパク質を構成するアミノ酸の種類と性質。タンパク質の構造と機能について、病気との関連について例を挙げて述べる。	
4	酵素の性質と働き	酵素はどのようにして機能するのか。その特性、種類、作用機序、血清酵素の診断への利用等を説明する。	
5	ビタミンと疾患	脚気、懐血病や鳥目が生じる生化学的機序は？	
6	糖質の性質と代謝	糖とはどのようなものか。その働きは？食事摂取不可となると何が代わりに代謝されるのか。また、糖尿病の病態、診断等について話す。	
7			
8	脂質の存在場所、働き、代謝	脂質にはどのようなものがあるのか。それらはどこに存在し、どのような働き、どう代謝されるかを説明。	
9	エネルギー生成機序	生体ではエネルギーはどこで、どのようにして作られるのかについて解説する。	
10	ホルモンと疾患	ホルモンにはどんな物質があり、どこで作られ、どこで、どのように働くのか概説する。	
11	生体内における核酸の役割	子は親に何故似るのか。大きなDNAはどのようにして核に存在するのか。がんの正体は？遺伝病は？	
12	免疫と免疫異常	生体は細菌、ウイルスの侵襲にどう対応するか。抗体や白血球の防御機構はどんなものか説明する。	
13	活性酸素と疾患	活性酸素にはどんなものがあるのか。どこで作られ、どのようなものと反応するか。それらに対する生体の防御機構はどんなものか等について解説する。	
14	まとめ	まとめ	
15			

教 科 書	第3版 マクマリー生物有機化学 生化学編マクマリー等 監訳 菅原二三男 丸善株式会社
参 考 書	レーニンジャーの生化学「上」、「下」第4版 山梨郁男 監修（廣川） ハーパー・生化学（原著27版）R K Murrayら著（丸善）

授業科目名	運動学	単位認定者	高橋正明
対象学年	第1学年	学期	後期
単位数	2単位(30コマ)	必修・選択	必修

指導方法	講義
科目の目的	人の身体運動を機能・構造の視点から分析するのに必要となる基本的な知識や概念を学び、自分自身の関節運動を説明することができる。
学習到達目標	1. 関節運動の原則とバランス保持について説明できる。 2. 体幹・肢節の関節運動を機能・構造的見方で説明できる。 3. 骨、靭帯、筋の関節運動における役割を説明できる。 4. 関節の一般的構造物を可動性と安定性の要素で分類できる。
関連科目	関連し合う科目 解剖学 解剖学 表面解剖学と触診法 生理学 この科目が基礎となる科目 理学療法評価学 運動器系理学療法評価・治療学 神経系理学療法評価・治療学 臨床運動学 日常生活活動学 他
成績評価方法・基準	機能解剖に関する6回の小テスト(クイズ)を80%、骨、筋、関節、力学等の一般的な内容についての定期試験を20%として総合点を算出し、60点以上を合格とする。
準備学習の内容	解剖学用語の知識を前提に授業を進めるため、それらを教科書で確認しておく。

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準
			理学療法士
1	オリエンテーション	運動学とは? 関節運動 形態と機能	[専門基礎] -3 運動学 A 総論 a 定義、目的 b 力の基礎 c 運動器の構造と機能(機能解剖を含む) B 四肢と体幹の運動 A 顔面・頭部の運動 b 上肢帯と上肢の運動 c 下肢帯と下肢の運動 d 体幹の運動 e 呼吸運動  [専門] -2 理学療法の基礎 A 運動発現 a 運動の発現機構 b 関節構造、関節可動域 c 筋収縮、筋機能 B 運動制御 a 運動の制御機構 b 随意運動のメカニズム c 中枢神経系 d 末梢神経系 F 運動学 a 動作の構造 b 基本動作 c 歩行 d バイオメカニクス H 運動学習 a システム論 b 条件付け・フィードバック c 可塑性、再組織化
2	および運動の原則	安定性と可動性 運動の法則 軸旋運動 運動連鎖	
3	運動器系組織	生体力学 てこ バランス 支持基底面と重心 骨・関節・靭帯の	
4	筋の発生と組織	収縮のメカニズム	
5	筋力	収縮様式 筋張力 共同運動	
6	機能解剖足部	足関節の形態と運動	
7	足部・の形態と機能		
8	筋の働き		
9	アーチ構造		
10	機能解剖膝関節	膝関節の形態と機能 (足部・足関節クイズ)	
11	半月・靭帯の構造と機能		
12	筋の働き		
13	立位での役割		
14	機能解剖股関節	股関節の形態と機能 (膝関節クイズ)	
15	股関節の運動		
16	筋の働き		
17	股関節の力学		
18	機能解剖体幹	脊柱の形態と機能 (股関節クイズ)	
19	脊柱の運動		
20	筋の働き		
21	呼吸運動		
22	骨盤の運動		
23	機能解剖肩甲帯	肩甲帯・肩関節の機能と構造(体幹クイズ)	
24	肩甲帯の関節と運動		
25	肩関節の運動		
26	筋の働き		
27	機能解剖肘関節	肘関節の形態と運動 (肩甲帯クイズ)	
28	筋の働き		
29	まとめ	科目全体のポイントの復習	
30			

教科書	「基礎運動学 第6版」中村隆一、他 (医歯薬出版)
参考書	「関節の生理学 , , 」Kapandji LA 著 荻島秀夫訳 (医師薬出版) 「筋骨格系のキネシオロジー」D.A. Neumann 著 (医師薬出版) 「Kinesiology」Oatis CA 著 (Lippincott Williams & Wilkins)

授 業 科 目 名	運 動 学	単 位 認 定 者	高 橋 正 明
対 象 学 年	第 2 学 年	学 期	前 期
単 位 数	1 単 位 ( 1 5 コ マ )	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	講義と演習 高橋、木村、仲保による
科 目 の 目 的	運動学 で触れなかった手指および顎関節の機能解剖, および反射と運動, 動作分析(基本動作, 歩行動作を含む)、運動学習について学習する。
学 習 到 達 目 標	1. 手指, 顎関節の運動を機能・構造的見方で説明できる。 2. 運動における感覚の役割を説明できる。 3. 運動に関する神経組織の役割を説明できる 4. 基本動作の見方, 正常歩行動作性と安定性の要素で分類できる。
関 連 科 目	関連し合う科目: 解剖学 解剖学 表面解剖学と触診法 生理学 この科目が基礎となる科目: 理学療法評価学 運動器系理学療法評価・治療学 神経系理学療法評価・治療学 臨床運動学 日常生活活動学 他
成績評価方法・基準	機能解剖については小テスト, それ以外の内容については定期試験に含む。さらに演習への参加度を加味する。
準 備 学 習 の 内 容	機能解剖については運動学 と同様、その他については教科書の関連科目を熟読しておくこと

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準
			理学療法士
1	機能解剖手・指関節	手関節の形態と機能	【専門基礎】 -3 運動学 C 運動分析・動作分析 D 姿勢 E 歩行 F 運動制御と運動学習  【専門】 -2 理学療法の基礎 B 運動制御 a 運動の制御機構 b 随意運動のメカニズム c 中枢神経系 d 末梢神経系 F 運動学 a 動作の構造 b 基本動作 c 歩行 d バイオメカニクス H 運動学習 a システム論 b 条件付け・フィードバック c 可塑性、再組織化
2	"	指の形態と機能	
3	"	筋の働き 手の役割	
4	機能解剖顎関節	咀嚼運動と顎関節	
5	小テスト	授業の前半で機能解剖の小テスト	
6	神経組織と反射	中枢神経の働き	
7	"	反射、反応、姿勢反射と立ち直り反応、	
8	感覚、バランス 基本動作(演習)	姿勢保持と平衡反応、随意運動 足関節の戦略と股関節の戦略、固有感覚、前庭覚 正常な姿勢、寝返り、起き上がり、立位動作 足関節と股関節の戦略、固有感覚、前庭覚外乱の体験	
9	正常歩行動作	歩行決定要因	
10	"	歩行周期	
11	"	筋活動、力学的分析	
12	運動学習	記憶と情報処理	
13	"	スキーマ理論	
14	"	運動制御と自由度	
15	まとめ	まとめ	

教 科 書	「基礎運動学 第6版」中村隆一、他 (医歯薬出版)
参 考 書	「関節の生理学 , , 」Kapandji LA 著 荻島秀夫訳 (医歯薬出版) 「筋骨格系のキネシオロジー」D.A. Neumann 著 (医歯薬出版) 「Kinesiology」Oatis CA 著 (Lippincott Williams & Wilkins) 「セラピストのための運動学習ABC」大橋ゆかり著 (文光堂)

授業科目名	運動学実習	単位認定者	江口勝彦
対象学年	第2学年	学期	前期
単位数	1単位(22.5コマ)	必修・選択	必修

指導方法	講義、演習、実習
科目の目的	運動学実習は3部からなる。第1部はレポートを作成するために必要な、単位や数値のまるめ方、レポートの構成や体裁などを学び、自分自身の歩行に関する測定実習を行い、身体動作を運動としてとらえる視点と定量的にとらえるということ学ぶ。第2部は身体重心の位置や重心動揺、姿勢保持時の各肢節間のアラインメントの測定など自分自身を対象とした測定実習を行い、基本的姿勢と動作について力学的理解を深める。第3部は運動や動作を解析する各種手法についてグループで実習し、運動学における分析法を修得する。
学習到達目標	<p>第1部 講義と個人実習1</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. レポート作成法(構成, SI 単位, 精度・誤差, 数値のまるめ, KJ 法, 文献利用, 体裁など)</li> <li>2. 直線歩行を行い, 時間と歩数から歩行速度, 歩幅, 歩行率を算出することができる。</li> <li>3. 5種類の異なる歩行速度でそれぞれ3分間歩行し, 歩行効率を求め最も歩行効率が良い速度を探る。</li> </ol> <p>第2部 個人実習2</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 二つの方法での身体の重心位置を推定できる。</li> <li>2. 立位時の圧中心移動を計測し, 解釈できる。</li> <li>3. 立位における身体肢節のアライメントを評価できる。</li> <li>4. 身体の形態測定ができる。</li> </ol> <p>第3部 グループ実習</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 筋のトルク値を計測し, 解釈できる。</li> <li>2. 動作筋電図法を用いた動作分析ができる。</li> <li>3. 巻き尺, 角度計, ノギス等を用いた動作分析ができる。</li> <li>4. (応用) 単純反応時間の測定を経験する。</li> </ol>
関連科目	関連し合う科目・運動学、臨床運動学 この科目が基礎となる科目・全専門科目
成績評価方法・基準	<p>実習・演習への全参加が条件 出席・レポート各50% 参加態度、実習レポートなど総合的に評価する 一切遅刻は認めない(欠席扱いとし, 途中からの参加は認めない) 欠席/遅刻/早退などで終了していない実習が一つでもあれば, 単位を与えない。</p>
準備学習の内容	<p>履修に先立ち, 解剖学(骨学, 靭帯学, 筋学, 末梢神経学), 生理学(運動の神経調整, 筋系など)の復習をしておくこと。 実習に先立ち運動学教科書「中村隆一: 基礎運動学第6版. 医歯薬出版」の該当箇所を良く読んで予習/復習しておくこと。 第一部 歩行(P361-372, 383-386) 第二部 姿勢(17-42, 331-360) 第三部 筋力(67-83) 第三部 動作筋電図(47-52, 377-382) 第三部 胸郭運動(274-279) (以下は応用編なので, 必ずしも十分な理解は要しない。) 第三部 単純反応時間(「中村隆一: 臨床運動学第3版. 250-312, 医歯薬出版」)</p>

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準
			理学療法士
1	コースリエンション	本科目の説明 レポートの書き方**	[専門基礎] -3 運動学 B 四肢と体感の運動 C 運動分析・動作分析 D 姿勢 E 歩行 F 運動制御と運動学習
2	個人実習 1	歩行とは	
3	"	歩行速度・歩幅・歩行率	
	"	平地歩行での歩行効率	
4	個人実習 2	姿勢の測定	
5	"	身体の重心位置を推定、形態計測	
6	"	立位時の圧中心移動計測	
7	"	立位における身体肢節のアライメント	
8	グループ実習	グループでローテーションにより下記の実習をする (各課題につき 2 週-4 週)	
~	"		
23	"	1. 筋のトルク値を計測 (BIODEX 実習) 担当) 加藤先生	
	"	2. 筋電図法を用いた動作分析 (動作筋電図) 担当) 高橋先生	
	"	3. 巻き尺, 角度計, ノギス等を用いた動作分析 (胸郭の運動学実習) 担当) 仲保先生	
	"	4. 単純反応時間の測定 (応用実習) 担当) 江口	
	"		
	"		
	"		
	"		
	"		
	"		
	"		
	"		
	"		
	"		
	"		
	"	**各実習でのレポートの有無, 作成方法, 提出の締め切りなどは, 各担当の先生から提示があります.	

教科書	中村隆一: 基礎運動学第 6 版. 医歯薬出版 実習に関する解説は, 別途資料配布.
参考書	1. 中村隆一: 臨床運動学第 3 版. 医歯薬出版 2. 中村隆一: 運動学実習第 3 版. 医歯薬出版 3. 理学療法科学学会監修: 運動学実習マニュアル第三版. アイベック 4. Kappandji AI (塩田悦仁訳): カパンディ 関節の生理学 I~III

授業科目名	人間発達学	単位認定者	鈴木 学
対象学年	第2学年	学期	前期
単位数	1単位(15コマ)	必修・選択	必修

指導方法	講義
科目の目的	理学療法を行うというのは、それが子どもであれ、大人であれ、ひとりの生身の人間と対峙し、コミュニケーションすることである。したがって、ことを十分に理解することから始まるといっても過言でない。そこで、人間を理解する基礎として、ひとが出生し、成長し、発達して、乳幼児期、学童期、青年期から、成人、また老年期から死にいたるまで各段階における、身体の成長と運動機能の発達、認知的、情緒的、心理的、社会的発達を学び、ひとの一生における動的な人格形成を学習するとともにひとの一生を考察し得るように学習する。
学習到達目標	ひとの生涯発達を把握し、背景にある理論を理解し、ひとり一人の全人的認識を高める。
関連科目	小児科学Ⅰ,Ⅱ 発達心理学 心理学 小児神経理学療法学他
成績評価方法・基準	試験90%、出席点10%
準備学習の内容	生理学の知識(特に植物機能)があることが望ましい

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準
			理学療法士
1	人間発達とは	身体発達総論	【専門基礎】 -4 人間発達学 A 総論 a 定義・目的 b 発達理論 c 発達段階と発達課題 d 発達評価(DDST、遠城寺式など) e 運動発達(原始反射含む) f 精神発達 g 心理・社会的発達 B 各期における発達 a 小児期 b 青年期 c 成人期 d 老年期 【専門】 -2 理学療法の基礎 J 発達・加齢 a 正常発達 b 心身機能の変化
2	乳幼児の身体発達	形態発達と生理的発達	
3	乳幼児の身体発達	身体運動の発達	
4	乳幼児の身体発達	身体運動の発達	
5	乳幼児の身体発達	身体運動の発達	
6	学齢期の身体発達	形態発達と生理的発達	
7	思春期と成人期の身体発達	形態発達と生理的発達	
8	心理発達総論	発達の理論	
9	心理発達総論	心理発達の因子と諸理論	
10	子供の心理発達	発達の身体的基礎, 知能の発達	
11	子供の心理発達	知能と情緒の発達	
12	子供の心理発達	社会性, パーソナリティの発達	
13	青年期の心理発達	青年期の特徴	
14	成人・高齢期の心理	特徴と経年的変化	
15	まとめ	まとめ	

教科書	リハビリテーション医学講座 第2巻 人間発達学 上田礼子著 医歯薬出版 パワーポイントの資料をPDFにて配布予定
参考書	

授業科目名	栄養学（含食品学）	単位認定者	後藤香織
対象学年	第1学年	学期	後期
単位数	1単位（15コマ）	必修・選択	選択

指導方法	講義
科目の目的	人体が必要とする栄養素を学び、各栄養素が人体に消化吸収される過程を学ぶ。また、栄養素を含む食品と人体が食べ物を欲する科学的過程を学び、医療従事者として必要な栄養学、食品学の基本知識を養成する事を目的とする。尚、理学療法学科のみ進度を見ながら病態栄養学（特に糖尿病）についても触れる。
学習到達目標	基礎医学（解剖学、生理学、生化学）に関連した栄養学の基礎を学ぶ。食品の科学的な特性を学ぶ。
関連科目	
成績評価方法・基準	定期試験の点数に出席数を加算する。
準備学習の内容	

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準
			理学療法士
1	栄養学の目的 1	・ 食と私たち ・ 食育の必要性	【専門基礎】 -2生理学 0 内分泌・栄養・代謝（生化学の基礎を含む） a ホルモンとビタミン b 糖、蛋白、脂肪代謝 c 代謝率（基礎・エネルギー代謝率を含む）
2	栄養素の種類と体内での主たる役割	・ 栄養素の種類と体内での主たる役割 ・ 一日のエネルギーを求める	
3	栄養素の科学 1	・ 糖質の消化	
4	2	・ 糖質の代謝	
5	3	・ タンパク質の構造、消化、代謝	
6	4	・ 脂質の構造と種類	
7	5	・ 脂質の消化と代謝	
8	6	・ 電解質とビタミン	
9	7	・ 核酸の消化吸収代謝	
10	おいしさの科学 1	・ 嗅覚と食品	
11	2	・ 色と味	
12	3	・ 咀嚼とテクスチャー	
13	献立とは	日本料理と西洋料理の献立 食品成分の計算	
14	献立と病態栄養学	病気と献立、食品の選び方	
15	まとめ		

教科書	食品成分表 2011（実教出版）
参考書	看護栄養学（医歯薬出版）

授業科目名	医療概論	単位認定者	小林 功
対象学年	第1学年	学期	前期
単位数	1単位(15コマ)	必修・選択	必修

指導方法	講義
科目の目的	医療分野に関する各講義に先立ち、医学・医療の問題を幅広く概観し、専門分野の学習につなげる。
学習到達目標	「医学・医療とは何か、現代医療はどのように実践され、どのような問題をかかえているのか」を幅広く理解し、考えることを目標とする。
関連科目	すべての臨床医学、生命倫理など
成績評価方法・基準	筆記試験(場合によっては中間試験も行う)80%、出席・授業態度20%
準備学習の内容	前の回の講義時に指示をする。

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準
			理学療法士
1	医学・医療の歩み(1)	「人類の誕生と文化の発達」から「近代医学の基礎と臨床医学の近代化」	【専門基礎】 -1 医学概論 A 医学の基本 a 生命倫理 b 基本的人権 c 医の倫理(患者の権利、医療者の義務) B 病気と健康の概念 a 健康の定義 b 病気の定義と分類
2	医学・医療の歩み(2)	「近代医学の発展 現代医療の基礎」	
3	医学・医療の歩み(3)	「今後の医学・医療の方向」	
4	健康と疾病(1)	「健康の概念」、「疾病」	
5	健康と疾病(2)	「生活と健康」	
6	医学と医療(1)	「医学と医療」、「医療の本質」	
7	医学と医療(2)	「医療の実践」	
8	わが国の医療供給体制(1)	「医療供給体制の現状と整備の経過」	
9	わが国の医療供給体制(2)	「医療関係者の現状と養成の実態」	
10	わが国の医療供給体制(3)	「医療保障の現状と課題」	
11	現代医療における諸問題(1)	「医療の進歩と医の倫理」	
12	現代医療における諸問題(2)	「医療における患者の権利」、「病状(真実)告知」	
13	現代医療における諸問題(3)	「脳死と臓器移植」	
14	現代医療における諸問題(4)	「死と生命保持、安楽死、死を共有する医療」	
15	現代医療における諸問題(5)	医療概論まとめ	

教科書	「新体系看護学 6 現代医療論」(メヂカルフレンド社)
参考書	「学生のための医療概論」 千代豪昭 医学書院 「ヒトゲノムのが面白いほどわかる本」大拙博義 中経出版. 「ケースブック医療倫理」 赤林 朗、大林雅之 医学書院

授業科目名	病理学	単位認定者	栗田昌裕
対象学年	第1学年	学期	後期
単位数	1単位(15コマ)	必修・選択	必修

指導方法	講義
科目の目的	病理学は、病気の原因・経過および結果を追求し、病気における形態と機能の変化を明らかにすることで、病気の本態を究明する。本講義はその総論に当たる内容から、看護に必要な知識を学ぶ。具体的には、病因について学習した後、先天異常、代謝異常、循環障害、炎症(免疫・膠原病)、腫瘍という病変の五大カテゴリーを学び、老化と死についても概略を学ぶ。
学習到達目標	病理学的な分野の基礎事項に関して、看護で必要とされる内容の理解と知識とを得ること。
関連科目	解剖学・生理学・生化学 内科学 老年医学
成績評価方法・基準	試験(100%)
準備学習の内容	

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準
			理学療法士
1	序論 病理学とは	病理学とは、病因論、内因、外因、公害病と医原病、疾病の分類。	【専門基礎】 -2.臨床医学総論 A 病理学概論 a 病因論(内因・外因を含む) b 病理学的変化(血行障害、進行性・退行性病変、炎症・感染・免疫・アレルギー、腫瘍・新生物、奇形・遺伝を含む) c 生体反応(ホメオスターシス、ストレス)
2	先天異常	奇形と胃腸性疾患、奇形の種類、遺伝の関与と奇形、遺伝異常による疾患、遺伝性疾患の診断と治療。	
3	代謝異常1	細胞の障害と適応、変性、壊死とアポトーシス、細胞の適応、細胞障害の結果としての物質沈着。	
4	代謝異常2	脂質代謝異常と疾患、タンパク質代謝異常と疾患、糖質代謝異常と疾患、その他の有機質の代謝異常と疾患、無機質の代謝異常と疾患。	
5	循環障害1	循環器系の概要、循環血液量の異常、充血、うっ血、虚血、出血、ショック。	
6	循環障害2	閉塞性の循環障害、血栓症、播種性血管内凝固、塞栓症、側副循環、リンパの循環障害。	
7	炎症と免疫、膠原病1	炎症、炎症の原因、炎症の経過、創傷治癒、炎症の治療、炎症の各型。	
8	炎症と免疫、膠原病2	免疫とアレルギー、自然免疫系と適応免疫系、免疫担当細胞、抗体と補体、能動免疫と受動免疫。	
9	炎症と免疫、膠原病3	免疫不全、先天性免疫不全、エイズ、移植と自己免疫、主要組織適合複合体、膠原病。	
10	腫瘍1	腫瘍の定義と分類、異形度、分化度、悪性度、悪性腫瘍の転移と進行度。	
11	腫瘍2	腫瘍の発生病理、腫瘍の発生原因、がん発生の外因、がん発生の内因、腫瘍の診断と治療、がんの予防。	
12	老化と死	老化とは、ホメオスタシスの老化、主要組織・臓器の老化、死について。	
13	病理検査	病理検査の意義、細胞診、生検組織診、手術時の迅速診断、病理解剖、病理組織・細胞診標本の作製課程。	
14	その他	必要に応じて上記を補う。	
15	その他	必要に応じて上記を補う。	

教科書	
参考書	

授 業 科 目 名	薬 理 学	単 位 認 定 者	栗 田 昌 裕
対 象 学 年	第 2 学 年	学 期	前 期
単 位 数	1 単 位 ( 1 5 コ マ )	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	講義
科 目 の 目 的	医療の中で投薬と注射の役割は大きい。そこで、医療に携わる者は「薬物の種類とその作用に関する基本的な知識」を持ち、しかもそれに「的確な理解」が伴っている必要がある。薬理学概論ではそれらを見通しよく学習する。具体的にはその内容は以下の通りである。1)薬理学の役割、構成、新薬の開発、医薬品の歴史、など薬理学の基本的知識を学ぶ。2)薬物治療に影響を与える因子として、生体側、薬物側の因子を学び、副作用についても学ぶ。3)薬の生体内運命と薬効との関係を学ぶ。ここでは、投与経路と吸収、分布・代謝・排泄に関して学ぶ。4)薬物の種類と作用メカニズムの概略を系統的に学ぶ。
学 習 到 達 目 標	薬物動態に関する基本的知識を得ること、薬物の作用機序による分類を知ること、主要な薬剤の適用に関する基礎的知識を持つこと、禁忌に関して学ぶこと。以上に関して、看護に必要とされるレベルに到達することを目標とする。
関 連 科 目	生理学 ・ 生化学 医療概論 小児看護学 母性看護学 老年看護学
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	試験 ( 100% )
準 備 学 習 の 内 容	

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準
			理学療法学科
1	薬理学とは 薬物動態	薬理学の基本知識。薬物治療に影響を与える因子、 投与経路と薬の吸収、分布、代謝、排泄。	【専門基礎】 -2 臨床医学総論 B 病気の診断と治療 e 薬物療法
2	麻酔薬と中枢興奮薬 解熱鎮痛薬・抗炎症薬	全身麻酔薬、局所麻酔薬、中枢興奮薬 解熱鎮痛薬・抗炎症薬、麻薬性鎮痛薬・麻薬拮抗性鎮痛薬。	
3	向精神薬と抗痙攣薬 筋弛緩薬と抗パーキンソン薬	向精神薬、抗痙攣薬(抗てんかん薬)、 筋弛緩薬、抗パーキンソン薬。	
4	自律神経薬、 オータコイド	自律神経の基礎知識、コリン作動薬とコリン作動性効果遮断薬(付:胃酸分泌抑制薬)、アドレナリン作動薬とアドレナリン遮断薬、オータコイドの種類とその作用、プロスタグランディンの臨床応用。	
5	強心薬、抗狭心症薬 と抗不整脈薬。	強心薬(ジギタリス)の投与方法、ジギタリスの副作用とその対策、抗狭心症薬、抗不整脈薬。	
6	利尿薬、 降圧薬。	利尿薬、利尿薬の臨床的応用、 降圧薬、抗動脈硬化薬。	
7	消化器病薬・駆虫薬 内分泌薬	消化器病薬、駆虫薬、 下垂体ホルモン・甲状腺ホルモン・糖尿病治療薬、 副腎皮質ホルモン・男性ホルモン・生殖系内分泌薬。	
8	血液病薬と抗癌薬	貧血の薬、止血薬、抗血栓療法薬、 開発と化学療法、副作用と組み合わせ。	
9	化学療法薬と免疫療法薬	化学療法薬、抗ウイルス剤、免疫について、免疫療法、 法薬	

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準
			理学療法学科
10	消毒薬と呼吸器病薬	滅菌・消毒法．消毒薬の濃度と殺菌速度．呼吸器病薬．抗結核薬．	
11	皮膚疾患に用いられる薬剤．	皮膚疾患に用いられる薬剤．造影剤．放射性医薬品．	
12	放射線診断・治療薬 ショックに用いられる薬剤．点眼薬．輸液	ショックの原因別分類．ショックの対応と薬剤．点眼薬．輸液の目的．輸液剤．	
13	毒物および解毒剤 代謝賦活薬．ビタミン剤	中毒の状態．急性中毒に対する処置．解毒剤．排泄と吸着．代謝賦活薬．ビタミン剤	
14	小児・妊婦・老年者に対する薬物療法．嗜好品の薬理と薬物相互作用	小児の薬物療法 妊婦の薬物療法 老年者の薬物療法．嗜好品の薬理．薬物相互作用．	
15	薬剤の安定性：保存および混合の問題点．まとめ．	薬剤の保存．薬剤の混合、配合変化（配合禁忌）．	

教科書	
参考書	「新版看護学全書 6 疾病の成り立ちと回復の促進 薬理学」(メヂカルフレンド社)

授業科目名	公衆衛生学	単位認定者	石 館 敬 三
対象学年	第 1 学 年	学 期	後 期
単 位 数	1 単 位 ( 7 . 5 コ マ )	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	講義
科 目 の 目 的	健康及び公衆衛生の基礎的概念を学習する。タテ系である各種疾患対策、環境対策とヨコ系である統計、疫学、健康教育、試験検査などが織りなす総合科学である、活動であることを理解する。
学 習 到 達 目 標	生活者の健康の保持・増進を目的とする公衆衛生活動を理解する。 公衆衛生活動は、政治、経済、社会の動向と密接に関連していることを理解し、広い視野を養う。 公衆衛生活動の基礎的技法として、集団からアプローチする疫学、保健統計、地域組織活動等を理解する
関 連 科 目	生命倫理 環境論 地域社会学 情報学 救急・免疫・感染症学
成績評価方法・基準	試験 100%
準 備 学 習 の 内 容	「国民衛生の動向」は公衆衛生の現実社会を写している鏡である。 講義前に該当する事項に眼を通しておくことが望ましい。

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準
			理学療法士
1	公衆衛生の理解 人口と公衆衛生	健康の概念の変遷、公衆衛生の概念 世界人口の動向、日本の少子高齢化の進行 年齢3区分別人口の割合	【専門基礎】 -1 保健医療福祉 A 医療 e EBM(根拠に基づいた医療) f 医療の供給体制(一次・二次・三次医療、救急・災害 ・へき地医療、地域医療) B 保健 a 健康管理 b 健康増進 c 一次・二次・三次予防 d 環境保健 e 地域保健 f 母子保健 g 学校保健 h 産業保健 i 高齢者保健 j 精神保健 k 感染症対策
2	環境と公衆衛生	人間と生活環境、環境行政のあゆみ、地球環境問題 大気汚染の状況、公害健康被害補償、環境基準	
3	食と公衆衛生 国民の健康と保健統計	食中毒の発生状況、食中毒の種類 健康指標、20世紀100年の変化	
4	同 上 疫病の疫学と予防	年齢調整死亡率の意義 疫学の方法、疫学調査方法、因果関係推論、 スクリーニング	
5	同 上	感染症の疫学、新感染症予防法 結核対策、HIV 対策	
6	生活習慣病対策 公衆衛生活動 例	がんの予防、その他生活習慣病予防 精神保健対策、介護保険制度	
7	同 上 保健・医療行政	母子保健、老人保健、歯科保健、難病対策 地域保健法、医療法改正の動き、地域医療連携 社会保障制度、国民医療費	
8	課題研究発表	指定課題による研究発表	

教 科 書	新体系看護学7 「公衆衛生学」 小野寺伸夫著 (株)メヂカルフレンド社 国民衛生の動向 2010/2011 版 財団法人 厚生統計協会
参 考 書	

授業科目名	臨床検査・画像診断学	単位認定者	小林 功
対象学年	第 2 学年	学期	後 期
単位数	1 単位 ( 1 5 コマ )	必修・選択	必修

指導方法	講義、病院見学
科目の目的	多くの病気の正確な診断に、臨床検査・画像診断学は欠かせないものとなっている。特に、生体検査として、X線、CT、MRI、超音波検査（US）、核医学（SPECT、PET）など多くの画像診断法が開発され、発展している。画像により正常解剖の理解が深まるし、画像検査により病気の発生とともに、解剖学的異常、生体内の変化を目で見ることができるようになった。一方、血液、尿・便、喀痰等の検体検査の測定法も進歩し、臨床診断に大いに寄与している現状である。本科目を学習することにより正常解剖・生理学を分かりやすく理解するとともに、実際に病気の診断に臨床検査・画像診断がどのように利用されているかを知ることを目的とする。
学習到達目標	1. 血液検査など検体検査で何が判るか理解する。 2. 理学療法士として、臨床検査の重要性を十分把握する。 3. X線、CT、MRI、超音波検査（US）、核医学検査（SPECT）・PETの原理を習得する。 4. 正常解剖画像、代表的な病気の典型的な画像を理解する。 5. 正確な病気の診断に画像診断がどのように利用されているか、その役割を理解する。
関連科目	関連し合う教養科目・情報処理、生物学基礎、化学基礎、物理学基礎 この科目が基盤となる専門基礎科目・解剖学、生物学、生化学、病理学、薬理学、内科学、臨床医学特殊講義、整形外科学、臨床神経学、小児科学 この科目が基盤となる専門科目・運動器系理学療法評価・治療学、神経系理学療法評価・治療学、呼吸・循環・代謝系理学療法評価・治療学、物理療法学、スポーツ障害理学療法学
成績評価方法	定期試験（80％）に平常点（20％）を加味して評価する。
事前学習の内容	前の回の講義時に指示をする。

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準
			理学療法士
1	臨床検査学総論	臨床検査の必要性	[専門基礎] -2 臨床医学総論 B 病気の診断と治療 b 生化学的検査 c 生理学的検査 d 画像検査
2	血液生化学検査(1)	血液検査の種類と実際	
3	血液生化学検査(2)	血液検査の種類と実際	
4	尿・便・喀痰等	一般検査の概要	
5	生体検査(特に心電図など)	心電図・肺機能検査・脳波等などの測定の意義	
6	画像診断総論	画像診断の種類 画像診断の役割 それぞれの長所と限界	
7	X線検査、正常解剖画像	X線診断の原理、造影剤、マンモグラフィ	
8	エックス線CT	CTの原理、CTの正常解剖画像、CTの臨床的有用性	
9	核医学・PET	放射性同位元素(RI)とは、機能画像、SPECT、PETの原理と臨床応用	
10	MRI	MRIの原理、MRIの臨床的有用性、MRIの正常解剖像	
11	脳・脊髄	脳血管障害、脳腫瘍、認知症(痴呆) 椎間板ヘルニアの画像診断	
12	骨、関節、筋肉	骨折、骨・軟部腫瘍、靭帯損傷の画像診断	
13	病院見学(群馬大学附属病院)	群馬大学医学部附属病院を見学。CT、MRI、核医学、PET、放射線治療の現場を知る。	
14	上記と同じ	上記と同じ	
15	まとめ	まとめ	

教科書	「系統看護学講座 別巻6 臨床検査」/大久保昭行 編(医学書院) プリントによる
参考書	「臨床検査ガイド 2007~2008」/Medical Practice 編(文光堂) 「放射線画像医学 医用放射線科学講座7」/稲本一夫 別府慎太郎 編(医歯薬出版) 「リハビリテーション診断学(下)リハビリテーション医学全書 -3」/千野直一 編(医歯薬出版) 「CT/MRI 画像解剖ポケットアトラス 頭部・頸部・脊柱・関節」 / 町田徹 監訳(メディカル・サイエンス・インターナショナル) 「CT/MRI 画像解剖ポケットアトラス 胸部・腹部・骨盤」 / 町田徹 監訳(メディカル・サイエンス・インターナショナル) 「レントゲン画像解剖ポケットアトラス」/ 町田徹 監訳(メディカル・サイエンス・インターナショナル)

授業科目名	臨床医学特殊講義	単位認定者	小林 功
対象学年	第 2 学年	学期	後 期
単位数	1 単位 ( 1 5 コマ )	必修・選択	必 修

指導方法	講義を中心とする。
科目の目的	理学療法士として必要な病態（特に外科領域）を学習する。
学習到達目標	理学療法士として各種疾患についての病態を把握する。
関連科目	解剖学 ・ 、生理学 ・ 、整形外科学を含む各臨床科目
成績評価方法・基準	定期試験（筆記）80%、授業態度 20%
準備学習の内容	前の回の講義時に指示をする。

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準
			理学療法士
1	理学療法士としての各種病態の概論	各種病態における理学療法士の役割について考察する。	[専門基礎] -2 臨床医学総論 B 病気の診断と治療 f 外科療法
2	生体の反応と臓器障害	生体・臓器に損傷が及ぼす反応を理解する。	
3	外科的診断法	代表的な外科疾患の診断法及び処置について学ぶ。	
4	滅菌法・消毒法	無菌法の意義と実践について理解する。	
5	救急疾患	ショックを含む救急疾患の概要を習得する。	
6	損傷（創傷・熱傷等）	生体にとって損傷の意義と対処法について学習する。	
7	感染症学	感染症の病態と対策を概略する。	
8	腫瘍学	腫瘍の概要を把握し、臨床現場を理解する。	
9	整形外科領域	整形外科領域における疾患を理解する。	
10	耳鼻咽喉科領域	耳鼻咽喉科領域における疾患を理解する。	
11	泌尿器科領域	泌尿器科領域における疾患を理解する。	
12	産婦人科領域	産婦人科領域における疾患を理解する。	
13	分子生物学	最新の動向について学習する。	
14	臓器移植	最新の動向について学習する。	
15	まとめ	講義内容の基礎的実践的知識を整理する。	

教科書	プリントを使用する。
参考書	標準外科学（医学書院）

授業科目名	内 科 学	単 位 認 定 者	栗 田 昌 裕
対象学年	第 2 学 年	学 期	前 期
単 位 数	1 単 位 ( 1 5 コ マ )	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	講義
科 目 の 目 的	臨床医学の中で内科学は、すべての疾患を知る上で重要な学問である。特に、疾患の病態生理、診断、治療をしっかりと学ぶ事は、理学療法士にとって臨床の現場で患者さんを理解する上で、重要である。
学 習 到 達 目 標	疾病の病態生理、診断、治療を一連の流れの中で理解する力を養う。 国試に役立つ疾患について理解を深め、実際の問題に対応する。
関 連 科 目	解剖学 ・ 病理学 生理学 ・
成績評価方法・基準	試験にて評価（100％）
準備学習の内容	

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準
			理学療法士
1	概論 1		[専門基礎] -9 内部障害と臨床医学 A疫学・予後 B病因・症候 C評価・検査（画像・生理検査を含む）・診断 Dリハビリテーション Eその他の治療 (A～Eに共通) a 呼吸器疾患 b 循環器疾患 c 消化器疾患 d 腎・泌尿器疾患 e 生殖器疾患 f 血液疾患・自己免疫疾患 g 内分泌・代謝疾患 注：それぞれの疾患には悪性疾患、感染症を含む
2	概論 2		
3	消化器疾患 1		
4	消化器疾患 2		
5	消化器疾患 3		
6	呼吸器疾患 1		
7	呼吸器疾患 2		
8	呼吸器疾患 3		
9	循環器疾患 1		
10	循環器疾患 2		
11	循環器疾患 3		
12	内分泌・代謝疾患 1		
13	内分泌・代謝疾患 2		
14	内分泌・代謝疾患 3		
15	まとめ		

教 科 書	
参 考 書	

授業科目名	整形外科学	単位認定者	橋本俊英
対象学年	第2学年	学期	前期
単位数	1単位(15コマ)	必修・選択	必修

指導方法	理学療法に必要な筋骨格系の基礎知識および整形外科疾患の特性と対応について、テキストと資料を用いて系統的に解説する。
科目の目的	整形外科疾患を有する人々の理学療法を行う上で必要な知識を身につける。
学習到達目標	1. 骨・関節・筋肉および神経・血管の構造と機能を理解する。 2. 整形外科疾患の病態、症状、治療法、および理学療法を行う際の合併症とその対策について理解する。 3. 整形外科疾患を有する人々の理学療法と、彼らをとりにまわす家族・地域・社会との関連を理解する。
関連科目	臨床心理学、生命倫理、病理学・解剖学、運動生理学、老年医学、救急・免疫・感染症学、スポーツ医学、義肢学、装具学
成績評価方法・基準	定期試験(70%)に授業出席・参加態度(30%)を加味して評価する。(積極的な授業参加・質問を期待する)
準備学習の内容	各回授業範囲の専門用語の意味を事前に調べて理解しておく。

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準
			理学療法士
1	整形外科総論1	整形外科の基礎知識(骨・関節・筋肉・神経・血管の基本構造と機能)	[専門基礎] -6骨関節障害と臨床医学 A疫学・予後 B病因・症候 C評価・検査(画像・生理検査を含む)・診断 Dリハビリテーション Eその他の治療(精神療法を含む) (A~Eに共通) a 変形性関節症・人口関節置換術後 b 骨折 c 脱臼 d 関節リウマチとその近縁疾患 e スポーツ外傷 f 脊椎疾患(椎間板ヘルニア、脊椎症を含む) g 腰痛症 h 切断(小児の先天性奇形を含む) i 靭帯損傷 j 肩関節疾患(肩関節周囲炎、腱板損傷を含む) k 慢性疼痛疾患 l 骨粗鬆症 m 骨壊死性疾患(大腿骨頭壊死を含む) n 先天性異常、系統疾患(骨端症を含む) o 骨軟部腫瘍 p 熱傷
2	整形外科総論2	運動器の評価および検査法、整形外科疾患の治療法	
3	整形外科疾病論1	炎症性疾患	
4	整形外科疾病論2	代謝・内分泌性疾患、退行性疾患	
5	整形外科疾病論3	先天性骨・関節性疾患	
6	整形外科疾病論4	脊椎の疾患、脊椎・脊髄損傷	
7	整形外科疾病論5	末梢神経の疾患・外傷	
8	整形外科疾病論6	骨折総論、体幹の骨折	
9	整形外科疾病論7	上肢の骨折・脱臼	
10	整形外科疾病論8	下肢の骨折・脱臼	
11	整形外科疾病論9	腱・靭帯の損傷、スポーツ外傷	
12	整形外科疾病論10	循環障害と壊死性疾患	
13	整形外科疾病論11	骨・軟部腫瘍、神経筋疾患	
14	整形外科疾病論12	熱傷、褥創、切断	
15	期末試験	期末試験	

教科書	標準整形外科学(第10版) 医学書院
参考書	各授業の際に適宜提示する。

授業科目名	整形外科学	単位認定者	橋本俊英
対象学年	第2学年	学期	後期
単位数	1単位(15コマ)	必修・選択	必修

指導方法	整形外科疾患の特性と対応について、テキストと資料を用いて部位別に解説する。
科目の目的	整形外科疾患を有する人々の理学療法を行う上で必要な知識を身につける。
学習到達目標	1. 脊柱・四肢の各部位別に、整形外科疾患の病態生理、症状、検査、診断について理解する。 2. 代表的疾患については、初期治療からリハビリテーションの実際についての知識を整理し、合併症とその対応策について必要な知識を習得する。
関連科目	臨床心理学、生命倫理、病理学・解剖学、運動生理学、老年医学、救急・免疫・感染症学、スポーツ医学、義肢学、装具学
成績評価方法・基準	定期試験(70%)に授業出席・参加態度(30%)を加味して評価する。(積極的な授業参加・質問を期待する)
準備学習の内容	各回授業範囲の専門用語の意味を事前に調べて理解しておく。

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準
			理学療法士
1	脊柱の疾患1	頸椎椎間板ヘルニア、頸椎後縦靭帯骨化症などの病態・症状・整形外科的治療・リハビリテーションについて学ぶ。	【専門基礎】 -6骨関節障害と臨床医学 B病因・症候 C評価・検査(画像・生理検査を含む)・診断 Dリハビリテーション (B~Dに共通) a 変形性関節症・人口関節置換術後 b 骨折 c 脱臼 f 脊椎疾患(椎間板ヘルニア、脊椎症を含む) g 腰痛症 i 靭帯損傷 j 肩関節疾患(肩関節周囲炎、腱板損傷を含む)
2	脊柱の疾患2	頸髄損傷の病態・症状・整形外科的治療・リハビリテーションについて学ぶ。	
3	脊柱の疾患3	腰椎椎間板ヘルニア、脊柱管狭窄症などの病態・症状・整形外科的治療・リハビリテーションについて学ぶ。	
4	脊柱の疾患4	胸腰椎損傷による脊髄・馬尾損傷の病態・症状・整形外科的治療・リハビリテーションについて学ぶ。	
5	上肢の疾患1	肩関節、上腕、肘関節、手関節、手指などの疾患・外傷の病態・症状・整形外科的治療・リハビリテーションについて学ぶ。	
6	上肢の疾患2		
7	上肢の疾患3		
8	上肢の疾患4		
9	下肢の疾患1	股関節、大腿骨、膝関節、足関節、足部などの病態・症状・整形外科的治療・リハビリテーションについて学ぶ。	
10	下肢の疾患2		
11	下肢の疾患3		
12	下肢の疾患4		
13	症例提示(演習)1	知識の整理・復習	
14	症例提示(演習)2		
15	期末試験	期末試験	

教科書	標準整形外科学(第10版) 医学書院
参考書	各授業の際に適宜提示する。

授 業 科 目 名	臨床神経学 (神経内科学)	単 位 認 定 者	小 林 功
対 象 学 年	第 2 学 年	学 期	後 期
単 位 数	1 単 位 ( 1 5 コ マ )	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	講義
科 目 の 目 的	理学療法士の基盤である神経系について理解し, 実践に役立つ知識を身につける.
学 習 到 達 目 標	各神経疾患の病態生理・特徴的な症候を学ぶ
関 連 科 目	臨床神経学 (小児神経学・脳神経外科学)
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	試験 80%・授業態度 20%
準 備 学 習 の 内 容	前の回の講義時に指示をする。

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準
			理学療法士
1	疾患各論 1	脳血管障害 1 総論	[専門基礎] -7 神経・筋系の障害と臨床医学 A 疫学・予後 B 病因・症候 C 評価・検査 (画像・生理検査を含む)・診断 D リハビリテーション E その他の治療 (A~Eに共通) a 血管障害 1) 脳出血 2) 脳梗塞 3) くも膜下出血 4) 脳静脈血栓症 5) 脊髄血管障害 b 感染・炎症性疾患 1) 髄膜炎 2) 脳腫瘍 3) 脳炎 4) 急性脊髄全角炎 5) 遅発型ウイルス感染症 c 変性ならびに脱髄疾患 1) Parkinson 病 2) Parkinson 症候群 3) 脊髄小脳変性症 4) 筋萎縮性側索硬化症 5) 脊髄性進行性筋萎縮症 6) 多発性硬化症 7) 脊髄空洞症 8) 認知症 f 末梢神経・筋疾患 3) 多発神経炎 4) 重症筋無力症 5) 多発筋炎 7) 筋緊張症 h 感覚器系障害 1) 視覚障害 2) 聴覚障害
2	" 2	" 2 脳出血	
3	" 3	" 3 脳梗塞	
4	" 4	" 4 治療	
5	神経免疫学	感染・炎症・腫瘍 感染・炎症・脱髄疾患各論	
6	末梢神経疾患	脊髄・末梢神経・脱髄	
7	疾患各論 1	変性疾患 1 パーキンソン病	
8	" 2	" 2 パーキンソン症候群 (MSA、CBD、DLB)	
9	" 3	" 3 アルツハイマー病	
10	" 4	" 4 ピック病、前頭側頭葉型認知症	
11	" 5	" 5 ハンチントン病、脊髄小脳変性症	
12	" 6	" 6 運動ニューロン病	
13	" 7	筋疾患 進行性筋ジストロフィー。ミトコンドリア脳筋症	
14	" 8	一般内科疾患にともなう神経疾患 ビタミン、中毒、代謝異常	
15	まとめ		

教 科 書	「神経内科学テキスト」江藤文夫 (南江堂)
参 考 書	

授業科目名	臨床神経学 (小児神経学・脳神経外科学)	単位認定者	井 埜 利 博
対象学年	第 3 学 年	学 期	前 期
単 位 数	1 単 位 ( 1 5 コ マ )	必 修 ・ 選 択	必 修

指導方法	講義
科目の目的	小児神経学および脳神経外科学をより詳細に勉強し、理学療法士として将来の臨床の場に役立てる。
学習到達目標	各疾患の原因・症状・診断・治療等を理解すること。
関連科目	小児科学・小児理学療法学・精神医学
成績評価方法・基準	試験の成績【80%】、出席率【20%】
準備学習の内容	講義では臨床で重要なポイントを話します。受講前に教科書を一読しておいてください。

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準
			理学療法士
	<小児神経学>		
1	神経疾患総論・癲癇	症状・診察方法・神経学的検査、癲癇の種類・症状	【専門基礎】 -7 神経・筋系の障害と臨床医学 A疫学・予後 B病因・症候 C評価・検査(画像・生理検査を含む)・診断 Dリハビリテーション Eその他の治療(精神療法を含む) (A~Eに共通) a 血管障害 1)脳出血3)くも膜下出血 b 感染・炎症性疾患 1)髄膜炎2)脳腫瘍3)脳炎4)急性脊髄全角炎 5)遅発型ウイルス感染症 c 変性ならびに脱髄疾患 d 外傷 1)脳外傷2)脊椎・脊髄損傷 3)末梢神経損傷(腕神経叢損傷、絞扼性末梢神経損傷を含む) e 腫瘍 1)脳腫瘍2)脊髄腫瘍 f 末梢神経・筋疾患 1)三叉神経痛2)顔面神経麻痺3)多発神経炎 4)重症筋無力症5)多発筋炎 6)筋ジストロフィー症7)筋緊張症 g てんかん、頭痛 h 感覚器系障害 1)視覚障害2)聴覚障害 -8 小児発達障害と臨床医学 A疫学・予後 B病因・症候 C評価・検査(画像・生理検査を含む)・診断 Dリハビリテーション Eその他の治療 (A~Eに共通) a 脳性麻痺、精神発達遅滞 b 二分脊椎 c 悪性腫瘍 d 遺伝子病・系統疾患(骨端症を含む)
2	神経皮膚症候群	神経皮膚症候群の種類・症状、その他類縁疾患	
3	変性疾患	脊髄・小脳変性疾患の種類・症状	
4	炎症性疾患	脳炎・脳症などの症状・診断法・治療など	
5	筋疾患総論・筋ジストロフィー	先天性ミオパチー・筋ジストロフィーの原因・症状・治療などについて	
6	炎症・代謝性筋疾患	ウイルス性筋炎、代謝性ミオパチーの症状・治療	
7	多発性神経炎	ギラン・バレー症候群・フィッシャー症候群等の症状・治療等	
	<脳神経外科学>		
1	脳神経外科における症候について総論	脳神経症状、運動・知覚障害、痙攣発作、脳浮腫、脳圧亢進、意識障害について、病態の重篤度、画像診断	
2	頭部外傷	頭部外傷の病態と治療法	
3	良性脳腫瘍	頻度の高い良性脳腫瘍(髄膜腫、下垂体腫瘍、神経鞘腫、頭蓋底腫瘍)の症状、画像診断、(手術、ガンマーナイフ治療)、遺伝性腫瘍：遺伝子異常、疾病の病態(NF1, NF2, VHL, 結節性硬化症)(症例をもとに)、治療法の選択(手術、ガンマーナイフ)	
4	悪性脳腫瘍	悪性脳腫瘍(グリオーマ、髄芽腫、生殖細胞腫、転移性脳腫瘍等)の病態と画像診断、治療法の選択(手術、原体照射、ガンマーナイフ、化学療法)	
5	脳血管障害(出血性病変)	高血圧性脳内血腫、脳動脈瘤、脳動静脈奇形の病態と治療法の選択(開頭術と血管内治療について)、	
6	脳血管障害(閉塞性病変)	総頸動脈、主幹脳動脈の狭窄の血管内治療、脳梗塞、神経症状、高次機能障害について	
7	脊髄病変	脊髄腫瘍、脊髄血管障害の症状、診断、治療	

教科書	特になし
参考書	小児科学(医学書院)、小児理学療法学テキスト(南江堂)

授 業 科 目 名	精 神 医 学	単 位 認 定 者	平 尾 良 雄
対 象 学 年	第 3 学 年	学 期	前 期
単 位 数	1 単 位 ( 1 5 コ マ )	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	講義および症例を中心に学ぶ。
科 目 の 目 的	広汎な精神障害の概要を学び、将来理学療法士としての役割を学習する。
学 習 到 達 目 標	理学療法士として将来遭遇する症例の実像を理解させる。
関 連 科 目	内科学 小児科学 小児科学
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	筆記試験 80%、授業態度 20%
準 備 学 習 の 内 容	前の回の講義時に指示をする。

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準
			理学療法士
1	精神医学とは	精神医学の定義・概念・歴史	【専門基礎】 -5 精神障害と臨床医学 A疫学・予後 B病因・症候 C評価・検査（画像・生理検査を含む）・診断 Dリハビリテーション Eその他の治療（精神療法を含む） （A～Eに共通） a 器質性精神障害（症状性を含む） b 精神作用物質利用による精神および行動の障害 c 統合失調症、統合失調症様障害および妄想性障害 d 気分（感情）障害（躁うつ病・うつ病を含む） e 神経症性障害、ストレス関連障害および身体表現性障害 f 生理的障害および身体的要因に関連した行動症候群（摂食障害・非器質性睡眠障害を含む） g 成人の人格（パーソナリティ）及び行動の障害 h 知的障害 i 心理的発達の障害 j 小児期および青年期に通常発症する行動および情動の障害 k てんかん
2	精神障害の成因と分類	精神障害の成因と分類	
3	精神機能の障害と精神障害	精神症状・意識・知識・性格・感情など	
4	精神障害と診断と評価	診断と評価の方法	
5	脳器質性精神障害	脳器質性精神障害の概念とその疾患（認知症を含む）	
6	症状性精神障害	症状性精神障害の概念と症状	
7	精神作用物質	アルコール、睡眠薬等の薬物関連障害	
8	てんかん	てんかんの定義と概念	
9	統合失調症	統合失調症の病型、症状とリハビリテーション	
10	気分（感情）障害	概念と主な病型、特に躁うつ病	
11	神経症	神経症の概念と病型	
12	摂食障害・睡眠障害	成因と病態	
13	人格・行動・性の障害	成因と概念	
14	心身医学	心身症をめぐって	
15	まとめ		

教 科 書	「標準理学療法学作業療法学 精神医学」(医学書院)
参 考 書	

授業科目名	小児科学	単位認定者	井 埜 利 博
対象学年	第 2 学年	学 期	後 期
単 位 数	1 単 位 ( 1 5 コ マ )	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	教科書に沿って指導を進め、パワーポイントにより、症例の写真を提示し学習する。ときに小レポート課題を出し、クラスで発表させ授業に参加している意識を持たせる。
科 目 の 目 的	理学療法士として小児のリハビリテーションを行う場合、基礎として、小児の生理・病理を理解し、疾患について学び、将来他の医療スタッフと業務の上で協調できる能力をもつことを目的とする。
学 習 到 達 目 標	小児の成長・発達を学び、小児の疾患についても総合的に学ぶ。個々の疾患を覚えるのではなく、各疾患の特異性を平易に理解し学習することを目標とする。
関 連 科 目	解剖学 生理学 人間発達学 他の臨床医学
成績評価方法・基準	授業における態度（とくに出席について）および試験成績によって評価する。
準 備 学 習 の 内 容	

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準
			理学療法士
1	小児科学概論	こどもの成長・発達について学ぶ  リハビリテーションの中核をなす疾患群を学ぶ	【専門基礎】 -8 小児発達障害と臨床医学 A 疫学・予後 B 病理・症候 C 評価・検査（画像・生理検査を含む）・診断 D リハビリテーション E その他の治療 （A～Eに共通） a 脳性麻痺、精神発達遅滞 b 二分脊椎 c 悪性腫瘍 d 遺伝子病・系統疾患（骨端症を含む） -9 内部障害と臨床医学 A 疫学・予後 B 病因・症候 C 評価・検査（画像・生理検査を含む）・診断 D リハビリテーション E その他の治療 （A～Eに共通） a 呼吸器疾患 b 循環器疾患 c 消化器疾患 d 腎・泌尿器疾患 e 生殖器疾患 f 血液疾患・自己免疫疾患 g 内分泌・代謝疾患 注：それぞれの疾患には悪性疾患、感染症を含む
2	小児科学概論（つづき）		
3	診断と治療の概要		
4	新生児・未熟児疾患		
5	先天異常、先天代謝異常		
6	神経・筋・骨等疾患		
7	神経・筋・骨等疾患（つづき）		
8	循環器疾患、呼吸器疾患		
9	感染症、消化器疾患		
10	内分泌・代謝疾患		
11	血液疾患		
12	免疫・アレルギー疾患、膠原病		
13	腎・泌尿器疾患、生殖器疾患、腫瘍性疾患		
14	心身症、神経症など		
15	重症心身障害児、眼科・耳鼻科的疾患 まとめ	特に重症心身障害児に焦点をあてて学ぶ	

教 科 書	「標準理学療法学・作業療法学 小児科学」富田 豊編（医学書院）2004.
参 考 書	「小児科学 第7版」中山健太郎、矢田純一編（文光堂）2004. 「NEW小児科学 改訂版」清野佳紀、小林邦彦、原田研介、桃井眞理子編（南江堂）2003.

授 業 科 目 名	リハビリテーション医学	単 位 認 定 者	栗 田 昌 裕
対 象 学 年	第 2 学 年	学 期	後 期
単 位 数	1 単 位 ( 1 5 コ マ )	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	講義。そのつど、講義内容に関連したプリントを配布する。
科 目 の 目 的	神経系、筋・骨・関節系、呼吸器系、循環器系などの機能障害と、これに基づく能力障害や社会的不利を理解し、これらの障害に対するリハビリテーションを学習する。具体的には以下の四側面を学ぶ。1) 障害を、機能障害と能力低下、社会的不利、環境因子から多面的に評価する方法を学ぶ。2) 廃用症候群を含む種々の機能障害の病態生理と回復について学ぶ。3) 治療理論の概略を学ぶ。4) 種々の機能障害に関するリハビリテーション医学の臨床の概略について学ぶ。
学 習 到 達 目 標	リハビリを支える医学的な側面に関して、ある程度の理解に到達すること。
関 連 科 目	内科学
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	試験 ( 100% )
準 備 学 習 の 内 容	

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準
			理学療法士
1	障害の評価	医学的情報の評価・機能障害の評価・能力低下(活動制限)の評価・社会的不利の評価・環境因子の評価・	【専門基礎】 -3 リハビリテーション医学 A 総論 a リハビリテーション医学の定義と歴史 b リハビリテーション医学の特徴 B 障害の診断と評価 a 医学的情報(病理・電気・画像診断を含む)の評価 b 機能障害の評価 c 活動制限(能力低下)の評価 d 参加制約(社会的不利)の評価 e 環境因子の評価 C 機能障害の評価とリハビリテーション a 運動障害(運動麻痺、筋力低下、持久力低下筋萎縮、関節拘縮、運動失調、痙縮、固縮を含む) b 基本動作障害 c 複合動作障害 d 呼吸障害 e 循環障害 f 代謝・内分泌障害 g 発達障害 h 構音障害 i 視覚障害 j 聴覚障害 k 高次脳機能障害(失語、失認、失行、記憶障害、遂行機能障害等を含む) l 疼痛 m 摂食・嚥下障害 n 排尿障害 o 排便障害 p 心理的問題 D 活動制限(能力低下)の評価とリハビリテーション a 日常生活活動の障害 b 生活関連活動の障害 E 参加制約(社会的不利)の評価とリハビリテーション
2	機能障害の病態生理と回復1	筋肉・柔部組織損傷・骨・関節損傷・末梢神経損傷・	
3	機能障害の病態生理と回復2	大脳・基底核・脳幹・小脳の損傷・高次脳機能障害・脊髄の障害・	
4	機能障害の病態生理と回復3	痛み・呼吸機能・心機能・嚥下と口腔衛生・排泄・	
5	廃用症候群などの病態生理	発生機序・廃用症状・誤用と過用・	
6	治療理論1	関節可動域・筋力増強・中枢神経障害・	
7	治療理論2	体力と持久力・バイオフィードバック・運動負荷とリ	
8	リハビリテーション医学の臨床1	スク管理・脳血管障害・外傷性脳損傷・	
9	リハビリテーション医学の臨床2	脊髄損傷・脳性麻痺・末梢血管疾患・	
10	リハビリテーション医学の臨床3	切断と義肢・末梢神経麻痺・変性疾患・	
11	リハビリテーション医学の臨床4	筋疾患・慢性関節リウマチ・その他の膠原病・	
12	リハビリテーション医学の臨床5	骨関節の外傷および疾患・呼吸器疾患・	
13	リハビリテーション医学の臨床6	循環器疾患・糖尿病・血液疾患・	
14	リハビリテーション医学の臨床7	悪性腫瘍・視覚障害・聴覚・平衡障害・高齢者・	
15	まとめ	まとめ	

教 科 書	
参 考 書	入門「リハビリテーション医学」中村隆一監修(医歯薬出版株式会社)

授業科目名	老年医学	単位認定者	栗田昌裕
対象学年	第2学年	学期	後期
単位数	1単位(7.5コマ)	必修・選択	必修

指導方法	講義
科目の目的	理学療法士として高齢者とどのように接してゆくか、何ができるかを考える一助とする。
学習到達目標	リハビリを支えるための老年医学の主要な概念と知識を一定レベルの水準を満たすように獲得すること。具体的には最終試験での受講者の過半数の者の正解率が75%に到ること。
関連科目	病理学
成績評価方法・基準	試験(100%)
準備学習の内容	

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準
			理学療法士
1	老化と老年病の考え方、生理機構の加齢変化 運動機能と精神心理面の加齢変化	老化とは、加齢による生理機能の低下と疾病、老年症候群と機能評価、理学・作業療法との関連事項、感覚機能、自律機能、高次神経機能の加齢変化 高齢者の運動機能、運動機能の加齢変化、知能の障害発達、記憶の加齢変化、人格、老年期の創造性の特徴 老年症候群の概念、代表的な老年症候群	【専門基礎】 -4 人間発達学 A 総論 a 定義、目的 b 発達理論 f 精神発達 g 心理社会的発達 B 各期における発達 d 老年期 -10 老年期障害と臨床医学 A 疫学・予後 B 病因・症候 C 評価・検査(画像・生理検査を含む)・診断 D リハビリテーション E その他の治療 (A~Eに共通) a 老年症候群 b 認知症 c 脳血管障害 d うつ e 心不全 f 末梢循環障害 g 老人性肺炎・誤嚥性肺炎 h 慢性閉塞性肺疾患 i 悪性腫瘍 j 変形性関節症 k 骨折 l 骨粗鬆症 m 睡眠障害 n 摂食・嚥下障害 o 感覚器障害 p 終末期のケア
2	高齢者に特徴的な症候と疾患、老年症候群 循環器疾患、呼吸器疾患	循環器疾患：うっ血性心不全、虚血性心疾患、脳血管障害、血圧異常、不整脈、弁膜症、心筋・心膜疾患、血管疾患、呼吸器感染症、誤嚥と誤嚥性肺炎、肺癌、閉塞性肺疾患、間質性肺炎	
3	消化器疾患 骨運動器疾患	高齢者の消化器癌、上部消化管疾患、腸疾患、肝疾患、胆道・膵疾患 骨粗鬆症、変形性関節症、後縦靭帯骨化症、関節リウマチ	
4	精神神経疾患 内分泌代謝疾患、血液・免疫疾患	精神神経機能の老化、老年痴呆、うつ病、パーキンソン病、多系統萎縮症と自律神経障害、末梢神経障害 糖尿病、高脂血症、甲状腺疾患、痛風、貧血、白血病と骨髄低形成症候群、多発性骨髄腫、膠原病、腎不全、尿路感染症、前立腺疾患、皮膚疾患、口腔疾患	
5	腎・泌尿器疾患、皮膚・口腔疾患 感染症、高齢者との接し方	高齢者の感染症の原因と特徴、診断の進め方、治療の留意点、臓器別感染症の特徴、院内感染対策とMRSA、高齢者との接し方：医療従事者の心得、患者・家族とのかかわり	
6	高齢者の機能評価 高齢者の退院支援 高齢者の定義および人口動態	高齢者の機能評価の意義、日常生活活動度の評価、知的機能の評価、QOLの評価 高齢者における退院支援の必要性、介護保険下の退院支援、高齢者の定義、世界と日本における人口動態	
7	社会学・経済学から見た高齢社会、高齢者の医療・看護・介護・福祉・保険 高齢者のリハビリテーション	高齢社会の問題とは、生産人口、生産能力、健康度分布、世代間問題、高齢者の医療、看護、介護・福祉、介護保険制度、老人保健 高齢者のリハビリテーションの考え方、理学療法、作業療法、言語療法	
8	まとめ	まとめ	

教科書	
参考書	

科目名	救急・免疫・感染症学	単位認定者	北林司
対象学年	第3学年	学期	前期
単位数	1単位(15コマ)	必修・選択	必修

指導方法	講義・演習
科目の目的	呼吸器系・心血管系・脳血管系の解剖生理と主要な疾患を理解し、心停止・呼吸停止・異物による気道閉塞のような、生命が危険にさらされた人を救命する方法を理解する。さらに、気道確保・人工呼吸・心臓マッサージ・AEDによる除細動といった一連の救命処置(BLS)が実践できることを目的とし、在学中にアメリカ心臓協会(AHA)のBLSHCP(医療従事者向け一次救命処置)ライセンス取得を目指す。また、免疫機能のシステムと主な感染症およびスタンダードプリコーション(標準的感染防護対策)を理解することを目的とする。
学習到達目標	1. 急激に生命が危険にさらされる呼吸器障害、心血管系障害、脳血管系障害が説明できる。 2. 救命の連鎖について説明できる。 3. 一次救命処置について説明できる。 4. 気道異物(FBAO)の治療手順を説明できる。 5. AED操作を含む一次救命処置(BLS)および気道内異物解除が実践できる。 6. 清潔と不潔、滅菌と消毒について説明できる。 7. 人体の免疫システムについて説明できる。 8. 主な感染症について説明できる。 9. スタンダードプリコーションについて説明できる。
関連科目	解剖学・生理学・疾病と障害の成り立ち・公衆衛生学
成績評価方法・基準	筆記試験50%・実技試験50%
準備学習の内容	呼吸器・循環器・脳に関する解剖・生理について復習しておくこと。

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準
			理学療法士
1	呼吸器の解剖・生理と主な疾患	呼吸器系の解剖と機能を理解する。 呼吸機能の主な検査および基準値について理解する。 主な呼吸器疾患を理解する。	【専門基礎】 -1 保健医療福祉 A 医療 f 医療の供給体制(一次・二次・三次医療、救急・災害・へき地医療、地域医療) B 保健 a 健康管理 b 健康増進 k 感染症対策
2	循環器の解剖・生理と主な疾患	循環器系の解剖と機能を理解する。 循環機能の主な検査および基準値を理解する。 主な循環器疾患を理解する。	
3	脳血管系の解剖・生理と主な疾患	脳血管系の解剖と機能を理解する。 脳血管系の主な検査を理解する。 主な脳血管系疾患を理解する。	
4	わが国の救急医療体制	わが国の救急医療体制を理解する。 救急医療従事者について理解する。	
5	一次救命処置(BLS)	一次救命処置および二次救命処置の区分を理解する。 救命の連鎖を理解する。	
6	成人に対するCPR+除細動 演習	反応のない成人傷病者を発見したときの適切な行動を理解する。 気道確保の方法を理解する。 呼吸の有無を確認する方法を理解する。 人工呼吸の方法を理解する。	
7	成人に対するCPR+除細動 演習	循環の有無を確認する方法を理解する。 胸骨圧迫心臓マッサージの方法を理解する。 人工呼吸と心臓マッサージを組み合わせた方法を理解する。	

			国 家 試 験 出 題 基 準
8	成人に対するCPR+除細動 演習	<p>早期の除細動の重要性を理解する。 AEDの目的を理解する。 AEDの使用方法を理解する。 AEDから「ショックの適応なし」のメッセージがでたときに取るべき行動を理解する。</p>	
9	成人の気道異物 ( FBAO ) について 演習	<p>成人の異物による気道閉塞の原因を理解する。 反応のある成人のFBAOに対する治療手順を理解する。 反応のない成人のFBAOに対する治療手順を理解する。</p>	
10	BLS+AEDの実践およびFBAO解除 演習	<p>成人に対する的確なBLSが実践できる。 成人のFBAOに対する的確な治療が実践できる。</p>	
11	BLS+AEDの実践およびFBAO解除 演習	<p>成人に対する的確なBLSが実践できる。 成人のFBAOに対する的確な治療が実践できる。</p>	
12	BLS+AEDの実践およびFBAO解除 演習	<p>成人に対する的確なBLSが実践できる。 成人のFBAOに対する的確な治療が実践できる。</p>	
13	清潔と不潔、滅菌と消毒	<p>医療における清潔と不潔の概念を理解する。 滅菌と消毒の定義を理解する。 主な滅菌および消毒方法について理解する。</p>	
14	免疫システム	<p>人体の免疫システムについて理解する。 感染症を引き起こす主な微生物について理解する。 主な感染症について理解する。</p>	
15	スタンダードプリコーション	<p>スタンダードプリコーションの概念を理解する</p>	

教科書	なし
参考書	ポケットマスク購入要

授 業 科 目 名	ス ポ ー ツ 医 学	単 位 認 定 者	奈 良 純 夫
対 象 学 年	第 3 学 年	学 期	前 期
単 位 数	1 単 位 ( 1 5 コ マ )	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	テキストを中心に講義する。最近の話題、関連する事項についてプリントを配布する。
科 目 の 目 的	広義のスポーツは人間にとって不可欠である。現代社会の運動不足が疾病を増加させている。疾病の予防、健康維持に必要なスポーツを医学的に理解する。
学 習 到 達 目 標	スポーツ医学を学生自身に生かすと共に一般人、患者の指導が出来るように理解させる。
関 連 科 目	内科学、外科学、整形外科学、運動生理学
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	試験 70% 授業への参加度 30%
準 備 学 習 の 内 容	各回授業範囲の教科書を読み、理解し、わからない所を見出しておく。

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準
			理学療法士
1	オリエンテーション	講義概要、成績評価等	<b>【専門基礎】</b> -6 骨関節障害と臨床医学 A 疫学・予後 B 病理・症候 C 評価・検査（画像・生理検査を含む）・診断 D リハビリテーション E その他の治療 （A～Eに共通） b 骨折 c 脱臼 e スポーツ外傷 i 靭帯損傷 -1 保健医療福祉 B 保健 a 健康管理 b 健康増進 c 一次・二次・三次予防
2	健康管理概論	健康概念、その発展。我が国の疾病変化 ヘルスプラン	
3	生活習慣病 メタリックシンドローム	生活習慣病、メタボリックシンドロームと スポーツ医学	
4	循環器疾患	虚血性心臓病とスポーツ医学	
5	高血圧症	高血圧症とスポーツ医学	
6	代謝障害	糖尿病、高脂血症、肥満、高尿酸血症とスポーツ医学	
7	呼吸器疾患	呼吸器疾患とスポーツ医学	
8	消化器疾患	胃、12指腸潰瘍、慢性肝炎、肝硬変、NASHと スポーツ医学	
9	腎臓疾患	腎臓疾患とスポーツ医学	
10	血液疾患	貧血を主体とする疾患とスポーツ医学	
11	小児疾患	小児の発育、日本の現状、小児の生活習慣病、 気管支喘息とスポーツ医学	
12			
13	スポーツ障害	急性障害、突然死、熱中症、慢性障害、 メディカルチェック	
14			
15	まとめ		

教 科 書	) フィットネスシリーズ (4) 健康スポーツの医学-内科編 (5) 健康スポーツの医学-外科編
参 考 書	Step Series 内科、循環器、呼吸器、消化器、小児科 整形外科

授業科目名	緩和医療学	単位認定者	江口勝彦
対象学年	第3学年	学期	前期
単位数	1単位(15コマ)	必修・選択	選択

指導方法	講義・実技演習
科目の目的	<p>第一部では、緩和医療(ケア)について、終末期に限らず医療のさまざまな分野が必要であることが認識され、癌医療における早期導入、慢性疾患への対応など応用範囲が広がりつつあることを中心に、がん患者への積極的な全人的医療として身体的・精神的・社会的・霊的苦痛の緩和、家族・遺族への支援についての理論や援助方法を学習する。</p> <p>また、チーム医療の必要性、緩和ケア・ホスピスケアの実際、チームにおける多職種の役割や機能について学習する。</p> <p>第二部では、最初に悪性腫瘍(ガン)のリハビリテーションについてその概要を示し、他疾患との相違、特徴などを理解する。</p> <p>実際の緩和医療の現場で活躍する理学療法士・作業療法士を講師に迎え、リハビリテーションの視点から、緩和医療・終末期医療の歴史と現状、ホスピス医療の実際について学習する。</p> <p>また、緩和医療における理学療法介入の技術を学習する。さらに、地域リハビリテーションにおける緩和医療的かわりを紹介する。</p>
学習到達目標	<p>緩和医療(ケア)の歴史と緩和医療(ケア)の基本的考えを理解する。</p> <p>緩和医療を取り巻くシステムと問題点を知る。</p> <p>緩和医療における治療理念と倫理的問題を含め治療方法および援助方法を理解する。</p> <p>終末期における心理的問題と家族ケア遺族ケアの重要性を理解する。</p> <p>緩和ケアにおけるチーム医療の必要性和チームにおける多職種の役割や機能について理解する。</p> <p>リハビリテーション医療と緩和医療の接点について理解する。</p> <p>疼痛について理解する。</p> <p>理学療法介入の実際について知る。</p> <p>地域・在宅での緩和医療におけるリハビリテーション介入の実際を知る。</p>
関連科目	<p>関連し合う科目・生命倫理、生活学、家族学、地域社会学、臨床心理学、リハビリテーション工学基礎、栄養学、カウンセリング、社会福祉・地域サービス論、リハビリテーション関連領域論</p> <p>この科目が基礎となる科目・理学療法管理学</p>
成績評価方法・基準	出席・態度・レポート・その他 総合的に評価する。第一部、第二部それぞれ50%のウエイトとする。
準備学習の内容	生と死ということについて、各自考えておくこと。

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準
			理学療法士
1	<第一部> 緩和医療学総論 (斎藤龍生)	緩和医療の歴史と緩和医療の基本的考え方を講義すると共に、がん患者さんが抱えている問題点を提示します。その中で、「末期がんの患者さんと如何に話すか?」「患者さんが人間らしく生きるために何が出来るか?」について、一緒に考えていく講義を予定しています。患者さんとのコミュニケーションスキルの向上を目指し、基本的な技術を紹介いたします。	<b>【専門基礎】</b> -10 老年期障害と臨床医学 A疫学・予後 B病因・症候 C評価・検査(画像・生理検査を含む)・診断 Dリハビリテーション Eその他の治療 (A~Eに共通) p 終末期のケア
2	緩和医学各論 (小林 剛)	疼痛緩和 疼痛の考え方 鎮痛剤の使い方・副作用対策 オピオイドローテーションについて 事例を提示し疼痛緩和について考えていく	
3	緩和医学各論 (小林 剛)	終末期の栄養管理 地域における緩和医療 鎮静について	
4	緩和ケアの実際 ・疼痛緩和の看護 (大井寿美江)	疼痛マネジメントにおける看護の役割について 効果的な疼痛マネジメントのためのアセスメントと援助方法について事例を提示し考えていく	

			国 家 試 験 出 題 基 準
5	緩和ケアの実際 ・他の症状緩和の看護 ・全人的苦痛の緩和 (大井寿美江)	他の症状マネジメントにおける看護の役割 効果的な疼痛マネジメントのためのアセスメントと援助方法について事例を提示し考えていく 全人的苦痛の緩和 精神的苦痛と霊的苦痛(スピリチュアルペイン)のケアについて	
6	緩和ケアの実際 ・家族ケア ・遺族ケア (大井寿美江)	緩和ケア病棟における終末期患者の家族ケアと遺族ケアの実際について	
7	緩和医療におけるチームアプローチ (大井寿美江)	緩和ケア病棟におけるチーム医療 チームにおける看護の役割と多職種との役割と機能	
8	第一部のまとめ (大井寿美江)  <第二部>	もし、あなたが今、肺がんの末期と診断された場合、何をどう考えどのようにしたいですか。また、残された時間をどのように過ごしたいですか。(死生観)	
9	悪性腫瘍のリハビリテーション (江口勝彦)	悪性腫瘍(ガン)のリハビリテーションについて 過去と現在を概観する	
10	緩和医療とリハ総論 (白木美代子)	緩和医療(ケア)の歴史 リハビリテーションの理念と緩和医療の接点 ライフサイクルと終末期、生死学	
11	緩和医療とリハ各論1 (白木美代子)	疼痛緩和 疼痛の考え方 鎮痛剤, 除痛ラダー, 鎮静について 心の苦痛 全人的苦痛の緩和 精神的苦痛と霊的苦痛(スピリチュアルペイン)について 緩和ケア病棟における終末期患者の家族ケアと遺族ケアの実際について	
12	緩和医療とリハ各論2 (白木美代子)	終末期の理学療法介入の実際 死を目前にした人との会話について 緩和ケア病棟での事例(障害別)を提示し、理学療法の役割について考えていく 緩和ケアにおけるチーム医療	
13	緩和医療とリハ各論3 (村山久美子)	ALS とコミュニケーション	
14	緩和医療とリハ各論4 (村山久美子)	在宅における看取り	
15	理学療法実技 (白木美代子)	体位排痰およびホッピング 呼吸介助 浮腫に対するリハマッサージ / まとめ(レポート)	

教 科 書	指定せず
参 考 書	辻 哲也, 里宇明元, 木村彰男: 癌のリハビリテーション. 金原出版 砂原茂一: リハビリテーション(岩波新書). 岩波書店. Elisabeth Kubler-Ross: 死ぬ瞬間-死とその過程について(中公文庫). 中央公論新社. 石飛 幸三: 「平穏死」のすすめ 口から食べられなくなったらどうしますか. 講談社 安部能成: 癌緩和ケアに活かすリハビリテーション・アプローチ(臨床看護2010年3月増刊号). ヘルス出版 聖路加国際病院看護部緩和ケア検討会症状マネジメントグループ: がん疼痛マネジメントマニュアル. 医学書院

授業科目名	カウ ン セ リ ン グ	単 位 認 定 者	森 慶 輔
対 象 学 年	第 2 学 年	学 期	前 期
単 位 数	1 単 位 ( 1 5 コ マ )	必 修 ・ 選 択	選 択

指 導 方 法	実習および講義
科 目 の 目 的	・保健医療領域におけるサービスに必要な知識と基礎的な技術の習得を目指す ・社会人としての常識をもつ(無断遅刻欠席をしない,提出物の期限を守る,私語を慎む,携帯電話を授業中に使わない等)
学 習 到 達 目 標	1年次の心理学,臨床心理学をベースに,実際に医療機関や福祉施設などで治療・リハビリテーション等に従事する際に必要な治療的対人コミュニケーションの知識や技術を習得することが目標である。
関 連 科 目	すべての科目と関連
成績評価方法・基準	レポート2本(あわせて60%),授業への参加態度(40%)を総合して評価する予定である。なお,第1回の講義時に本講義のガイダンスを行うので,第1回の講義に出席していない学生の履修は認めない。また,ロールプレイやグループワークなどの実習を行う予定のため,意欲的に取り組まないと単位取得は難しい。なお,遅刻3回を欠席1回とカウントし,欠席3回以上で単位取得資格を失うものとする。
準 備 学 習 の 内 容	特別な予習は必要ないが,実際のリハビリテーション場面等(実習でも構わない)で治療を円滑に進めるためのコミュニケーションとはどのようなものであるかを常に考えておくこと。

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準
			理学療法士
1	・ カウンセリングとは	1. ガイダンス	【専門基礎】 -4 臨床心理学 D 心理療法およびカウンセリング -5 精神障害と臨床医学 A 疫学・予後 B 病因・症候 D リハビリテーション E その他の治療(精神療法を含む) (A~Eに共通) c 統合失調症、統合失調症様障害および妄想性障害 d 気分(感情)障害(躁うつ病・うつ病を含む) -10 老年期障害と臨床医学 A 疫学・予後 B 病理・症候 D リハビリテーション (A・B・Dに共通) b 認知症 d うつ -2 リハビリテーション概論 C 患者・障害者の心理・社会的側面 a 患者の心理・信念 b 障害受容 c 心理教育(患者教育、家族教室) d 社会参加、社会復帰
2	・ 各種疾病とカウンセリング	2. 保健医療領域におけるコミュニケーション 治療促進的なコミュニケーションとは 自分の「クセ」を見つける【エゴグラムの実施】	
3	・ 障がいとは	1. 障がいとは 先天的な障がいと中途障がい 知的障がい・肢体不自由・発達障がい	
4	・ 障がい受容について考える	2. 障がい受容について考える 生まれつき障がいを負っている人の障がい受容 中途障がい者の障がい受容 障がい受容のプロセス	
5	・ 精神障がいとは	3. 精神障がいとは 統合失調症の概要 統合失調症の治療・リハビリテーション	
6	・ 精神障がいとは	4. 精神障がいとは 気分障害の概要 気分障害の治療・リハビリテーション	
7	・ 精神障がいとは	5. 精神障がいとは 認知症の概要 認知症の治療・リハビリテーション	
8	・ 家族支援の考え方	6. 家族支援の考え方 慢性疾患・精神疾患患者の家族支援 福祉・教育の基礎知識	
9	・ 保健医療に生かす	1. カウンセリングの方法と基本技法(1)【含実習】	
10	・ カウンセリング技	2. カウンセリングの方法と基本技法(2)【含実習】	
11	・ カウンセリング技	3. カウンセリングの方法と基本技法(3)【含実習】	
12	・ カウンセリング技	4. 自己理解と他者理解【MBTIの実施】	
13	・ まとめ	1. リハビリテーションに関する事例検討1(または学外施設見学)	
14	・ まとめ	2. リハビリテーションに関する事例検討2(または学外施設見学)	
15	・ まとめ	3. まとめ	

教 科 書	「MBTI®質問紙(FORM M 手採点版)」JPP Inc. 一般書店では入手不可のため、授業時に代金と引き替えに配布
参 考 書	講義の際に紹介する

授業科目名	リハビリテーション概論	単位認定者	松 澤 正
対象学年	第 1 学 年	学 期	前 期
単 位 数	1 単 位 ( 1 5 コ マ )	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	リハビリテーションは、障害を持った者が社会復帰するための過程であり、障害を持った者が、どのような理念で、また、どのような手順で社会復帰するか講義を通して理解させる。
科 目 の 目 的	リハビリテーションにおける医学的、教育的、職業的、社会的リハビリテーション領域の目的、対象、方法を通して、リハビリテーションの中での理学療法士や看護師の位置づけや役割を理解させる。
学 習 到 達 目 標	リハビリテーション医療の中での理学療法士や看護師の役割を理解し、実践できるようになることを目標にする。
関 連 科 目	理学療法概論 リハビリテーション医学
成績評価方法・基準	筆記試験やレポート等を総合して評価する。 試験 80%、授業態度、出席状況 20%
準 備 学 習 の 内 容	障害や福祉に関する用語を調べ学習しておく できれば障害や福祉施設でボランティア活動をする

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準
			理学療法士
1	リハビリテーションの定義、理念、歴史		<b>【専門基礎】</b> -2 リハビリテーション概論 <b>A 理念</b> a リハビリテーションの定義・歴史 b ノーマライゼーション c 自立生活 ( Independent Living ) d QOL ( Quality of life ) e 総合リハビリテーション <b>B 疾病・障害の概念分類</b> a ICD(International Statistical Classification of Disease and Related Health Problems ) b ICIDH( International Classification of Impairments,Disabilities and Handicaps ) c ICF( International Classification of Functioning, Disability and Health ) <b>C 患者・障害者の心理・社会的側面</b> d 社会参加、社会復帰 <b>D リハビリテーションの進め方</b> a リハビリテーション関連職種とその役割 b チームアプローチ c 評価会議とゴール設定 d リハビリテーションプログラム、クリニカルパス <b>E リハビリテーションの諸相</b> a 医学的リハビリテーション b 教育的リハビリテーション c 職業的リハビリテーション d 社会的リハビリテーション e 地域リハビリテーション
2	障害論		
3	障害者の心理		
4	リハビリテーションの構成		
5	医学的リハビリテーション		
6	チーム医療とリハビリテーション医療の進め方		
7	地域リハビリテーション		
8	リハビリテーションにおける評価学		
9	治療学、症例		
10	教育的リハビリテーション		
11	職業的リハビリテーション		
12	社会的リハビリテーション		
13	社会的リハビリテーション		
14	寝たきり老人のリハビリテーション		
15	まとめ		

教 科 書	プリント教材を使用する。
参 考 書	「入門リハビリテーション概論」中村隆一（医歯薬出版） 「現代リハビリテーション医学」千野直一（金原出版）

授 業 科 目 名	リハビリテーション関連領域論	単 位 認 定 者	唐 澤 一 男
対 象 学 年	第 3 学 年	学 期	前 期
単 位 数	1 単 位 ( 1 5 コ マ )	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	作業療法士・言語聴覚士・看護師の講師による各4~5回のオムニバス形式・講義中心。
科 目 の 目 的	リハビリテーション医療はチーム医療であるといわれる。本講義においては、チームを構成する専門職の中から、作業療法、言語聴覚療法、看護についてその概要を学習する。すなわち作業療法士の業務内容、基本的な考え方、身体障害・精神保健・発達障害などの作業療法の対象領域とそれらに対する作業療法の評価・治療について、言語聴覚療法士の仕事・職場・職域、言語聴覚障害の種類とその原因、病態とそれらに対する評価・治療、看護の機能と役割、リハビリテーション看護の概念と目的、リハビリテーション看護の技術などについて学習し、さらにチーム医療について理解を深める。
学 習 到 達 目 標	到達目標 作業療法・言語聴覚療法・看護について理解し、チーム・アプローチの基礎を築く。 行動目標 1) 作業療法と作業療法士の役割について説明できる。 2) 身体障害・老年期障害・発達障害・精神障害に対する作業療法の概要がいえる。 3) 言語聴覚療法と言語聴覚療法士の役割について説明できる。 4) 音声言語・文字言語・口腔機能障害に対する言語聴覚療法の概要がいえる。 5) 看護と看護師の役割について説明できる。 6) リハビリテーション看護の概要がいえる。
関 連 科 目	関連し合う科目・リハビリテーション概論，理学療法概論，リハビリテーション医学
成績評価方法・基準	各担当者が試験を実施し（各3分の1）その合計を100として評価する。
準 備 学 習 の 内 容	砂原茂一：リハビリテーション。岩波新書139，岩波書店。を各自購入し読んでおくこと。

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準
			理学療法士
1	<作業療法> (唐澤一男) 作業療法とは 作業療法の歴史 作業療法場面 対象者の把握 と治療手段	作業療法の定義(世界作業療法士連盟、米国作業療法士協会、日本作業療法士協会) 諸外国およびわが国の歴史をたどり作業療法と作業療法士の役割 作業療法の治療場面の紹介(VTR) 対象者の理解と作業療法の治療手段	【専門基礎】 -2 臨床医学総論 B 病気の診断と治療 g 安静、栄養、看護 -3 リハビリテーション G リハビリテーション治療 b 作業療法 c 言語聴覚療法 -1 保健医療福祉 A 医療 d チーム医療、連携医療 -2 リハビリテーション概論 D リハビリテーションの進め方 a リハビリテーション関連職種とその役割 b チームアプローチ c 評価会議とゴール設定 d リハビリテーションプログラム、クリニカルパス
2 ~ 3	作業療法の概要	身体障害に対する作業療法	
4	作業療法の概要	老年期障害に対する作業療法	
5	作業療法の概要	発達障害に対する作業療法	
6	<言語聴覚療法> (谷 哲夫) 言語聴覚療法とは	言語障害の定義 嚥下障害の定義 言語療法の定義 言語聴覚士の役割 臨床場面の紹介(VTR)	
7	言語療法の概要	失語症に対する言語療法	

			国 家 試 験 出 題 基 準
回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準
8	言語療法の概要	構音障害と嚥下障害に対する言語療法	
9	言語療法の概要	高次脳機能障害に対する言語療法	
10	リハビリを取り巻く環境	診療報酬制度, 実習生の受け入れ問題, 乱立する養成校, リハビリ職種の待遇など	
	< 看 護 > (大野絢子)		
11	看護とは	看護の機能と役割 臨床看護の概念 看護職の働く分野 保健師助産師看護師法における看護業務の法的見解	
12	リハビリテーション看護とは	リハビリテーション看護の概念と目的、対象 リハビリテーション看護師の役割と専門性	
13	リハビリテーション看護の概要	リハビリテーション看護と発達段階、機能的健康パターン	
14	リハビリテーション看護の概要	リハビリテーション看護の技術	
15	リハビリテーション看護の概要	疾患・障害・症状別のリハビリテーション看護の実際	

教 科 書	
-------	--

参 考 書	矢谷令子：作業療法概論．協同医書出版． 砂原茂一：リハビリテーション．岩波新書139，岩波書店．を各自購入し読んでおくこと． 新体系看護学全書 別巻11 リハビリテーション看護（メヂカルフレンド社） Nursing Celection 11 リハビリテーション看護（学研）
-------	---

理学療法学科

授 業 科 目 名	臨 床 心 理 学	単 位 認 定 者	森 慶 輔
対 象 学 年	第 1 学 年	学 期	後 期
単 位 数	1 単 位 ( 1 5 コ マ )	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	講義および実習
科 目 の 目 的	・保健医療領域におけるサービスに必要な知識と基礎的な技術の習得を目指す ・社会人としての常識をもつ（無断遅刻欠席をしない，提出物の期限を守る，私語を慎む，携帯電話を授業中に使わない等）
学 習 到 達 目 標	臨床心理学の基礎理論，特に臨床心理検査法と心理療法について理解し，保健医療領域におけるサービスに必要な知識と基礎的な技術を習得することが目標である。また，治療場面における患者の心理と患者とのコミュニケーションの方法についても理解を深めることを目指す。
関 連 科 目	すべての科目と関連（1年次前期に履修した心理学の内容を基に講義を行い，コミュニケーション（相談）実技については2年次前期に開講されるカウンセリングで扱う予定である）
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	期末試験（50%），第4回と第8回に実施予定の小テスト（それぞれ10%），課題レポート2本（30%）を総合して評価する。なお，遅刻3回を欠席1回とカウントし，欠席6回以上で期末試験受験資格を失うものとする。
準 備 学 習 の 内 容	事前学習として教科書の該当範囲を読んでおく（意味がわからない単語などはきちんと調べておく）。

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準
			理学療法士
1 2 3	・臨床心理学とは（基礎理論，正常および異常心理）	1. 臨床心理学とは？・定義と歴史・ 2. 問題行動の意味・正常と異常・ 3. 発達段階と心理的問題 4. 医療領域における臨床心理学的視点・転移・逆転移と防衛機制・	【専門基礎】 -4 臨床心理学 A 基礎理論 a 基礎理論 b 防衛機能と転移 c 学習、記憶、行動 B 正常および異常心理 a 児童・青年期心理 b 成人・高齢期心理 c 障害者心理 C 臨床心理検査法 D 心理療法およびカウンセリング -2 リハビリテーション概論 C 患者・障害者の心理・社会的側面 a 患者の心理・信念 b 障害受容 c 心理教育（患者教育、家族教室）
4 5	・臨床心理アセスメント（臨床心理検査法）	1. 心理アセスメントとは？ 1-1. 行動観察によるアセスメント 1-2. 面接法によるアセスメント 1-3. 心理検査によるアセスメント 【実習】CMI 2. 知能検査によるアセスメント 2-1. ビネー式知能検査 2-2. ウェクスラー式知能検査 2-3. その他の知能検査（認知症スクリーニング検査を含む） 【実習】認知症スクリーニング検査	D 心理療法およびカウンセリング -2 リハビリテーション概論 C 患者・障害者の心理・社会的側面 a 患者の心理・信念 b 障害受容 c 心理教育（患者教育、家族教室）
6 7		3. 心理検査によるアセスメント(1) 【実習】内田クレペリン検査 4. 心理検査によるアセスメント(2) 【実習】YG 性格検査	【専門】 -2 理学療法の基礎 D 認知 a 感覚・知覚 b 認知 E 情緒・心理 a 意欲 b ライフサイクル c 障害受容
8 9 10 11 12 13	・心理療法の理論と実際	1. 精神分析的な心理療法 2. クライアント中心療法 3. 行動療法 4. 認知（行動）療法 5. 家族療法，短期療法 6. グループ・アプローチ	
14 15	まとめ	1. さまざまな領域における心理的支援の実際 2. 授業の総まとめ	

教科書	山祐嗣・山口素子・小林知博 編著「基礎から学ぶ心理学・臨床心理学」北大路書房，2009年 1年次前期の「心理学」で使用したのと同じものなので、既に持っている場合は購入の必要はありません ・「内田クレペリン検査」等の検査用紙等（代金と引き換えに授業時に配布します）
参考書	・鎌田實「言葉で治療する」朝日新聞出版，2009年 ・高橋和巳「心を知る技術」筑摩書房，1997年（文庫版は2000年）

理学療法学科

授業科目名	生体計測工学	単位認定者	目黒	力
対象学年	第3学年	学期	後	期
単位数	1単位（15コマ）	必修・選択	必	修

指導方法	講義
科目の目的	医療の現場や基礎医学の授業・実習で使われるヒトの機能や形態を計測する機器の基本的な原理や使用方法を理解するために、対象から客観的な情報を抽出するために必要な基準と手法、代表的な人間の身体に関する物理量を取り上げ、これら諸量の生理学的意義と計測の目的、計測法の原理などについて学ぶ。
学習到達目標	計測はどのように自然を客観的に記述するかを考える基礎的な作業であり、事実仮説を検証するための定量的表現を与える作業である。本講ではまず計測工学の一般的事項として、すべての計測の基礎となる国際単位系（SI）の定義から出発し、真の値、計測標準、誤差と精度、測定値の不確かさなどの概念を理解する。次に、人間を対象とした計測技術の特殊性をその収集方法・強度・精度・S/N比・再現性・個体差など種々の点から理解する。続いて代表的な人間の身体に関する物理量を取り上げ、これら諸量の生理学的意義と計測の目的、計測法の原理などについて体系的に理解する。
関連科目	運動学 運動学実習 リハビリテーション工学 臨床動作分析学
成績評価方法・基準	定期試験（70%）レポート（10%）学習態度（10%）出席（10%）
準備学習の内容	テキストの事前学習が望ましい

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準
			理学療法士

			国 家 試 験 出 題 基 準
1		基礎知識編	【専門基礎】 -3 運動学 A 総論 b 力学の基礎 c 運動器の構造と機能（機能解剖を含む） d 運動の中樞神経機構 f 運動と呼吸・循環 C 運動分析・動作分析 D 姿勢 F 運動制御と運動学習
2		測るとは	
3		身体の構造と機能	
4		電気生理学的測定器の基礎	
5		身体の大きさと動きを測る	
6		反応を測る（反応時間）	
7		心臓・血管系の働きを測る	
8		目の働き・反応を測る	
9		脳の働き・反応を測る	
10		筋肉の活動を測る	
11		体温・疲労を測る	
12		性格・知能を測る	
13		官能検査	
14		環境を測る	
15		まとめ	

教 科 書	初学者のための生体機能の測り方 第二版 日本出版サービス
参 考 書	

理学療法学科

授 業 科 目 名	医 療 統 計 学	単 位 認 定 者	木 村 朗
対 象 学 年	第 2 学 年	学 期	前 期
単 位 数	1 単 位 ( 1 5 コ マ )	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	基礎的概念の説明と実践的課題作業体験を通して学習させる。課題はWebで配信。ノートPCを用いる。
科 目 の 目 的	医療・保健の現場で必要な判断を導くためにデータを活用する力の基礎を養うことが求められる。この基礎力とは個人毎の情報だけでは明らかにならない現象に対して集団の統計・推計・確率を利用することで原因となる要因を推定しうる能力である。この力を発展させ、根拠のある医療（EBM）の基本的実践に資する統計学的な考え方を追求しながら、コンピューターを使用して実践的能力を身につけることが目的である。
学 習 到 達 目 標	医療統計の実践的課題について統計ソフトウェアを利用して、複雑な手続きを経ずとも正しく統計解析の遂行と解釈ができるリテラシー（実際のソフトウェアの操作能力と概念を用いる能力）の獲得
関 連 科 目	情報処理 ・ 情報処理 、生活の中の数学、公衆衛生学、理学療法研究論
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	出席・授業態度 50% ・ 課題遂行能力テスト 50%
準 備 学 習 の 内 容	Web上のkimuakilab.main.jpに掲載された課題の確認（第2回から第3回）基本的なコンピューターリテラシーとしてPCおよび統計ソフトの操作（第2回から第4回）データセットの作り方・事前課題（第5回から第10回）事前課題の閲覧（第11回から第14回）見慣れない用語を調べ、当日の課題をノートを用意し、記入しておくこと。

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準
---	---------	---------	-----------------

			理学療法士
1	確率と統計、医療	日常生活と医療における統計を基に確率と統計を考える（次回の事前学習用課題呈示）	【専門基礎】 -1 保健医療福祉 A 医療 e EBM(根拠に基づいた医療)
2	統計ソフト "R と RG "	統計ソフト R とデータコーダーRG による、データセッティング	
3	データの性質と医療	医療・保健におけるデータの見方・加工の仕方 Web テスト	
4	医療データと代表値	医療・リハビリテーションで頻出のデータの特徴 Web テスト	
5	探索的統計と要約	統計学の基礎（次回の事前学習用課題呈示） Web テスト	
6	ヒストグラム	基礎的統計学とグラフの活用 Web テスト	
7	t 分布と医療データ	R を用いた平均値の解析 Web テスト	
8	f 分布と医療データ	R を用いた分散の解析 Web テスト	
9	カイ二乗分布	R を用いたカテゴリーデータの解析 Web テスト	
10	相関係数と回帰式	R および表計算ソフトを用いた相関係数と回帰式の解析 Web テスト	
11	サポートベクター	新しい統計手法（データマイニング） Web テスト	
12	因子分析	多変量解析の経験 Web テスト	
13	横断研究とコホート	EBM に必要な研究デザインと解釈 Web テスト	
14	生存分析	保健事象に有用な解析方法の経験 Web テスト	
15	まとめ	これまで学んだ手法の整理等 Web テストによる	

教科書	Web 上 kimuaki labo.main.jp で示すコンテンツ
参考書	エクセル活用コメディカル統計テキスト, 宮城重二著, 医歯薬出版/ 各自ノート PC 持参

理学療法学科

授業科目名	社会福祉・地域サービス論	単位認定者	金谷春代
対象学年	第 2 学年	学期	後期
単位数	1 単位 ( 15 コマ )	必修・選択	選択

指導方法	講義
科目の目的	福祉制度が存する意義を確認し、専門職として基礎的な知識を持つことを目的とする。
学習到達目標	福祉制度全般について知ることと日本の社会で確立されている福祉サービスの実際を知ること。
関連科目	地域社会学
成績評価方法・基準	筆記試験に平常点を加味して評価する。小レポートを課す場合もある。
準備学習の内容	

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準
			理学療法士

			国 家 試 験 出 題 基 準
1	福祉の捉え方	福祉とは何か	【専門基礎】 -1 保健医療福祉 C 医療・福祉制度 a 医療保険制度 b 公的扶助制度 c 介護保険制度
2	福祉の社会的背景	福祉制度の成立から地域福祉への時間経過と社会の変化について	
3	地域福祉の考え方	福祉サービス提供の「場」について	
4	地域福祉の内容と展開		
5	サービスの実際	福祉サービスの種類と内容について 具体的なサービスについて理解する	
6	サービスの実際		
7	サービスの資源と財源	サービスにおける費用の仕組みについて	
8	介護保険制度成立の意義と現状課題	介護保険制度成立の意味と経過について理解し、実際の制度運用と介護保険の現状を捉える。	
9	医療保険制度成立の意義と現状課題	医療保険制度の意味と現状課題について理解する。	
10	地域福祉と保健医療	地域における保健医療・福祉のあり方	
11	地域福祉における権利擁護	「権利擁護とは何か」	
12	地域福祉における専門職	福祉にかかわる専門職と役割分担。	
13	地域福祉における専門技術	地域福祉展開における専門技術とは。	
14	地域福祉ネットワークの事例	「利根沼田在宅ネットワークの会」立ち上げの意味と目的	
15	まとめ		

教 科 書	
参 考 書	「介護保険時代の医療福祉総合ガイドライン」(医学書院) 「社会福祉六法」 「国民の福祉の動向」

理学療法学科

授 業 科 目 名	障害者スポーツ・レクリエーション論	単 位 認 定 者	近 藤 照 彦
対 象 学 年	第 1 学 年	学 期	前 期
単 位 数	1 単 位 ( 1 5 コ マ )	必 修 ・ 選 択	選 択

指 導 方 法	障害者スポーツは、ビデオ中心とした講義を行う。レクリエーション論は、リハビリテーションの臨床場面で使われている障害に応じた代表的なものをグループで演習する。
科 目 の 目 的	本講義では、パラリンピックで活躍するトップアスリート達を知り、トップを目指した足跡から感動や勇気、やさしさを再考することを目的とする。障害に適応するレクリエーション活動を立案し、発表することができる。
学 習 到 達 目 標	ビデオ講義内容が理解できること。 グループワークにより、障害に適応するレクリエーションを発表することができる。
関 連 科 目	健康スポーツ理論
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	出席、態度、グループ発表により総合的に判断する。
準 備 学 習 の 内 容	障害の内容と程度を準備学習する。

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準
			理学療法士
1	講義	パラリンピック発祥と経緯	【専門基礎】 -2 リハビリテーション概論 A 理念 a リハビリテーションの定義・歴史 b ノーマライゼーション c 自立生活 ( Independent Living ) d QOL ( Quality of life ) e 総合リハビリテーション C 患者・障害者の心理・社会的側面 d 社会参加、社会復帰
2	講義	北京パラリンピック	
3	講義	北京パラリンピック	
4	講義	車いすテニス世界チャンプ	
5	講義	バンクーバーパラリンピック	
6	講義	バンクーバーパラリンピック	
7	講義	パラリンピック総集編	
8	講義	レクリエーションのガイダンス	
9	演習	グループ発表1	
10	演習	グループ発表2	
11	演習	グループ発表3	
12	演習	グループ発表4	
13	演習	グループ発表5	
14	演習	グループ発表6	
15	演習	グループ発表7	

教科書	使用せず
参考書	レクリエーション (三輪書店) バリアフリースポーツ (サンウェイ出版)

理学療法学科

授業科目名	リハビリテーション工学	単位認定者	目 黒	力
対象学年	第 3 学 年	学 期	前	期
単 位 数	1 単 位 ( 1 5 コ マ )	必 修 ・ 選 択	選	択

指導方法	講義・実習
科目の目的	リハビリテーション工学とは、工学的手法をリハビリテーションに応用するものであり、その応用範囲はとても広く、リハビリテーションの評価、治療、装具、生活支援など様々なものに応用されている。本科目では、この中でも、身体機能の評価に用いられる工学的手法について扱う。近年、これらは看護学においても多く利用されるようになってきている。将来セラピスト・看護師として、これらの手法を利用できるようにすることを目的とする。
学習到達目標	障害者に対する工学からのアプローチを理解し、その概要を理解する。
関連科目	運動学 生活環境学 日常生活活動学
成績評価方法・基準	レポート (70%) 出席 (30%)
準備学習の内容	

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準
			理学療法士
1	福祉機器概論とは	歴史、定義、関連領域との関わり、開発	-3 リハビリテーション医学 D 活動制限（能力低下）の評価とリハビリテーション a 日常生活活動の障害 b 生活関連活動の障害 G リハビリテーション治療 K リハビリテーション機器（杖、車椅子、座位保持装置、環境制御装置を含む）
2	工学的基礎	工学とは、とらえ方、考え方	
3	姿勢保持装置	シーティング概要	
4	車いす	最新車いす事情と解析手法	
5	昇降装置・リフト	ホームエレベーターなど	
6	福祉車両	メーカーの取り組み、トピックス	
7	視覚・聴覚障害者に対する福祉機器	音声案内システム、白杖等	
8			
9	コミュニケーション	トーキングエイドなど	
10	環境制御装置	在宅障害者を含むベッド周辺の福祉機器	
11	ハウスアダプテーション	住宅の改造とその手法	
12			
13	自助具	パーソナルコンピューター、インターネット	
14	ネットワークとPC		
15		まとめ	

教科書	
参考書	リハビリテーション工学と福祉機器（リハビリテーションMOOK） 金原出版

理学療法学科

授業科目名	理学療法概論	単位認定者	木村 朗
対象学年	第 1 学年	学期	前期
単位数	1 単位（15コマ）	必修・選択	必修

指導方法	講義 14 コマ・学外実習（施設見学）1 コマ
科目の目的	この科目では、「理学療法とは何か」について理学療法の定義、目的、歴史、対象や業務、職域など概説し、理学療法の全体像を理解することを目的とする。理学療法士に必要な知識・技術・態度を自ら考えられるようになることを目指し、講義への参加をジャーナルとしてまとめ自身の振り返りを行う。またグループワークや障害体験、理学療法体験など演習、施設見学を取り入れて理解を深める。
学習到達目標	理学療法の定義、対象、業務、歴史、保健医療福祉と社会的役割の点から理学療法を説明できる。 理学療法技術の一部を体験する事から、今後の学習に必要なことをイメージできる。 3.施設見学を通しリハビリテーションの流れを確認し、理学療法（士）をイメージできる。 4.グループワークの中で自分の役割を果たし、かつ意見交換の記録を報告することができる。
関連科目	リハビリテーション概論、理学療法評価学、基礎理学療法学、日常生活活動学ほか
成績評価方法・基準	ジャーナル（毎回の講義の振り返り）の提出（約 50%）、出席状況や演習参加態度（約 50%）など加味して評価する
準備学習の内容	各講義題目内容に対し、教科書・参考書の該当部分を読み、理解しづらい単語や概念をノートに記載し、調べておくこと。

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準
			理学療法士
1	オリエンテーション・イントロ	講義概要の説明・理学療法学科を知ったきっかけを話題としたグループワーク（GW）	- 1 理学療法の概要 A 歴史 a 日本・世界の理学療法 B 倫理 a 専門職の使命 b ノーマライゼーション C 法規・関連制度 a 理学療法士及び作業療法士法
2	理学療法とは1	「理学療法・士とは何か」理学療法の定義と歴史、ルーツの解説 「治らないものを治すとは？」	
3	理学療法とは2	理学療法の役割と職域、「理学療法に求められていることは何か」身近な話題から GW	
4	理学療法とは3	理学療法の対象の理解・身体の不自由な人は、どのように社会と歴史を生きてきたか（小説や	
5	理学療法とは4	「障害とは」（ドキュメンタリー映像と映画から感じる障害と考える障害を知る）	
6	理学療法と社会の関わり	社会の中の理学療法、リハビリテーションの中での理学療法の位置づけ	
7	理学療法技術の歩み1	各種理学療法技術の歴史・理学療法を作ってきた人々1・世界の理学療法1 GW	
8	理学療法技術の歩み2	理学療法を作ってきた人々2・世界の理学療法2 GW	
9	理学療法と法律	関連職種の法律と理学療法士法（医師法・保助看法・理学療法士及び作業療法士法）・公衆衛生と理学療法	
10	理学療法と管理・チームワーク	理学療法の実際（関連施設、学内の理学療法士と語る）	
11	理学療法士の倫理1	理学療法士に求められる倫理観（劇画「リアル」を基に語る GW	
12	理学療法の進歩と学問的展開	果たして理学療法は進歩しているのか？これまでの学びと、資料を収集しディスカッションを行う。	
13	理学療法の実際を知る	「対象者・理学療法士・社会にとって理想の理学療法とは何か」を感じて考える 施設見学 別日程（後日掲示）で実施	
14	理学療法の実際から考える1	施設見学を通して感じたこと、考えたことをイントロで考えたことと比べて、報告発表する1	
15	理学療法の実際から考える2	施設見学を通して感じたこと、考えたことをイントロで考えたことと比べて、報告発表する2	

教科書	「理学療法概論 第4版」奈良 勲（医歯薬出版株式会社）
参考書	「目でみるリハビリテーション医学」上田 敏（東京大学出版） 「理学療法のルーツ」武富良雄（メディカルプレス）

理学療法学科

授業科目名	基礎理学療法学	単位認定者	江口勝彦
対象学年	第1学年	学期	後期
単位数	1単位（15コマ）	必修・選択	必修

指導方法	講義・演習
科目の目的	本講座の目的は、理学療法の基盤を理解し、理学療法専門科目をを学ぶための準備状態を確立することである。 キャリア教育の一環として、キャリアデザインについて概説し、身近な理学療法士のキャリアについて学ぶことを通し、自信の今後の方向性を探る。
学習到達目標	<到達目標> 本講座の到達目標は、理学療法の基盤を理解し、理学療法専門科目をを学ぶための準備状態を確立させることである。理学療法の対象領域・障害構造・基本的用語ならびに専門用語の調べ方などについて教授する。 さらに、学生にとって最も身近な理学療法士である学科教員を学習対象に据え、今までのキャリアや研究テーマなどに関してグループ学習する過程を持ち、さらにその後、当該教員から直接初学者にも理解出来るような解説をいただき、理学療法の基礎を理解するとともに、理学療法士の職業意義の考察、自らの将来像、自己理想のイメージングを促し、動機づけと目的意識を形成する。 <行動目標> 1. 理学療法が対象とする領域について、「運動」を中心に説明できる。 2. 障害過程・障害構造について、Nagi のモデルを使い、説明できる。 3. 基本的用語の理解と、専門用語の確認方法を修得する。 4. 学科教員のキャリアと研究に触れ、理学療法について多角的に理解する。

	5. レポート作成方法について学び、実際に作成してみる。 ** ほぼ、毎講義開始時（あるいは最後）に、前回講義の理解度を確認するためにミニクイズを実施する。平均点数で60%を下回る学生については、コース最終時に、再度試験を行う。平均60%以上の点数を取った学生については、成績評価方法にあるように「定期試験（単位認定試験）」は行わない。
関連科目	関連し合う科目・理学療法概論，リハビリテーション概論 この科目が基礎となる科目・専門基礎科目群，専門科目群
成績評価方法・基準	知識レベルの評価は、基本的にはミニクイズにより行う。ミニクイズ未受験（遅刻欠席など）は0点として扱う。これ以外は単位認定のための試験は行わない。（ミニクイズで60%以下の成績のものは、この限りではない） ターミノロジーでは、課題提出に遅れないこと（期限内に提出できない場合は減点対象） 課題提出，自己学習，グループ学習，教員訪問，レポートなどにより総合的に評価する ミニクイズは実施回数の2/3以上の提出が無い場合は、単位を認めない。ミニクイズで60%以下の成績のものは、まとめとして筆記試験により知識レベルの評価を行う。80%以上を合格ラインとする。
準備学習の内容	提示された範囲の予習とミニクイズの為の復習（毎回指示）

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準
			理学療法士
1	コースリエンション 総論1	オリエンテーション 理学療法の対象領域	【専門】 -1 理学療法の概要 B 倫理 a 専門職の使命
2	総論2	ミニクイズ 障害構造・障害過程と理学療法，リハビリテーション	
3	ターミノロジー1	ミニクイズ	
~	~	ターミノロジーA to Z	
7	ターミノロジー5		
8	レポート作成方法	レポート作成方法	
9	演習	教員研究（講義／演習／教員インタビュー）	
~	~	~	
14	~	レポート作成演習／提出	
15	まとめ（試験 ・該当者のみ）		

教科書	南山堂医学大事典．南山堂． 奈良 勲（編著）：理学療法概論．医歯薬出版 奈良 勲（監修）内山靖（編）：理学療法学事典．医学書院
参考書	服部一郎，他：リハビリテーション技術全書第2版，医学書院 上田 敏：目でみるリハビリテーション医学，東京大学出版

授業科目名	理学療法セミナー	単位認定者	鈴木 学
対象学年	第 3 学年	学期	後 期
単位数	1 単位 ( 1 5 コマ )	必修・選択	必修

指導方法	講義と実習
科目の目的	各学生が評価実習で学んだ理学療法評価技術から問題点の抽出、プログラム立案までの一連の過程をグループワークを通して統合することを目的とする。また、総合臨床実習にむけた学習準備状態の確立を目指す。
学習到達目標	グループワークを通して設定された模擬患者を対象とした系統的な理学療法過程を検討し、理解することができる。 各疾患に対する適切な理学療法評価の選択ができる。 視聴覚教材を用いた動作分析ができる。 理学療法評価を基に必要な理学療法プログラムの立案ができる。
関連科目	理学療法評価学演習、評価学実習、総合臨床実習、
成績評価方法・基準	平常点70%、出席点30%
準備学習の内容	評価実習レポート

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準
			理学療法士
1	オリエンテーション		<b>【専門】</b> V-1 概要 A 安全管理 (インシデント・感染症対策等) B 事故・過誤 C 感染症対策 D インフォームドコンセント E 守秘義務 V-2 実施 A 情報管理 (カルテ管理・個人情報保護等) B 個人情報保護 C 記録・報告 D 対人関係技術 E 画像等の医学情報の理解
2	ポスト実習		
3	ポスト実習		
4	ポスト実習	グループワークを中心とする。	
5	ポスト実習	評価学実習で学んだ知識・技術の共有と統合	
6	ポスト実習	模擬患者を対象とした系統的理学療法過程の学習	
7	ポスト実習	レポート作成、発表	
8	ポスト実習	視聴覚教材を用いた動作分析	
9	ポスト実習		
10	ポスト実習		
11	ポスト実習		
12	ポスト実習		
13	ポスト実習		
14	ポスト実習		
15	まとめ		

教科書	使用せず
参考書	使用せず

授 業 科 目 名	臨 床 推 論 演 習	単 位 認 定 者	鈴 木 学
対 象 学 年	第 3 学 年	学 期	前 期
単 位 数	1 単 位 ( 1 5 コ マ )	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	講義とグループ学習
科 目 の 目 的	病院や施設などでエビデンスに基づいた症例の情報の分析や臨床推論を実施できるようにする。
学 習 到 達 目 標	模擬症例の情報から重要な事実を抽出できる。 事実からの確な問題点を想定できる。 問題点に対して仮説の設定および修正ができる。 自己学習の方法、文献検索、プレゼンテーションができる。 チーム医療に必要なコミュニケーションができる。 シナリオの情報を基に総合的な問題点抽出、ゴール設定、治療プログラム立案ができる。
関 連 科 目	運動学、臨床運動学、臨床神経学、理学療法評価学、理学療法評価学演習、臨床動作分析学、神経系理学療法評価・治療学演習、神経系理学療法評価・治療学演習、装具学、地域理学療法学、評価学実習、総合臨床実習、総合臨床実習
成績評価方法・基準	平常点70%、出席点30%
準 備 学 習 の 内 容	

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準
			理学療法士
1	PBLとは	PBLテュートリアル of 意義と手順、グループ編成	<b>【専門】</b> I-1 理学療法の概要 B 倫理 c インフォームドコンセント d 個人情報保護 D 基調 d エビデンスに基づく理学療法 e 診療ガイドライン V-1 概要 A 安全管理（インシデント・感染症対策等） B 事故・過誤 C 感染症対策 D インフォームドコンセント E 守秘義務 V-2 実施 A 情報管理（カルテ管理・個人情報保護等） B 個人情報保護 C 記録・報告 D 対人関係技術 E 画像等の医学情報の理解
2	グループ演習		
3	グループ演習		
4	グループ演習		
5	グループ演習		
6	グループ演習		
7	グループ演習	各グループ単位でシナリオの問題を解決しながら最終的に臨床推論をまとめる	
8	グループ演習		
9	グループ演習		
10	グループ演習		
11	グループ演習		
12	グループ演習		
13	発表会	各グループの臨床推論の発表	
14	発表会	各グループの臨床推論の発表	
15	グループ反省会 まとめ	シナリオの解説と反省会	

教 科 書	PBLテュートリアル of 初回講義用資料を配付
参 考 書	

授業科目名	理学療法研究論	単位認定者	木村 朗
対象学年	第 3 学年	学期	後 期
単位数	1 単位 ( 1 5 コマ )	必修・選択	必 修

指導方法	講義と演習
科目の目的	理学療法の治療は、日進月歩進んでいるが、そのような進歩は、絶え間ない基礎研究や臨床研究によるものである。また、理学療法の技術開発を指向し、学問体系を作るためにも、毎日の研究が必要である。また臨床判断の基礎となる知見を集積が疫学研究のプロセスを必要としていることを学ぶ。
学習到達目標	理学療法が対象とする病気・障害を扱う臨床・疫学研究で表される情報の基本的読解力を身につける。学内や臨床の場で、興味のある基礎研究、臨床研究、調査研究等の計画を立案するための基本的知識と情報機器の操作スキルを身につける。実験および調査研究手法の基礎を習得させることを目標とする。
関連科目	運動学、臨床運動学、臨床心理学、理学療法概論、基礎理学療法学、理学療法評価学、各系理学療法学、物理療法学、日常生活活動学
成績評価方法・基準	課題レポート、発表報告（約 50%）、授業参加度等（約 50%）を総合して評価する。
準備学習の内容	各回の講義内容部分について、新しく目にした単語・概念・計算式等について、教科書および Web 上で可能な限り調べ、ノートを準備の上、確認しておく。

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準
			理学療法士
1	オリエンテーションと研究とは	授業日程、理学療法の研究の必要性 現在の理学療法・士における研究の意義	【専門】 -1 理学療法の概論 B 倫理 a 専門職の使命 D 基調 b 臨床疫学 c 予後・帰結予測 d エビデンスに基づく理学療法 I 研究・教育
2	研究方法論	「研究は誰のために行うのか」理学療法の歴史と研究対象・研究の種類・研究の流れ 創造性と独創性（文献調査・社会調査・実験計画・臨床疫学-1）	
3	研究と倫理	医療と倫理 研究と倫理 ヘルシンキ宣言	
4	論理学	推論・判断と論理学の基礎	
5	研究読解のための情報収集 1	文献の読み方（文献調査・社会調査・実験計画・臨床疫学-2）	
6	研究読解のための情報収集 2	文献の探し方（実習）	
8	研究デザインと統計手法 1	PECO の考え方と、実験・介入研究の読解法	
9	研究デザインと統計手法 2	代表値の差の検定を必要とする研究デザイン	
10	研究デザインと統計手法 3	代表値の比率・要因の効果の検定を必要とする研究デザイン	
11	研究デザインと統計手法 4	代表値の度数の検定を必要とする研究デザイン	
12	理学療法研究の実際	研究の実際（理学療法プロパー教員の研究等の紹介）	
13	理学療法研究課題基礎演習 1	演習 1 既存研究論文の PECO に基づく読解デモンストラーション	
14	理学療法研究課題基礎演習 2	演習 2 既存研究論文の再掲示(パワーポイントによる紹介)発表 まとめ	
15	理学療法研究課題基礎演習 3	演習 3 既存研究論文の再掲示(パワーポイントによる紹介)発表 まとめ	

教科書	はじめての研究法 神陵文庫
参考書	エクセル活用コメディカル統計テキスト, 宮城重二著, 医歯薬出版 (東京図書) <a href="http://www.kimuakilabo.main.jp">www.kimuakilabo.main.jp</a> (Web)

授業科目名	理学療法評価学	単位認定者	蛭間基夫
対象学年	第1学年	学期	後期
単位数	2単位(15コマ)	必修・選択	必修

指導方法	講義及び演習
科目の目的	理学療法評価の意義、目的、評価の過程を知ること。また、基本的事項である情報収集、問診、記録と形態計測および関節可動域測定 of 知識と技術を習得すること。
学習到達目標	理学療法評価の意義、目的、評価の過程が言及できる。情報収集、問診の必要項目を列挙できる。記録方法を言及できる。評価時に理学療法士が配慮すべき点を列挙できる。学生同士で形態計測及び関節可動域測定を実施できる。
関連科目	解剖学、運動学、理学療法概論、表面解剖学と触診法、理学療法評価学演習、運動器系理学療法評価・治療学、神経系理学療法評価・治療学、呼吸・循環・代謝系理学療法評価・治療学、評価学実習、総合臨床実習、総合臨床実習
成績評価方法・基準	筆記試験(40%)及び実技試験(40%)、小テスト(10%)、学習態度(10%)によって総合的に判定する。ただし、筆記試験と実技試験とも各々合格点に到達しなければならない。
準備学習の内容	身体 of ランドマーク、関節可動域測定 of 基本軸、移動軸、参考可動域を演習実施までに全て覚えること。各回演習の前には実技の予習を行うこと。

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準
			理学療法士
1	総論1	講義の概要	<b>【専門基礎】</b> -2 臨床医学総論 B 病気の診断と治療 a 問診、身体所見、記録 <b>【専門】</b> -1 基礎 A 目的と領域 a 目的 b 信頼性と妥当性 c 急性期・回復期・維持期・終末期 B 時期と手順 a 初期・中間・最終 b 立案と説明 c 面接 d 情報収集(検査・画像所見等を含む) e 実施(観察、検査・測定、動作分析) f 統合と解釈 -2 基本評価 A 全身状態・局所所見 a 意識 b バイタルサイン c 栄養状態 d 皮膚(褥瘡を含む) e 排尿・排便 f 摂食・嚥下 B 運動系 a 四肢長・周径 b 関節可動域 V-1 概要 A 安全管理(インシデント・感染症対策等) B 事故・過誤 C 感染症対策 D インフォームドコンセント E 守秘義務 V-2 実施 A 情報管理(カルテ管理・個人情報保護等) B 個人情報保護 C 記録・報告 D 対人関係技術 E 画像等の医学情報の理解
2		意義・目的	
3		評価の対象、評価の種類、評価の過程	
		評価の時期と目的	
4	総論2	評価の環境、評価の器具、評価の注意点	
5		情報の収集(医学的情報・社会的情報)	
		病歴の取り方、面接、問診、観察	
6	各論1・4	形態計測(1)講義：形態計測総論	
7		形態計測(2)講義：四肢長と周径	
8		形態計測(3)演習：四肢長	
9		形態計測(4)演習：周径	
10	各論5・9	関節可動域測定(1)講義：測定の基本	
11		関節可動域測定(2)講義：具体的測定方法	
12		関節可動域測定(3)演習：上肢	
13		関節可動域測定(4)演習：下肢	
14		関節可動域測定(5)演習：頸部、胸腰部	
15	まとめ	総括	

教科書	「理学療法評価学第2版」松澤 正著(金原出版株式会社)
参考書	「PT・OTのための測定評価DVD series1 ROM測定」福田 修監修(三輪書店) 「PT・OTのための測定評価DVD series2 形態測定・反射検査」福田 修監修(三輪書店) その他：講義にて随時紹介する。

授業科目名	理学療法評価学演習	単位認定者	蛭間基夫
対象学年	第2学年	学期	前期
単位数	1単位(15コマ)	必修・選択	必修

指導方法	講義及び演習
科目の目的	解剖学・運動学で学んだ知識を基に機能を再確認しながら、それらの検査方法の理論と技術を学ぶ。評価技術の基本となる筋力評価として徒手筋力検査法(MMT)を中心に学習し、1年時に学習した基本的な理学療法検査・測定技術を再確認し、確実に習得することを目的とする。
学習到達目標	1. 理学療法の記録や患者オリエンテーションの内容を適切な態度で説明できる。 2. 筋力評価の目的・意義・代表的な測定方法を説明できる。 3. MMTを実施できる(注意点や代償運動を説明できることを含む)。 4. 形態測定・関節可動域測定・筋力測定を1人の人へ実施できる。
関連科目	解剖学、運動学、理学療法概論、表面解剖学と触診法、理学療法評価学演習、運動器系理学療法評価・治療学、神経系理学療法評価・治療学、呼吸・循環・代謝系理学療法評価・治療学、評価学実習、総合臨床実習
成績評価方法・基準	筆記試験(35%)及び実技試験(45%)、小テスト(10%)、学習態度(10%)によって総合的に判定する。ただし、筆記試験と実技試験とも各々合格点に到達しなければならない。
準備学習の内容	MMTの演習が始まるまでに作用する筋の起始、付着を全て覚えること。各回演習の前には実技の予習を行うこと。

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準
			理学療法士
1	総論1	理学療法記録：理学療法診療記録・POS・報告書の書き方など	【専門】 -1基礎 B時期と手順 b 立案と説明 c 面接 d 情報収集(検査・画像所見等を含む) e 実施(観察、検査・測定、動作分析) -2基本評価 B運動系 c 筋力 d 筋持久力
2	総論2	患者オリエンテーション：インフォームドコンセント・守秘義務・個人情報保護法など	
3	総論3	接遇	
4	各論1	筋力測定概論(定義,目的,種類) 徒手筋力測定法(MMT)講義：目的・意義・抵抗・注意	
5	各論2-6	徒手筋力測定演習：肩関節	
6		徒手筋力測定演習：肘関節・前腕	
7		徒手筋力測定演習：手関節・手指	
8		徒手筋力測定演習：肩甲帯	
9	演習1	実技テスト(ROM-T・MMTなど)	
10	各論7-10	徒手筋力測定演習：股関節	
11		徒手筋力測定演習：股関節・膝関節	
12		徒手筋力測定演習：足関節	
13		徒手筋力測定演習；頸部・体幹	
14	演習2	実技テスト(ROM-T・MMTなど)	
15	まとめ	総括	

教科書	「理学療法評価学第2版」松澤 正著(金原出版株式会社) 「新・徒手筋力検査法 原著第8版」 Helen J. Hislop, Jacqueline Montgomery 著,津山直一・他訳(協同医書出版社)
参考書	「PT・OTのための測定評価 DVD series3 MMT-頭部・頸部・上肢」福田 修監修(三輪書店) 「PT・OTのための測定評価 DVD series4 MMT-体幹・下肢」福田 修監修(三輪書店) その他：講義にて随時紹介する。

授業科目名	臨床動作分析学	単位認定者	高橋正明
対象学年	第3学年	学期	前期
単位数	1単位(15コマ)	必修・選択	必修

指導方法	講義と演習(高橋、仲保) 動作障害のビデオを多用して分析方法を学習する。
科目の目的	理学療法士が運動障害を評価する上で動作や姿勢を関節により分析し、その原因を仮説立てることおよび治療介入方法を示唆できることは重要である。本授業は、その第1歩として、形系疾患、中枢神経系疾患の基本動作を視聴覚教材、症例記録等を用い相互の意見交流や動作の模倣等により演習形式で授業を進め、より専門的な科目への基礎作りを目的とする。
学習到達目標	前半：正常基本動作の分析 健全人の基本動作を観察により力学的に解釈し、説明できる。 後半：整形疾患、神経疾患によって生じる動作の特徴を陽性徴候と陰性徴候および力学的視点で説明できる。代表的動作障害を持つ模擬症例について動作分析し、介入方法を示唆できる。
関連科目	運動学1, 運動学2, 運動学実習、ADL実習
成績評価方法・基準	定期試験においてビデオによる動作分析の試験 60点以上を合格とする。
準備学習の内容	正常動作は力のモーメント、異常動作に関しては各疾患の動作の特徴

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準
			理学療法士
1	正常動作の分析(1)	動作理解のための力学的基礎	【専門基礎】 -3 運動学 C 運動分析・動作分析 【専門】 -2 理学療法の基礎 G 病態運動学 a 疾患と障害 b 動作障害
2	正常動作の分析(2)	正常基本動作と力学;	
3	正常動作の分析(3)	正常基本動作(椅子からの立ち上がり)の分析	
4	正常動作の分析(4)	正常基本動作(座位動作、寝返り)の分析	
5	異常動作の分析(1)	異常動作の分類(陽性徴候と陰性徴候)	
6	異常動作の分析(2)	異常動作のとらえ方(正常要素と異常要素)	
7	臨床動作分析の過程	動作パターンの多様性と動作の異常、無意識的要素の意識化	
8	整形疾患(仲保担当)	整形疾患の動作の特徴、末梢神経損傷	
9	整形疾患(仲保担当)	疾患別骨関節疾患、筋疾患	
10	片マヒ	動作の特徴と陽性徴候、陰性徴候の分析	
11	脊髄損傷	ADL動作の分析	
12	失調症	特徴と正常要素と異常要素の分析	
13	パーキンソン病	特徴と正常要素と異常要素の分析	
14	小児疾患、他	脳性麻痺、筋ジストロフィー症動作の特徴 高齢者、義足による動作他	
15	まとめ	まとめ	

教科書	「臨床動作分析」 標準理学療法シリーズ 高橋正明編 (医学書院)
参考書	「基礎運動学」 中村隆一, 他 (医歯薬出版)

授業科目名	運動療法総論	単位認定者	加藤 仁志
対象学年	第2学年	学期	前期
単位数	1単位(15コマ)	必修・選択	必修

指導方法	講義(一部演習と実技実習を含む) 15コマ
科目の目的	本講義では、運動療法を行う前提として知っておかなければならない基礎知識を理解することを目的とする。具体的学習内容としては運動療法の概念と基礎、運動の種類、基本的な運動療法、特殊な運動療法などを学習する。
学習到達目標	本講義の到達目標は、運動療法の基礎知識を整理・理解し、より専門的な理学療法治療学(運動器系・神経系・呼吸循環代謝系・徒手系・高齢者・スポーツ傷害の理学療法治療学)を学ぶための基礎的学習能力を確立させることである。
関連科目	専門基礎科目群:解剖学・生理学・運動学・運動生理学、リハビリテーション医学 専門科目群:運動系理学療法評価・治療学、神経系理学療法評価・治療学、呼吸・循環・代謝系理学療法評価・治療学、徒手系理学療法学、高齢者理学療法学、スポーツ傷害理学療法学
成績評価方法・基準	定期試験に加え、小テスト・課題レポート・授業参加度などを加味して評価する。
準備学習の内容	各回授業範囲の教科書内の専門用語の意味を事前に調べて理解しておくこと。

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準
			理学療法士
1	オリエンテーション	今後の講義予定	【専門】 -1 基礎 A 目的と領域 a 目的 b 領域・病期 B 組み立てと手順 a 目標設定 b 介入戦略 c リスク管理 d プログラム - 基本介入手段 A 運動療法 a 全身調整運動 b 関節可動域運動 c 筋力増強運動 d ストレッチング e 筋再教育 f 筋持久力 g 全身持久力 h 感覚・知覚再教育 l 協調運動 j バランス練習 k 基本動作練習 l 歩行練習 n 運動学習 p 各種の治療手技 C 補装具療法 e 歩行補助具 f 適合技術
	運動療法の概念	運動療法の歴史・定義・方法・今後の課題	
2	理学療法の基礎	関節の構造と運動、関節運動の制限	
3	"	随意運動のメカニズム1	
4	"	随意運動のメカニズム2	
5	"	運動制御と運動学習1	
6	"	運動制御と運動学習1	
7	基本的な運動療法	全身調節運動、リラクセーション	
8	"	運動の種類、関節可動域運動	
9	"	関節可動域運動の実際	
10	"	筋力増強運動	
11	"	持久力増強運動	
12	"	協調性運動	
13	"	バランスの獲得・改善	
14	"	基本動作の獲得・改善	
15	まとめ	まとめ	

教科書	「標準理学療法学 専門分野 運動療法学 総論」吉尾雅春 編集(医学書院)
参考書	「運動療法」全国PT・OT学校養成施設連絡協議会 理学療法部会九州ブロック会編(神陵文庫) 「運動療法学」柳沢健編集(金原出版) 「理学療法ハンドブック 改訂第3版 第1巻 理学療法の基礎と評価」 細田多穂・柳澤 健 編集(協同医書出版社)

授 業 科 目 名	運動器系理学療法評価・治療学	単 位 認 定 者	城 下 貴 司
対 象 学 年	第 2 学 年	学 期	前 期
単 位 数	2 単 位 ( 1 5 コ マ )	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	講義
科 目 の 目 的	1. 理学療法の対象となる障害のうち、最も多くの割合を占める運動器系(骨・関節、筋、末梢神経、軟部組織)疾患の概念を理解する 2. 運動器疾患の概念を理解する
学 習 到 達 目 標	各疾患別を学ぶため基礎知識の獲得。
関 連 科 目	運動器系理学療法評価・治療学演習Ⅰ ・ 運動器系理学療法評価・治療学演習
成績評価方法・基準	定期試験得点 50%、中間試験 40%、平常点 5%、出席点 5%
準 備 学 習 の 内 容	

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準
			理学療法士
1	オリエンテーション	科目の概要・講義スケジュール	【専門】 -2 理学療法の基礎 I 痛み a 分類 b メカニズム c 制御機構 -3 各領域の評価 A 骨関節障害 a 変形性関節症 b 骨折 c 関節リウマチとその近縁疾患 B 中枢神経障害 f 脊髄損傷(頸髄損傷を含む) C 神経筋障害 g 末梢神経損傷(腕神経叢損傷、絞扼性末梢神経損傷を含む) I その他の疾患・障害 c 褥瘡 d 熱傷 f 産科・婦人科領域 J 廃用症候群 -3 各領域の治療 A 骨関節障害 a 変形性関節症 b 骨折 c 関節リウマチとその近縁疾患 B 中枢神経障害 f 脊髄損傷(頸髄損傷を含む) C 神経筋障害 g 末梢神経損傷(腕神経叢損傷、絞扼性末梢神経損傷を含む) I その他の疾患・障害 c 褥瘡 d 熱傷 e 悪性腫瘍 f 浮腫 h 産科領域 J 廃用症候群
2 3	整形外科疾患評価法	整形外科疾患とその評価法	
4	痛みとその評価	整形外科的痛みとその評価	
5 6	骨折 靭帯損傷、腱断裂	骨折の運動療法：総論 骨折の運動療法：総論 靭帯損傷、腱断裂の運動療法：総論	
7 8 9 10	関節リウマチ	関節リウマチの運動療法：総論	
11 12 13 14	末梢神経損傷；	末梢神経損傷； 胸郭出口症候群、肘部管症候群、 手根管症候群等 知覚異常大腿痛 梨状筋症候群、足根管症候群等	
15	脊髄損傷	脊髄損傷：総論 脊髄損傷の評価 脊髄損傷の治療	
	まとめ		

教 科 書	中村 利孝：標準整形外科学．医学書院 奈良 勲（監修）：標準理学療法学 運動療法学 総論．医学書院 奈良 勲（監修）：標準理学療法学 運動療法学 各論．医学書院 松澤 正：理学療法評価学．金原出版
参 考 書	細田 多穂 他編：理学療法ハンドブック第1～3巻（協同医書）

授 業 科 目 名	運動器系理学療法評価・治療学演習Ⅰ	単 位 認 定 者	城 下 貴 司
対 象 学 年	第 2 学 年	学 期	後 期
単 位 数	1 単 位 ( 1 5 コ マ )	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	講義・演習・実習
科 目 の 目 的	理学療法の対象となる障害のうち、最も多くの割合を占める運動器系(骨・関節、筋、末梢神経、軟部組織)疾患の内外傷疾患を取り上げ、その整形外科領域の理学療法を行うために必要な基礎知識を学ぶ。
学 習 到 達 目 標	外傷性疾患の理学療法に関わるための基礎知識の獲得
関 連 科 目	運動器系理学療法評価・治療学 ・ 運動器系理学療法評価・治療学演習
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	定期試験得点 40%、中間試験 30%、レポート課題得点 20%、平常点 5%、出席点 5%
準 備 学 習 の 内 容	

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準
			理学療法士
1	オリエンテーション	科目の概要・講義スケジュール 課題担当決定	【専門】 -3 各領域の評価 A 骨関節障害 d スポーツ外傷・障害 e 脊椎疾患 f 腰椎症 g 切断(小児の先天性奇形を含む) h 靭帯損傷 l 肩関節周囲炎・腱板損傷 j 胸郭出口症候群 k 慢性疼痛疾患 l 骨壊死性疾患(大腿骨頭壊死を含む)
2	上肢	学生プレゼンテーション 外傷疾患 肩関節疾患 上腕骨疾患	
3		学生プレゼンテーション	
4		外傷疾患 肘関節疾患	
5		学生プレゼンテーション 外傷疾患 前腕部疾患 手の骨折と脱臼疾患	
6		学生プレゼンテーション	
7		外傷疾患 股関節疾患	
8	小テスト (上肢外傷疾患)	学生プレゼンテーション	
9		外傷疾患 股関節疾患	
10	下肢	学生プレゼンテーション 外傷疾患 大腿骨疾患 膝関節疾患	
11		学生プレゼンテーション	
12		外傷疾患 膝関節疾患 下腿部疾患	
13	小テスト (下肢外傷疾患)	学生プレゼンテーション 外傷疾患 足関節疾患	
14			
15	まとめ		

教 科 書	中村 利孝：標準整形外科学．医学書院 片田重彦/吉澤英造：整形外科手術 後療法ハンドブック．南江堂 奈良 勲(監修)：標準理学療法学 運動療法学 総論．医学書院 奈良 勲(監修)：標準理学療法学 運動療法学 各論．医学書院 松澤 正：理学療法評価学．金原出版
参 考 書	細田 多穂 他編：理学療法ハンドブック第1～3巻(協同医書) 林 典雄ほか：関節機能解剖学に基づく整形外科運動療法ナビゲーション 下肢・体幹 林 典雄ほか：関節機能解剖学に基づく整形外科運動療法ナビゲーション 上肢

授 業 科 目 名	運動器系理学療法評価・治療学演習	単 位 認 定 者	城 下 貴 司
対 象 学 年	第 3 学 年	学 期	前 期
単 位 数	1 単 位 ( 1 5 コ マ )	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	講義・演習・実習
科 目 の 目 的	理学療法の対象となる障害のうち、最も多くの割合を占める運動器系(骨・関節、筋、末梢神経、軟部組織)疾患の理学療法を行うために必要な基礎知識を学ぶ。
学 習 到 達 目 標	理学療法に関わるための各疾患別の基礎知識の獲得
関 連 科 目	運動器系理学療法評価・治療学 ・ 運動器系理学療法評価・治療学演習Ⅰ
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	定期試験得点 40%、中間試験 30%、レポート課題得点 20%、平常点 5%、出席点 5%
準 備 学 習 の 内 容	授業範囲は広範となりますので授業後の復習は必修。

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準
			理学療法士
1	オリエンテーション	課題担当決定	<b>【専門】</b> -3 各領域の治療 A 骨関節障害 d スポーツ外傷・障害 e 脊椎疾患 f 腰椎症 g 切断(小児の先天性奇形を含む) h 靭帯損傷 l 肩関節周囲炎・腱板損傷 j 胸郭出口症候群 k 慢性疼痛疾患 l 骨壊死性疾患(大腿骨頭壊死を含む)
2	上肢疾患	学生プレゼンテーション	
3		肩関節疾患	
4		肘関節疾患	
		手関節および手指疾患	
5	小テスト (上肢疾患)		
6	脊柱疾患	学生プレゼンテーション	
7		頸椎疾患	
8		胸椎疾患	
9		腰椎疾患	
10	小テスト (脊柱疾患)		
11	下肢疾患	学生プレゼンテーション	
12		股関節疾患	
13		膝関節疾患 足関節と足趾	
14	小テスト(下肢疾患)		
15	まとめ		

教 科 書	中村 利孝：標準整形外科学．医学書院 片田重彦/吉澤英造：整形外科手術 後療法ハンドブック．南江堂 奈良 勲(監修)：標準理学療法学 運動療法学 総論．医学書院 奈良 勲(監修)：標準理学療法学 運動療法学 各論．医学書院 松澤 正：理学療法評価学．金原出版
参 考 書	細田 多穂 他編：理学療法ハンドブック第1～3巻(協同医書)

授 業 科 目 名	神経系理学療法評価・治療学	単 位 認 定 者	鈴 木 学
対 象 学 年	第 2 学 年	学 期	後 期
単 位 数	2 単 位 ( 1 5 コ マ )	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	講義および実技
科 目 の 目 的	脳神経など末梢神経と中枢神経系疾患に生じる障害の評価のための検査法と検査結果を如何に統合解釈し、問題を抽出し、目標を設定していくかを学習する。具体的には。片麻痺機能テスト、筋緊張検査、深部腱反射、病的反射、感覚検査、姿勢反射検査、協調性検査、高次脳機能検査などを取り上げ、それらの検査の意義、正常と異常の違いなどを学習する。さらに各種検査を統合し、その結果から問題点の抽出、目標設定を行う能力を養う。
学 習 到 達 目 標	1. 神経系疾患に生じる障害の機能評価としての各種検査法を実施することができる。 2. 疾患に即した検査方法を選択することができる。 3. 検査結果を統合・解釈し、問題点を抽出、目標を決定することができる。
関 連 科 目	運動学、臨床運動学、臨床神経学、理学療法評価学、理学療法評価学演習、臨床動作分析学、神経系理学療法評価・治療学演習、神経系理学療法評価・治療学演習、評価学実習、総合臨床実習、総合臨床実習
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	試験 90%、出席点 10%
準 備 学 習 の 内 容	神経解剖学、神経生理学、神経内科学

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準
			理学療法士
1	神経系の理解(1)	筋紡錘の構造と機能	【専門】 -3 各領域の評価 B 中枢神経障害 a 脳血管障害 c 外傷性脳損傷 d 脳腫瘍 -3 各領域の治療 B 中枢神経障害 a 脳血管障害 c 外傷性脳損傷 d 脳腫瘍
2	神経系の理解(2)	中枢神経系の解剖と生理	
3	検査各論(1)	片麻痺機能検査	
4	検査各論(2)	片麻痺機能検査	
5	検査各論(3)	筋緊張検査, 反射検査	
6	検査各論(4)	反射検査	
7	検査各論(5)	感覚検査	
8	検査各論(6)	小脳機能検査	
9	検査各論(7)	脳神経検査	
10	検査各論(8)	バランス機能検査	
11	検査各論(9)	高次脳機能検査: 意識障害, 知能,	
12	検査各論(10)	高次脳機能検査: 言語障害, 失認と失行	
13	検査各論(11)	神経疾患の異常動作と評価	
14	検査統括	問題点抽出, ゴール設定, 統合と解釈および考察	
15	まとめ	まとめ	

教 科 書	「理学療法評価学第2版」松澤正(金原出版) 「ベッドサイドの神経の診かた」田崎義明ら(南山堂) パワーポイント資料をPDFファイルにて配布予定
参 考 書	「臨床評価指標入門・適用と解釈のポイント」内山靖, 小林武, 潮見泰三編(協同医書出版社) 「片麻痺の運動療法」シグネ・ブルンストローム著, 松村秩訳(医師薬出版)

授 業 科 目 名	神経系理学療法評価・治療学演習	単 位 認 定 者	鈴 木 学
対 象 学 年	第 2 学 年	学 期	後 期
単 位 数	1 単 位 ( 1 5 コ マ )	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	講義と実技
科 目 の 目 的	脳出血や脳梗塞などの脳血管障害，外傷性頭部損傷，脳腫瘍の症状と、それにともなう障害についての知識を習得するとともに、それらの理学療法、具体的には運動療法の原理、治療体系、評価、問題点抽出、目標設定、治療計画の立案方法、リスク管理方法について学習する。治療体系については技術面の習得も演習を実施する。具体的には急性期・回復期・慢性期それぞれに対応した治療アプローチの習得を目指し評価から効果判定まで、系統的な理学療法ができるようにする。
学 習 到 達 目 標	1. 脳血管障害、頭部外傷，脳腫瘍などに生じる障害について説明できる。 2. 片麻痺障害や四肢麻痺に対する理学療法における評価、治療プログラム作成、理学療法実施方法について説明できる。 3. 片麻痺障害や四肢麻痺の理学療法を実施する上でのリスク管理について説明できる。
関 連 科 目	運動学、臨床運動学、臨床神経学、臨床神経学、小児科学、神経系理学療法評価・治療学、神経系理学療法学演習、評価学実習、総合臨床実習、総合臨床実習
成績評価方法・基準	試験 90%、出席点 10%
準 備 学 習 の 内 容	神経解剖学、神経生理学、神経内科学

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準
			理学療法士
1	片麻痺の病態(1)	片麻痺を生じる疾患	【専門】 -3 各領域の評価 B 中枢神経障害 a 脳血管障害 c 外傷性脳損傷 d 脳腫瘍 -3 各領域の治療 B 中枢神経障害 a 脳血管障害 c 外傷性脳損傷 d 脳腫瘍
2	片麻痺の病態(1)	片麻痺の機能障害と回復過程	
3	片麻痺の理学療法(1)	片麻痺の回復時期別の理学療法と治療の原則	
4	片麻痺の急性期理学療法(1)	ベッドサイド訓練の実際とリスク管理	
5	片麻痺の評価	評価項目とその意義	
6	片麻痺の回復期理学療法(1)	起居移動動作の実際	
7	片麻痺の回復期理学療法(2)	起居移動動作の実際	
8	片麻痺の回復期理学療法(3)	起居移動動作の実際	
9	片麻痺の回復期理学療法(4)	起居移動動作の実際	
10	片麻痺の回復期理学療法(5)	四肢の分離運動の促通	
11	片麻痺の回復期理学療法(6)	歩行訓練	
12	片麻痺の回復期理学療法(7)	歩行訓練	
13	片麻痺の回復期理学療法(8)	筋緊張のコントロール，押す人症候群，片麻痺の肩	
14	片麻痺の慢性期理学療法	維持期理学療法と在宅指導	
15	総括	まとめ	

教 科 書	「系統理学療法学 神経障害系理学療法学」丸山仁司 編（医歯薬出版） パワーポイント資料を PDF ファイルにて配布予定
参 考 書	「Steps to Follow」P.M.デービス著（シュプリンガー・フェアラク東京） 「Right in the Middle」P.M.デービス著（シュプリンガー・フェアラク東京）

授 業 科 目 名	神経系理学療法評価・治療学演習	単 位 認 定 者	鈴 木 学
対 象 学 年	第 3 学 年	学 期	前 期
単 位 数	1 単 位 ( 1 5 コ マ )	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	講義と実技
科 目 の 目 的	パーキンソン病、脊髄小脳変性症などの成人神経系疾患の症状とそれに伴う障害についての知識を習得するとともに、それらの理学療法（運動療法の原理、治療体系、評価、問題点抽出、目標設定、治療計画立案、リスク管理）について学習する。治療体系については技術面の習得も演習を実施する。各種神経筋疾患の進行段階に合わせた理学療法、非進行性疾患に対する理学療法の実施能力の習得を目指し、評価から効果判定まで効果的な理学療法ができるようにする。尚、2年次の神経系理学療法学評価治療学および演習で習得できなかった内容についても網羅する。
学 習 到 達 目 標	1. 脳血管障害、頭部外傷、脳腫瘍などに生じる障害について説明できる。 2. パーキンソン病や脊髄小脳変性症などの神経疾患に対する理学療法おける評価、治療プログラム作成、理学療法実施方法について説明できる。 3. パーキンソン病や脊髄小脳変性症などの神経疾患に対する理学療法を実施する上でのリスク管理について説明できる。
関 連 科 目	運動学、臨床運動学、臨床神経学、臨床神経学、小児科学、神経系理学療法評価・治療学、神経系理学療法学演習、評価学実習、総合臨床実習、総合臨床実習
成績評価方法・基準	試験90%、出席点10%
準 備 学 習 の 内 容	神経解剖学、神経生理学、理学療法評価学、理学療法評価学演習、神経系理学療法評価治療学

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準
			理学療法士
1	片麻痺の理学療法	片麻痺の問題点への対処	【専門】 -3 各領域の評価 B 中枢神経障害 b Parkinson 病、Parkinson 症候群 e 脊髄小脳変性症 C 神経筋障害 a 筋ジストロフィー b 筋萎縮性側索硬化症 c 多発性筋炎・皮膚筋炎 d 重症筋無力症 e 多発性硬化症 f ニューロパチー（Guillain-Barré 症候群を含む）
2	片麻痺の理学療法	片麻痺の予後予測	
3	中枢神経変性疾患	パーキンソン病の理学療法（1）	
4	中枢神経変性疾患	パーキンソン病の理学療法（2）	
5	中枢神経変性疾患	筋萎縮性硬化症の理学療法	
6	中枢神経変性疾患	小脳疾患の理学療法	
7	中枢神経変性疾患	脊髄小脳変性症の理学療法	
8	脱髄疾患	多発性硬化症の理学療法	
9	末梢神経疾患	重症筋無力症、ニューロパチーの理学療法	
10	片麻痺とその他の神経系疾患の分析	神経系疾患の異常動作	
11	演習	OSCEによる神経疾患実技	
12	演習	OSCEによる神経疾患実技	
13	演習	OSCEによる神経疾患実技	
14	演習	OSCEによる神経疾患実技	
15	総括	まとめ	

教 科 書	「系統理学療法学 神経障害系理学療法学」丸山仁司 編（医歯薬出版） パワーポイント資料をPDFファイルにて配布予定
参 考 書	

授 業 科 目 名	呼 吸 ・ 循 環 ・ 代 謝 系 理 学 療 法 学 評 価 ・ 治 療 学	単 位 認 定 者	木 村 朗
対 象 学 年	第 3 学 年	学 期	前 期
単 位 数	2 単 位 ( 1 5 コ マ )	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	講義、演習、実技実習 15コマ
科 目 の 目 的	本科目の目的は、呼吸器系・循環器系・代謝系疾患に関連する領域の基礎知識を広く理解し、それぞれの疾患に対応した理学療法の評価と治療法の基本を身につけることである。
学 習 到 達 目 標	各内部疾患と障害の機序を理解し、内部障害者のニーズと基本的な評価項目を列挙することができる。 各内部疾患(者)に対する理学療法の標準的な治療法・理学療法の適応と禁忌の判断・効果判定・リスクを説明することができる。
関 連 科 目	専門基礎科目群：生理学、運動生理学、リハビリテーション医学、内科学 専門科目群：呼吸・循環・代謝系理学療法評価学、呼吸・循環・代謝系理学療法実習
成績評価方法・基準	定期試験(50%)に加え、実技テスト・小テスト・課題レポート・授業参加度など(50%)
準 備 学 習 の 内 容	各回の講義内容部分について、新しく目にした単語・概念、または既に学習済みであっても忘れていくことについて、教科書およびWeb上で可能な限り調べ、ノートを準備の上、確認しておく。

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準
			理学療法士
1	内部障害入門  ．呼吸器系疾患の理学療法	内部障害の定義、疫学、内部障害とリハビリテーション、内部障害（呼吸・循環・代謝系）と理学療法、合併症としての内部障害 呼吸器疾患と機能障害・能力障害	【専門】 -3 各領域の評価 E 呼吸器障害 a 急性呼吸不全 b 慢性閉塞性肺疾患 -2 基本介入手段 E リスク管理 a 疾患別 b 病期別 c 高齢者 -3 各領域の治療 E 呼吸器障害 a 急性呼吸不全 b 慢性閉塞性肺疾患
2	呼吸器系疾患の基礎	呼吸器に関する解剖解剖・生理・運動学	
3	呼吸器疾患の理学療法評価 理学所見	呼吸の理学所見のとり方	
4	・全身持久力・運動耐容能評価（呼吸器患者の全身持久力・運動耐容能評価）	胸郭拡張差測定、肺機能検査、呼吸筋力検査、「O <sub>2</sub> キネティックス」と運動耐容能の評価、運動負荷試験 呼吸器疾患と運動耐容能の評価、運動負荷試験	
5	・呼吸系理学療法評価 1	ADL と QOL の評価	
6	・呼吸系理学療法評価 2	血液ガス検査所見の基礎	
7	・呼吸系理学療法評価 3	胸部レントゲン検査所見の基礎	
8	呼吸器系疾患の病期別理学療法ガイドライン	ガイドライン成立の背景 閉塞性呼吸器疾患の病期別 PT ガイドライン 拘束性呼吸器疾患の病期別 PT ガイドライン	
9	・		
10	．呼吸器系疾患の理学療法（演習）呼吸器系疾患の基本手技 1	リラクゼーション、呼吸介助法、呼吸練習	
11	基本手技 2	胸郭可動域運動、呼吸体操、呼吸筋ストレッチ	
12	基本手技 3	排痰手技	
13	基本手技 4	呼吸筋トレーニング、運動療法、ADL 指導	
14	基本手技 5	排痰手技、咳の介助法	
15	まとめ	まとめ	

教 科 書	理学療法学 6 内部障害系理学療法学 柳澤 健編集 (MEDICAL VIEW)
参 考 書	「理学療法ハンドブック 改訂第3版」細田多穂・他編集 (協同医書出版社) 「呼吸リハビリテーション入門」千住秀明著 (神陵文庫) 「循環器疾患のリハビリテーション」山田純生責任編集 (三輪書店)

授業科目名	呼吸・循環・代謝系理学療法 評価・治療学演習	単位認定者	木村 朗
対象学年	第 3 学年	学期	後 期
単位数	1 単位 ( 15 コマ )	必修・選択	必 修

指導方法	講義、演習、実技実習 15コマ
科目の目的	本科目の目的は、呼吸器系・循環器系・代謝系疾患(者)に対応した理学療法プログラムを立案し、安全に実践するための基本的能力を身につけさせることである。
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>各内部疾患(者)に生じる障害を理解し、基本的な評価項目と治療法を列挙することができる。</li> <li>各内部疾患(者)に対応した理学療法プログラムを立案することができる。</li> <li>各内部疾患(者)・合併者のリスクを判断し、理学療法の評価法・治療法を実施するための適応禁忌の判断基準に基づいて、基本的技術を模擬患者および健常者に対し試みることができる。</li> </ul>
関連科目	専門基礎科目群：生理学、運動生理学、リハビリテーション医学、内科学 専門科目群：呼吸・循環・代謝系理学療法評価学、呼吸・循環・代謝系理学療法学
成績評価方法・基準	定期試験(50%)に加え、実技テスト・小テスト・課題レポート・授業参加度など(50%)
準備学習の内容	各回の講義内容部分について、新しく目にした単語・概念、または既に学習済みであっても忘れていくことについて、教科書およびWeb上で可能な限り調べ、ノートを準備の上、確認しておく。

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準
			理学療法士
1	内部障害のリハビリテーションと循環器系疾患と理学療法	内部障害のリハビリテーションと循環・代謝系疾患と障害・疫学(心疾患・高血圧・動脈硬化症)	【専門】 -3 各領域の評価 F 循環器障害 a 虚血性心疾患(心筋梗塞、狭心症) b 閉塞性動脈硬化症 c Raynaud 症候群
2	循環器解剖生理と病態1	循環器の構造と機能	H 代謝障害 a 糖尿病
3	循環器解剖生理と病態2 循環器解剖生理と病態3	循環系の障害と運動の影響・運動によるリスク 循環器疾患と一般的治療	b 肥満 c 慢性腎臓病 -3 各領域の治療 F 循環器障害 a 虚血性心疾患(心筋梗塞、狭心症) b 閉塞性動脈硬化症 c Raynaud 症候群
4	循環器(心臓)の評価1	心臓の理学所見のとり方(フィジカルアセスメント)、心電図のモニタリング基礎1	H 代謝障害 a 糖尿病
5	循環器(心臓)の評価2	心電図のモニタリング基礎2	b 肥満 c 慢性腎臓病
6	全身持久力・運動耐容能評価(循環器器疾患の全身持久力・運動耐容能評価)	循環器疾患(者)の運動耐容能力の評価(ATの求め方)、運動強度設定(METSの概念)、ADLの評価	
7	循環器系理学療法評価(演習)	心疾患の理学療法の実際1	
8	循環器系理学療法(演習)1	心疾患の理学療法の実際2	
9	循環器系理学療法(演習)1	心疾患の理学療法の実際3	
10	代謝系疾患の理学療法 代謝系疾患・障害(者)の疫学、代謝系疾患の基礎(解剖生理・病態)	代謝疾患(主として糖尿病・肥満)の疫学 運動とエネルギー基質、糖尿病の病態と合併症進展の機序	
11	糖尿病の評価	糖尿病の診断基準、食事療法・薬物療法、検査・SMBG・糖尿病の運動療法の禁忌と適応条件	

			国 家 試 験 出 題 基 準
12	糖尿病の理学療法評価(演習)	SMBG(安静時)	
13	糖尿病の理学療法(演習)2	SMBG(運動前後)運動強度測定方法(HR法)運動処方と運動指導の実際	
14	その他内部障害・代謝系疾患の理学療法(演習)	身体活動量測定法(肥満症、悪性腫瘍等体力消耗性疾患の理学療法)	
15	まとめ	まとめ	

教科書	標準理学療法学 運動療法学 総論 第3版(医学書院) 理学療法士のための運動処方マニュアル(文光堂)
参考書	「理学療法ハンドブック 改訂第3版」細田多穂・他編集(協同医書出版社) 「呼吸リハビリテーション入門」千住秀明著(神陵文庫) 「15レクチャーシリーズ 理学療法テキスト 内部障害理学療法学 循環・代謝」 石川 朗編(中山書店)

授業科目名	小児理学療法学	単位認定者	富田 浩
対象学年	第3学年	学期	後期
単位数	1単位(15コマ)	必修・選択	必修

指導方法	講義および演習
科目の目的	こどもの発達支援に必要な基礎知識を整理・習得し使えるようにする。 主に、脳性麻痺，筋ジストロフィー，二分脊椎，ダウン症のこどもの発達の特徴を知り，その評価方法と理学療法介入の基本的な考え方を知る。 こどもに対する理学療法プログラムの立案ができるようにする。
学習到達目標	正常な姿勢・運動発達の概要を説明することができる。 小児，特に運動発達に関する評価項目が挙げられ，実施できる。 小児理学療法における主要な対象疾患について，その概要が説明でき，理学療法介入の方針とその内容が説明できる。
関連科目	人間発達学，小児科学，リハビリテーション医学，理学療法評価学，基礎理学療法学，運動療法総論他
成績評価方法・基準	課題(30%)，筆記試験(70%)
準備学習の内容	本科目開講以前に開講された科目において，本科目の各回のテーマに関連した内容があった場合には，その内容について確認しておくこと。

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準
			理学療法士
1	姿勢と運動の発達1	原始反射と姿勢反射	【専門】 -3 各領域の評価 D 運動発達障害 a 脳性麻痺 b 二分脊椎 c 運動発達遅滞 d Down 症候群 e 骨系統疾患 -3 各領域の評価 D 運動発達障害 a 脳性麻痺 b 二分脊椎 c 運動発達遅滞 d Down 症候群 e 骨系統疾患
2	姿勢と運動の発達2	姿勢と運動の発達	
3	姿勢と運動の発達3	運動発達の評価	
4	総論	小児理学療法の特徴	
5	各論1	脳性麻痺児の姿勢と運動の特徴	
6	各論2	脳性麻痺児に対する理学療法	
7	各論3	二分脊椎児に対する理学療法	
8	各論4	筋ジストロフィー児に対する理学療法	
9	各論5	ダウン症児に対する理学療法	
10	各論6	小児集中治療室における理学療法	
11	各論7	他の疾患の児に対する理学療法	
12	各論8	発達援助のための補助具	
13	課題発表	課題発表	
14	課題発表	課題発表	
15	まとめ	まとめ	

教科書	「理学療法学テキスト こどもの理学療法 第2版」千住秀明監修 神陵文庫
参考書	「PTマニュアル 小児の理学療法」 河村光俊著 医歯薬出版 「理学療法ハンドブック第2巻」 細田多穂，柳澤健編 協同医書

授業科目名	理学療法特殊講義	単位認定者	江口勝彦
対象学年	第3学年	学期	後期
単位数	1単位(7.5コマ)	必修・選択	必修

指導方法	講義
科目の目的	<p>主たる対照疾患の一つである脳血管障害においては、前頭葉運動野にあるBetzの巨大細胞から始まる錐体路を中心とした運動の神経機構の破綻のみならず、特殊な高次脳機能の障害による症候が存在する。また、理学療法の臨床を取り巻く状況は、高齢社会、介護保険などに象徴されるように在宅ケア、ターミナルケアへと広がりつつある一方で、高度先進医療あるいは超急性期治療への参画などにも広がっている。</p> <p>本講義においては、高次脳機能、急性期リハビリテーションという2つのテーマについて、臨床的なあるいは新しいトピックスを交えながら概説する。</p>
学習到達目標	<p>1) 理学療法に関連する高次脳機能について、局在と症候を中心に理解する。</p> <p>2) 理学療法に関連する高次脳機能障害に関する評価について理解する。</p> <p>3) 理学療法に関連する高次脳機能障害に関する治療戦略について理解する。</p> <p>4) リハビリテーション前置主義について理解する。</p> <p>5) 重症疾患患者とリスク管理について理解する。</p> <p>6) 清潔・不潔の概念、手洗いの重要性を理解する。</p> <p>7) 救命救急センター・周術期・集中治療室における理学療法について知る。</p>
関連科目	<p>関連し合う科目・臨床神経学、神経系理学療法評価・治療学、医療概論、臨床医学特殊講義、内科学、各理学療法評価・治療学</p> <p>この科目が基礎となる科目・総合臨床実習</p>
成績評価方法・基準	講義出席、態度、筆記試験
準備学習の内容	<p>脳の解剖、臨床神経学神経、臨床神経学の復習。</p> <p>心電図の復習</p>

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準
			理学療法士
1 ~ 4	高次脳機能障害と理学療法 (柴田雅祥)	<p>1. 高次脳機能とは</p> <p>2. 入力系の障害、出力系の障害 言語の障害、認知の障害、行為の障害</p> <p>3. 中枢神経系の構造と局所機能の復習</p> <p>4. 病巣と高次脳機能障害 局在論、症候・症状、評価、治療</p> <p>5. 高次脳機能に対する理学療法</p>	<p>【専門】</p> <p>-3 各領域の評価</p> <p>B 中枢神経障害</p> <p>a 脳血管障害</p> <p>c 外傷性脳損傷</p> <p>d 脳腫瘍</p> <p>-1 基礎</p> <p>A 目的と領域</p> <p>b 領域・病期</p> <p>B 組み立てと手順</p> <p>a 目標設定</p> <p>b 介入戦略</p> <p>c リスク管理</p> <p>d プログラム</p> <p>-2 基本介入手段</p> <p>E リスク管理</p> <p>b 病期別</p> <p>-3 各領域の治療</p> <p>B 中枢神経障害</p> <p>a 脳血管障害</p> <p>c 外傷性脳損傷</p> <p>d 脳腫瘍</p>
5 ~ 7	急性期・集中治療における理学療法 (江口勝彦)	<p>1. リハビリテーション医療、理学療法の変遷</p> <p>2. 急性期理学療法とリスク管理 重症疾患患者/体力消耗状態</p> <p>3. 清潔と不潔 手洗い 感染予防</p> <p>4. モニタリング</p> <p>5. 救命救急センターにおける理学療法</p> <p>6. 周術期理学療法</p> <p>7. 集中治療室における理学療法</p>	
8	まとめ	筆記試験	

教科書	初山 泰弘(監): 図解 自立支援のための患者ケア技術. 医学書院
参考書	別途

授業科目名	物理療法学	単位認定者	松澤正
対象学年	第2学年	学期	後期
単位数	2単位(15コマ)	必修・選択	必修

指導方法	講義と実習
科目の目的	物理療法は、運動療法と共に、理学療法の中で車の両輪をなすもので、その治療法を理解することは、疾病治療を進める上で欠かせないものであり、物理療法の治療根拠と実際を学習する。物理療法の前半として、電気療法、電気診断、超音波療法、マッサージ、牽引療法等について、その定義、分類、原理、生理学的作用、適応、禁忌、実際について、基本的事項を習得させることを目的とする。
学習到達目標	臨床実習において、物理療法の治療に当り、その治療根拠を理解し、各種疾患に対し、適切な治療ができるようにすることを目標とする。なお、グループワークの中で、自分の果たす役割ができるようにすることを目指す。
関連科目	生理学・運動学・内科学 整形外科学 基礎理学療法学
成績評価方法・基準	筆記試験やレポート等を総合して評価する。 試験 50%、実習レポート 50%
準備学習の内容	電気、力学、熱力学の基本的物理用語を理解しておく

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準
			理学療法士
1		物理療法の定義、位置付け、物理療法の原理、分類	【専門】 -2 基本介入手段 B 物理療法 b 電気刺激療法 e 超音波療法 g 牽引療法 h マッサージ E リスク
2	電気療法 (電気療法の定義、分類、電気の基礎、電気生理学)		
3	電気療法 (低周波療法、経皮的電気刺激療法、干渉波療法、機能的電気刺激法)		
4	電気診断(クロナキシー、SD 曲線、誘発筋電図)		
5	超音波療法(定義、原理、生理学的作用、治療の実際)		
6	マッサージ (定義、生理学的作用、基本手技)		
7	マッサージ (身体各部の手技の実際)		
8	牽引療法(牽引療法の定義、生理学的作用、実際)		
9	以上、講義で取り上げた治療法と診断法(SD 曲線、		
10	クロナキシー、誘発筋電図、低周波療法、SSP 療法、		
11	干渉波療法、超音波療法、牽引療法)について、グル		
12	ープワークを週毎に治療法を変えて実習する。		
13	まとめ		
14			
15			

教科書	「物理療法学」松澤正他(金原出版)
参考書	

授業科目名	物理療法学演習	単位認定者	黒	力
対象学年	第3学年	学期	前	期
単位数	1単位(15コマ)	必修・選択	必	修

指導方法	講義と実習
科目の目的	物理療法は、運動療法と共に、理学療法の中で車の両輪をなすもので、その治療法を理解することは、疾病治療を進める上で欠かせないものであり、物理療法の治療根拠と実際を学習する。物理療法の後半部分で、温熱療法、水療法、光線療法等について、その定義、分類、原理、生理学的作用、適応、禁忌、実際について基本的事項を習得させることを目的とする。
学習到達目標	臨床実習において物理療法の治療に当り、その治療根拠を理解し、各種疾患に対し、適切な治療ができるようにすることを目標とする。なお、グループワークの中で、自分の果たす役割ができるようにすることを目指す。
関連科目	生理学 運動学 内科学 整形外科学 基礎理学療法学
成績評価方法・基準	筆記試験(45%) 実習レポート(45%) 学習態度・その他(10%)
準備学習の内容	事前に教科書ならびに実習書、実習要項を熟読の上参加すること。

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準
			理学療法士
1		温熱・寒冷療法(定義、熱力学、生理学的作用)	【専門】 -2 基本介入手段 B 物理療法 a 温熱・寒冷療法 b 電気刺激療法 c 電磁波療法 d 光線療法 e 筋再教育
2		温熱・寒冷療法(寒冷の定義、分類、生理学的作用)	
3		温熱・寒冷療法(温熱療法の実際、寒冷療法の実際)	
4		高周波療法(高周波療法の原理、生理学的作用、治療効果)	
5		高周波療法(超短波療法、極超短波療法、適応、禁忌)	
6		水療法(水療法の定義、生理学的作用:非特異的作用、特異的作用)	
7		水療法(水療法の実際)	
8		光線療法(光線療法の定義、分類、生理学的作用)	
9		光線療法(光線療法の実際:赤外線療法、日光浴、紫外線療法)	
10		光線療法(レーザー療法:定義、生理学的作用、応用)	
11		以上、講義で取り上げた治療法(ホットパック療法、パラフィン療法、クリッカー、寒冷療法、極超短波療法、ハバートタンク、全身浴、赤外線療法、紫外線療法、レーザー療法)について、グループワークを各週毎に治療法を変えて実習する。	
12		期末試験	
13			
14			
15			

教科書	「物理療法学」 金原出版
参考書	「物理療法学実習書」 群馬パーズ大学編

授 業 科 目 名	装 具 学	単 位 認 定 者	江 口 勝 彦
対 象 学 年	第 3 学 年	学 期	前 期
単 位 数	2 単 位 ( 3 0 コ マ )	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	講義，実技演習
科 目 の 目 的	理学療法の治療手段の一つとして，装具を理解する．
学 習 到 達 目 標	理学療法治療学との連携を考慮し，有効な治療手段として装具を選択できることを第一の目標とする． 装具に関する基礎的知識と理学療法に必要な適合判定を学ぶ．基礎的知識は，装具の定義，歴史，目的，装具の種類，装具の適応，装具の構造と材料などを内容とする．非常に多くの種類の装具について，形・名称のみならず憶えなければならない事項がたくさんあるので，自信で描いてみたり，実物を装着してみたりしながら学習するとよい． また，演習としてギプス採型，装具作成などを行う．
関 連 科 目	関連し合う科目・各理学療法評価・治療学，臨床実習科目 この科目が基礎となる科目・総合臨床学実習
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	1) 前回の講義の内容に関してミニクイズを行い，学習度を評価する． 2) 講義最終に中間のまとめとして筆記試験を行う． 3) 上記1), 2) の点数が合格ライン（各60%）に達しない学生に対し，最終回に再度試験を行う． 4) 実技演習での参加，態度，成果（採型実習各10%，製作作品，足底板・スプリント各15%）を成績に反映する． 5) 実技演習は全時間の参加をもって，単位認定の条件とする．
準 備 学 習 の 内 容	第2講：力学の復習 第3講～第10講：下肢の解剖，運動学の復習 第11講～第13講：脊柱の解剖，運動学の復習 第14講～第15講：手の解剖，運動学の復習 第17講 運動器系理学療法評価・治療学の復習 第18講 神経系理学療法評価・治療学の復習 第19講 呼吸循環代謝系理学療法評価・治療学の復習 演習1～8：演習ガイダンスで説明する

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準
			理学療法士
1 2	コースオリエンテーション 概論	コースオリエンテーション・科目の概要・学習法など 装具学概論 下肢装具総論 下肢装具総論	【専門】 -2 基本介入手段 C 補装具療法 b 装具（上肢・下肢・体幹） f 適合技術
3 4	下肢装具 下肢装具	ミニクイズ・短下肢装具 短下肢装具	
5 6	下肢装具 下肢装具	ミニクイズ・短下肢装具 股装具・膝装具	
7 8	下肢装具 下肢装具	ミニクイズ・長下肢装具 その他の下肢装具	
9 10	下肢装具 下肢装具	ミニクイズ・靴の補正 足底装具	
11 12	体幹装具 体幹装具	ミニクイズ・体幹装具 体幹装具	
13 14	体幹装具 上肢装具	ミニクイズ・体幹装具 上肢装具	
15 16	上肢装具 中間のまとめ	ミニクイズ・上肢装具 筆記試験	

			国 家 試 験 出 題 基 準
17	臨床編（城下貴司）	運動器系理学療法における装具	
18	臨床編（鈴木学）	神経系理学療法における装具	
19	臨床編（木村朗）	内部障害系理学療法における装具	
20	演習ガイダンス	演習ガイダンス	
21	演習	ギプス採型実習（体幹装具）	
22	演習	ギプス採型実習（下肢装具）	
23	演習	スプリント作成（短対立装具）	
24	演習	スプリント作成（短対立装具）	
25	演習	足底板作成	
26	演習	足底板作成	
27	演習	足底板作成	
28	演習	足底板作成	
29	まとめ	知識の整理	
30		筆記試験	

教 科 書	加倉井周一，初山泰弘，渡辺英夫編：新編装具治療マニュアル．医歯薬出版． 細田多穂：義肢装具学テキスト．南江堂．
参 考 書	日本義肢装具学会監修：装具学．医歯薬出版． 川村次郎・竹内孝仁：義肢装具学．医学書院． そのほか

授 業 科 目 名	義 肢 学	単 位 認 定 者	平 井 正 利
対 象 学 年	第 3 学 年	学 期	後 期
単 位 数	1 単 位 ( 1 5 コ マ )	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	講義形式の座学および実習。
科 目 の 目 的	義肢の目的、構造、処方、適合判定の基礎知識を学ぶ。 義肢の組立、調整方法、異常歩行の分析などの実習を行う。
学 習 到 達 目 標	症例に合った義肢の適応判断、適合判定が行える様になる。知識的には国家試験レベルを最低ラインとする。
関 連 科 目	解剖学，生理学，運動学，運動生理学，整形外科学，理学療法評価学，運動器系理学療法学，神経系理学療法学，装具学，高齢者理学療法学・スポーツ障害・障害理学療法学，他
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	筆記試験、出席、態度など総合的に判断する。
準 備 学 習 の 内 容	各回授業範囲の専門用語の意味を事前に調べ理解しておく。

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準
			理学療法士
1	義肢総論	概論	【専門】 -2 基本介入手段 C 補装具療法 a 義肢（義手・義足） f 適合技術
2	義肢総論	力学	
3	義肢総論	足部	
4	義肢総論	膝継手	
5	下腿義足	P T B 式 ・ P T S 式 ・ K B M 式 ・ T S B 式	
6	下腿義足	アライメント・適合・異常歩行	
7	大腿義足	四辺形・I R C	
8	大腿義足	アライメント・適合・異常歩行	
9	大腿義足	組み立て実習	
10	大腿・下腿義足	疑似体験実習	
11	足部・股義足・義手	各概論	
12	義肢装着訓練	概論	
13	国家試験対策	過去の試験問題を理解する	
14	国家試験対策	過去の試験問題を理解する	
15	まとめ		

教 科 書	「義肢装具学テキスト」細田多穂（南江堂）
参 考 書	

授 業 科 目 名	徒 手 系 理 学 療 法 学	単 位 認 定 者	城 下 貴 司
対 象 学 年	第 3 学 年	学 期	後 期
単 位 数	1 単 位 ( 1 5 コ マ )	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	講義及び実技指導
科 目 の 目 的	本科目では、理学療法の一画をなす徒手療法について、その体系、治療原理、各手技の適用や基本的な技術について学ぶ。 特に固有受容性神経筋促通法 (Proprioceptive Neuromuscular Facilitation; PNF) 関節、軟部組織、神経モビライゼーションについては、その原理を理解し、基本手技を修得することを目的とする。
学 習 到 達 目 標	徒手療法の種類が言える。 それぞれの手技の治療原理と適用、その根拠が言える。 PNFの基本パターン、基本的なモビライゼーションが実施できる。
関 連 科 目	解剖学、生理学、運動学、基礎理学療法学、運動系理学療法学、神経系理学療法学、呼吸・循環・代謝系理学療法学
成績評価方法・基準	定期試験得点 90%、平常点 5%、出席点 5%
準 備 学 習 の 内 容	

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準
			理学療法士
1	ManualTherapy Concept PNF 概念 1	講義および実技	【専門】 -2 基本介入手段 A 運動療法 b 関節可動域運動 c 筋力増強運動 d ストレッチング e 筋再教育 m 痛みに対する運動療法 p 各種の治療手技
2	Mobilization Concept Joint Mobilization Concept PNF 概念 2	講義および実技	
3	Soft Tissue Mobilization Concept 上肢パターン(PNF)	講義および実技	
4	Nerve Mobilization Concept thoracic vertebrae	講義および実技	
5	上肢パターン(PNF) lumbar vertebra	講義および実技	
6	下肢パターン(PNF)	講義および実技	
7	shoulder 上肢パターン(PNF)	講義および実技	
8	elbow	講義および実技	
9	両側性対称性(PNF)	講義および実技	
10	wrist	講義および実技	
11	両側性対称性(PNF)	講義および実技	
12	hip joint 肩 甲 帯 パ タ ー ン (PNF)	講義および実技	
13	knee joint	講義および実技	
14	骨 盤 帯 パ タ ー ン (PNF)	講義および実技	
15	Foot&Ankle まとめ		

教 科 書	細田 多穂：理学療法ハンドブック第2巻 治療アプローチ 協同医書
参 考 書	

授 業 科 目 名	ス ポ ー ツ 傷 害 理 学 療 法 学	単 位 認 定 者	城 下 貴 司
対 象 学 年	第 3 学 年	学 期	後 期
単 位 数	1 単 位 ( 1 5 コ マ )	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	講義、演習、実技実習
科 目 の 目 的	本講座の目的は、スポーツ傷害・障害に対する基礎知識とその理学療法の評価・治療手技の習得
学 習 到 達 目 標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ スポーツ傷害に関する基礎知識を列挙することができる。</li> <li>・ スポーツ傷害・障害に対する理学療法評価の意義・目的・評価過程・判断基準を列挙できる。</li> <li>・ スポーツ傷害・障害に対する基本的な理学療法の治療手技を適正に実践できる。</li> </ul>
関 連 科 目	専門基礎科目群：生理学，運動生理学，整形外科学， 専門科目群：運動器系理学療法評価学，運動器系理学療法学，徒手系理学療法学，健康増進・スポーツ コンディショニング論
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	定期試験得点 90%、平常点 5%、出席点 5%
準 備 学 習 の 内 容	

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準
			理学療法士
1	オリエンテーション	今後の講義予定	<b>【専門】</b> -2 基本介入手段 A 運動療法 p 各種の治療手技 -3 各領域の治療 A 骨関節障害 d スポーツ外傷・障害
2	スポーツ傷害の理学療法総論	スポーツ医学とアスレチックリハビリテーション	
3	講義	スポーツ医学と基礎	
4		身体運動とバイオメカニクス	
5		スポーツ傷害に対する演習（肩関節を中心に） 1	
6		スポーツ傷害に対する演習（肩関節を中心に） 2	
7		スポーツ傷害に対する演習（肩関節を中心に） 3	
8	スポーツ傷害の理学療法各論	スポーツ傷害に対する演習（スポーツテーピングを中心に）1	
9	講義	スポーツ傷害に対する演習（スポーツテーピングを中心に）2	
10		スポーツ傷害に対する演習（スポーツテーピングを中心に）3	
11	スポーツ傷害の理学療法各論	スポーツ傷害に対する演習（スポーツテーピングを中心に）4	
12	実技	スポーツ傷害に対する演習（スポーツテーピングを中心に）5	
13		スポーツ傷害に対する演習（スポーツテーピングを中心に）6	
14		スポーツ傷害に対する演習（スポーツテーピングを中心に）7	
15		まとめ	

教 科 書	細田 多穂：理学療法ハンドブック第2巻 治療アプローチ 協同医書
参 考 書	栗山 節郎：DVDでみるテーピングの実際 南江堂 黒沢 尚：スポーツ外傷学 (4) 下肢 医歯薬出版

授業科目名	日常生活活動学	単位認定者	蛭 間 基 夫
対象学年	第 2 学 年	学 期	前 期
単 位 数	2 単 位 ( 1 5 コ マ )	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	講義及び演習
科 目 の 目 的	人間が日常生活を営む上で必要な基本動作となる起居・移動，食事，排泄，入浴，更衣，整容などを取り上げ，それらの動作の分析・評価方法，また，障害をもつ患者さんへの練習・指導方法などについて学習する．さらに，日常生活活動各動作の自立度の改善向上に有効な手段である歩行補助具，車いすなどの使用法，適応などについて学ぶ．
学 習 到 達 目 標	1. ADL・APDL・IADL・QOL の概念や範囲を説明できる． 2. 代表的な ADL 評価法の目的と活用法について説明できる． 3. 基本動作を含む ADL を運動学的にとらえ，模倣することができる． 4. 移動補助具の基本構造が説明でき，使用することができる．
関 連 科 目	日常生活活動学演習，理学療法評価学，臨床動作分析学，生活環境学，生活環境学演習，地域理学療法学，地域理学療法学演習，運動器系理学療法評価・治療学，神経系理学療法評価・治療学，呼吸・循環・代謝系理学療法評価・治療学，小児理学療法学，装具学，義肢学
成績評価方法・基準	定期試験(70%)に加え，小テスト(10%)，課題(10%)，学習態度(10%)などを総合的に判断する．
準 備 学 習 の 内 容	前回の講義の内容を復習し，次回の講義との関連性を事前に理解して講義に臨むこと．

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準
			理学療法士
1	オリエンテーション 概論 1	ガイダンス ADL の概念と範囲	<b>【専門】</b> -2 理学療法の基礎 K 活動・参加 a ADL ( Activities of Daily Living ) b IADL( Instrumental Activities of Daily Living ) c QOL( Quality of Life ) -2 基本介入手段 C 補装具療法 c 車椅子、座位保持装置 d 移乗機器 f 適合技術 DADL と QOL ( Qualiityof Life ) F 個人因子 G 環境因子 a 住環境調査 ( 家屋調査等 ) b 家族関係 c 家庭環境 -1 基礎 E 福祉用具 a 福祉用具導入の考え方 b 代表的な福祉用具 c 自立生活支援機器 ( 環境制御装置等を含む ) d スポーツ・レクリエーション用具 F 家族への指導 a 介助方法
2	概論 2	ADL の評価：目的・基準・尺度	
3	各論 1	ADL の評価：代表的な評価表	
4	各論 2	ADL の評価：代表的な評価表	
5	各論 3	セルフケアの構成要素 ( 食事・排泄・更衣・入浴・整容 )	
6	各論 4	セルフケアの構成要素 ( 食事・排泄・更衣・入浴・整容 )	
7	各論 5	基本動作	
8	演習 1	基本動作	
9	各論 6	移動補助具 ( 杖・松葉杖 )	
10	演習 2	移動補助具 ( 杖・歩行器 ) 複合動作訓練	
11	各論 7	移動補助具 ( 車いす )	
12	演習 3	移動補助具 ( 車いす ) 複合動作訓練	
13	演習 4	移動補助具 ( 車いす ) 複合動作訓練	
14	各論 8・演習 5	リハビリテーション支援機器 ( 移乗関連機器・自助具 )	
15	総括	まとめ	

教 科 書	「日常生活活動(ADL)」橋本 隆他編集(神陵文庫)， 「新版 姿勢と動作～ADL その基礎から応用～」斉藤 宏他著 (メヂカルフレンド社)
参 考 書	「新版日常生活活動(ADL)-評価と支援の実際-」伊藤利之・他編集 (医歯薬出版) 「標準理学療法学 日常生活活動学・生活環境学」鶴見隆正編集 (医学書院) 「標準理学療法学 臨床動作分析」高橋正明編集 (医学書院) 他

授 業 科 目 名	日 常 生 活 活 動 学 演 習	単 位 認 定 者	蛭 間 基 夫
対 象 学 年	第 2 学 年	学 期	後 期
単 位 数	1 単 位 ( 1 5 コ マ )	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	講義及び演習
科 目 の 目 的	日常生活活動学で学んだセルフケアや基本動作について、疾患、障害別に分析・評価および練習・指導方法を学習する。具体的には、中枢神経疾患、脊髄損傷、関節リウマチ、骨・関節疾患、筋萎縮性側索硬化症などの疾患特有な障害に対し、歩行補助具、車いす、自助具、コミュニケーション装置の使用法を含めた日常生活へのアプローチ技術を習得する。
学 習 到 達 目 標	1. 各障害の ADL の特徴を列挙できる。 2. 各障害の ADL 評価ができる。 3. 各障害の ADL 指導の実際ができる(各動作の手順の説明、必要な介助方法を他の学生に指導し、自身の状況を確認する)。 4. 各障害に必要な自助具、福祉機器の特徴を理解し、それを選定できる。
関 連 科 目	日常生活活動学、生活環境学、生活環境学演習、地域理学療法学、地域理学療法学演習、運動器系理学療法評価・治療学・神経系理学療法評価・治療学・呼吸・循環・代謝系理学療法評価・治療学、小児理学療法学、運動器系理学療法評価・治療学演習、神経系理学療法評価・治療学演習、呼吸・循環・代謝系理学療法評価学演習
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	定期試験(65%)に加え、課題(15%)、学習態度(20%)などを総合的に判断する。
準 備 学 習 の 内 容	前回の講義の内容を復習し、次回の講義との関連性を事前に理解して講義に臨むこと。

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準
			理学療法士
1	講義及び演習	小児関連疾患	<b>【専門】</b> -2 理学療法の基礎 K 活動・参加 a ADL ( Activities of Daily Living ) b IADL( Instrumental Activities of Daily Living ) c QOL( Quality of Life ) -2 基本介入手段 C 補装具療法 c 車椅子、座位保持装置 d 移乗機器 f 適合技術 DADL と QOL ( Qualiityof Life) F 個人因子 G 環境因子 a 住環境調査 ( 家屋調査等 ) b 家族関係 c 家庭環境 -1 基礎 E 福祉用具 a 福祉用具導入の考え方 b 代表的な福祉用具 c 自立生活支援機器 ( 環境制御装置等を含む ) d スポーツ・レクリエーション用具 F 家族への指導 a 介助方法
2		脳卒中片麻痺(1)(2)(3)	
3			
4			
5		頸髄損傷(四肢麻痺)(1)(2)	
6			
7		胸腰髄損傷(対麻痺)(1)	
8		関節リウマチ(1)(2)	
9			
10		骨関節形態障害(変形性関節症：下肢疾患)	
11		筋ジストロフィー症	
12		筋萎縮性側索硬化症	
		その他(腰痛、老年期、糖尿病) 上記疾患の ・ ADL の特徴 ・ ADL 評価 ・ ADL 指導の実際	
13	演習	車いすの操作と介助(1)(2)	
14			
15	総括	まとめ	

教 科 書	「日常生活活動 ( ADL )」橋本 隆・他編集(神陵文庫) , 「新版 姿勢と動作～ADL その基礎から応用～」斉藤 宏他著 ( メヂカルフレンド社 )
参 考 書	「新版日常生活活動(ADL)-評価と支援の実際-」伊藤利之・他編集 ( 医歯薬出版 ) 「標準理学療法学 日常生活活動学・生活環境学」鶴見 隆正編集 ( 医学書院 ) 「理学療法ハンドブック第3巻」細田多穂, 柳澤健編 ( 協同医書出版社 ) 他

授業科目名	地域理学療法学	単位認定者	蛭間基夫
対象学年	第3学年	学期	前期
単位数	2単位(15コマ)	必修・選択	必修

指導方法	講義
科目の目的	国民の疾病構造の変化と少子高齢化の進行に伴って病院を中心としたリハビリテーションサービスの提供から在宅や地域中心のリハビリテーションサービスの提供へと変化してきた。本講義では地域リハビリテーションサービスおよび理学療法サービスの目的、位置づけ、現況等を概説するとともに、通所・入所施設及び在宅で生活をする障害者・高齢者を対象に理学療法を提供する際に必要な知識・技術を修得することを目的とする。
学習到達目標	1. 地域リハビリテーションの概念を理解する。 2. 地域理学療法の機能を理解する。 3. 通所・入所施設、在宅での理学療法の目的と実践方法を理解する。 4. 介護保険について理解する。
関連科目	高齢者理学療法学、健康増進・スポーツコンディショニング論、日常生活活動学、日常生活活動学実習、地域理学療法学実習、生活環境学、生活環境学実習、運動器系理学療法評価・治療学、神経系理学療法評価・治療学、呼吸・循環・代謝系理学療法評価・治療学、小児理学療法学、運動器系理学療法評価・治療学演習、神経系理学療法評価・治療学演習、呼吸・循環・代謝系理学療法評価学演習
成績評価方法・基準	定期試験(80%)に加え、課題(10%)、学習態度(10%)などを総合的に判断する。
準備学習の内容	前回の講義の内容を復習し、次回の講義との関連性を事前に理解して講義に臨むこと。

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準
			理学療法士
1	オリエンテーション	ガイダンス	<b>【専門】</b> -3 各領域の評価 K 保健・福祉領域 a 予防保健医学・b 産業理学療法 -2 基本介入手段 F 個人因子 G 環境因子 a 住環境調査(家屋調査等) b 家族関係 c 家庭環境 -3 各領域の治療 K 保健・福祉領域 a 健康増進・b 産業理学療法 -1 基礎 A 基礎概念 a 地域とは・b 地域における障害者(児)・高齢者 B 制度 a 制度と関連法規・b 社会資源 C 地域理学療法 a 理念と目的 b 他職種との協働 c 地域との連携 d 訪問理学療法 e 通所理学療法 f 施設における理学療法 g 障害予防 h 健康増進 i 特定疾患の評価と治療 E 福祉用具 a 福祉用具導入の考え方 b 代表的な福祉用具 c 自立生活支援機器(環境制御装置等を含む) d スポーツ・レクリエーション用具 F 家族への指導 a 介助方法 -2 評価と支援 A 施設入所者
2	概論1	地域理学療法の定義と歴史	
3	概論2	介護保険制度について ・導入の背景	
4	各論1	・概要	
5	各論2	・サービスの種類と内容	
6	各論3	・介護認定の仕組み	
7	各論4	介護保険制度における理学療法士の役割	
8	各論5	施設サービスにおける理学療法士の役割	
9	各論6	通所サービスにおける理学療法士の役割	
10	各論7	訪問サービスにおける理学療法士の役割	
11	各論8	都市型地域理学療法	
12	各論9		
13	各論10	介護予防事業	
14	各論11		
15	総括	まとめ	

教科書	「標準理学療法学専門分野 地域理学療法学」 牧田光代編 (医学書院)
参考書	「PT マニュアル 地域理学療法 第2版」 伊藤日出男・香川幸次郎著 (医歯薬出版株式会社) 「理学療法 MOOK11 健康増進と介護予防」 黒川幸雄・高橋正明他編 (三輪書店) 「地域リハビリテーション論 Version2」 大田仁史編 (三輪書店)

授業科目名	地域理学療法学演習	単位認定者	蛭間基夫
対象学年	第3学年	学期	後期
単位数	1単位(15コマ)	必修・選択	必修

指導方法	講義及び演習(学外演習2コマを含む)
科目の目的	地域理学療法学演習では、地域理学療法学で習得した地域を基礎として、それらを実践的に活用できる思考及び技術の習得を目標とする。
学習到達目標	1. 在宅で生活する高齢者や障害者に必要な支援制度・サービスの活用方法について具体的に理解する。 2. 在宅で生活する高齢者や障害者の支援におけるチームアプローチの重要性と理学療法士の役割や専門性を理解する。
関連科目	高齢者理学療法学、健康増進・スポーツコンディショニング論、日常生活活動学、日常生活活動学実習、地域理学療法学実習、生活環境学、生活環境学実習、運動器系理学療法評価・治療学、神経系理学療法評価・治療学、呼吸・循環・代謝系理学療法評価・治療学、小児理学療法学、運動器系理学療法評価・治療学演習、神経系理学療法評価・治療学演習、呼吸・循環・代謝系理学療法評価学演習
成績評価方法・基準	定期試験(80%)に加え、課題(10%)、学習態度(10%)などを総合的に判断する。
準備学習の内容	前回の講義の内容を復習し、次回の講義との関連性を事前に理解して講義に臨むこと。

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準
			理学療法士
1 2	オリエンテーション 総論1	ガイダンス 地域居住における自立の視点とリハビリテーションの思想	<b>【専門】</b> -3 各領域の評価 K 保健・福祉領域 a 予防保健医学・b 産業理学療法 -2 基本介入手段 F 個人因子 G 環境因子 a 住環境調査(家屋調査等) b 家族関係 c 家庭環境 -3 各領域の治療 K 保健・福祉領域 a 健康増進・b 産業理学療法 -1 基礎 A 基礎概念 a 地域とは・b 地域における障害者(児)・高齢者 B 制度 a 制度と関連法規・b 社会資源 C 地域理学療法 a 理念と目的 b 他職種との協働 c 地域との連携 d 訪問理学療法 e 通所理学療法 f 施設における理学療法 g 障害予防 h 健康増進 i 特定疾患の評価と治療 E 福祉用具 a 福祉用具導入の考え方 b 代表的な福祉用具 c 自立生活支援機器(環境制御装置等を含む) d スポーツ・レクリエーション用具 F 家族への指導 a 介助方法 -2 評価と支援 A 施設入所者
3 4	総論2	居住福祉と理学療法	
5 6	総論3	地域支援におけるチームアプローチの実践	
7 8	各論1	住宅改修支援のための制度・サービス	
9 10	各論2	福祉用具活用のための制度・サービス	
11 12	演習1	住宅改修及び福祉用具活用の具体例	
13	各論3	保健所・保健センターの実践例	
14	各論4	介護予防事業の実践例	
15	総括	まとめ	

教科書	「標準理学療法学専門分野 地域理学療法学」 牧田光代編 (医学書院)
参考書	「PTマニュアル 地域理学療法 第2版」 伊藤日出男・香川幸次郎著 (医歯薬出版株式会社) 「理学療法 MOOK11 健康増進と介護予防」 黒川幸雄・高橋正明他編 (三輪書店) 「地域リハビリテーション論 Version2」 大田仁史編 (三輪書店)

授 業 科 目 名	生 活 環 境 学	単 位 認 定 者	目 黒	力
対 象 学 年	第 3 学 年	学 期	前	期
単 位 数	2 単 位 ( 1 5 コ マ )	必 修 ・ 選 択	必	修

指 導 方 法	講義および実習(11コマ)ならびに学外演習(3コマ)予定
科 目 の 目 的	生活環境学では,日本国憲法第25条に定められた生存権を基本概念として,高齢者や障害者がよりよい生活を営むことができるように,理学療法として高齢者・障害者を取り巻く,物理的環境,経済的環境,制度的環境,人的環境に関する調整を行うために必要な知識の整理とその方法論について学び,生活環境学の考え方について理解することを学習目標とする.
学 習 到 達 目 標	1. 高齢者・障害者を取り巻く4つの環境について説明できる 2. 「まち」における物理的環境の制約要因について説明できる 3. 福祉機器の種類や適応を理解することができる. 4. 高齢者・障害者を取り巻く経済制度,法制度について理解できる.
関 連 科 目	日常生活活動学・日常生活活動学演習・地域理学療法学・地域理学療法学実習・環境理学療法学 リハビリテーション工学
成績評価方法・基準	定期試験(70%)レポート(10%)学習態度・発表会(10%)出席(10%)
準 備 学 習 の 内 容	専門用語などについて事前に調べておくことが望ましい

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準
			理学療法士
1	生活環境学概論 1	生活環境学とは	【専門】 -2 理学療法の基礎 L 環境調整 a 環境の構造 b 環境と個体 -2 基本介入手段 F 個人因子 G 環境因子 a 住環境調査(家屋調査等) b 家族関係 c 家庭環境 -1 基礎 D バリアフリーとユニバーサルデザイン a 住環境整備 b 家屋改造
2	生活環境学概論 2	生活環境と人間 1	
3	生活環境学概論 3	生活環境と人間 2	
4	経済制度と法制度	介護保険制度を中心とした保険制度	
5	都市交通工学概論 1	まちを考える 1	
6	都市交通工学概論 2	まちを考える 2	
7	都市交通工学概論 3	まちを考える 3	
8	都市交通工学概論 4	まちめぐり実習 1	
9	都市交通工学概論 5	まちめぐり実習 2	
10	福祉機器概論 1	福祉機器総論	
11	福祉機器概論 2	福祉機器見学実習	
12	福祉機器概論 3	福祉機器見学実習	
13	都市交通工学概論 6	まちめぐり発表会	
14	都市交通工学概論 7	まちめぐり発表会	
15		まとめ	

教 科 書	ユニバーサルデザインのまちづくり 森北出版
参 考 書	

授 業 科 目 名	環 境 理 学 療 法 学	単 位 認 定 者	目 黒 力
対 象 学 年	第 3 学 年	学 期	後 期
単 位 数	2 単 位 ( 1 5 コ マ )	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	講義および実習
科 目 の 目 的	環境理学療法では、生活環境学で学んだ事を更に発展させ、より実践的に学習することを目標とする。
学 習 到 達 目 標	1. 日本における住環境を理解し、ハウスアダプテーションの概念を理解することができる。 2. CAD を使って簡単な設計図面を描くことができる 3. 実際の場面に即した簡単な福祉機器を製作することができる。
関 連 科 目	日常生活活動学・日常生活活動学演習・地域理学療法学・地域理学療法学実習・生活環境学 リハビリテーション工学
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	定期試験 (70%) レポート (10%) 学習態度・発表会 (10%) 出席 (10%)
準 備 学 習 の 内 容	事前にテキストなどを予習しておくことが望ましい

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準
			理学療法士
1 ~ 15	住環境演習 1	日本人と住居	【専門】 -2 理学療法の基礎 L 環境調整 a 環境の構造 b 環境と個体 -2 基本介入手段 F 個人因子 G 環境因子 a 住環境調査 (家屋調査等) b 家族関係 c 家庭環境 -1 基礎 D バリアフリーとユニバーサルデザイン a 住環境整備 b 家屋改造
	住環境演習 2	日本人と住居	
	住環境演習 3	家屋調査と住環境	
	住環境演習 4	家屋調査と住環境	
	住環境演習 5	2次元 CAD 演習	
	住環境演習 6	2次元 CADcad 演習	
	住環境演習 7	3次元 CAD 演習	
	住環境演習 8	特別講義	
	住環境演習 9	特別講義	
	福祉機器概論 1	イレクターパイプによる福祉機器作成	
	福祉機器概論 2	イレクターパイプによる福祉機器作成	
	住環境演習 10	発表会 (バリアフリー住宅発表会)	
	住環境演習 11	発表会 (バリアフリー住宅発表会)	
	まとめ		

教 科 書	やさしく学ぶ Jw_cad6 CAD&CG MAGAZINE 福祉住環境コーディネーター検定試験 2級公式テキスト
参 考 書	

授 業 科 目 名	見 学 実 習	単 位 認 定 者	加 藤 仁 志
対 象 学 年	第 2 学 年	学 期	後 期
単 位 数	1 単 位 ( 1 週 間 )	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	講義, 学外演習 (1週間)
科 目 の 目 的	病院・施設等における理学療法の臨床場面の見学を通し, 社会人・専門職としての基本的態度を養い, また, 見学施設での理学療法士の役割, 理学療法業務, リハビリテーションの中での位置づけを理解することを目的とする. 3年次での評価学実習, 4年次の総合臨床実習 に向けての導入, 準備のための実習と位置づける.
学 習 到 達 目 標	1. 社会人・専門職としての基本的態度を身につける. 2. 見学施設における理学療法士所属部署の位置づけ, 他職種との関連を理解する. 3. 見学施設における理学療法の対象を理解する. 4. 見学施設における理学療法業務を理解する.
関 連 科 目	評価学実習, 総合臨床実習 , 総合臨床実習
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	出席状況・レポート・実習後報告会での内容
準 備 学 習 の 内 容	

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準
			理学療法士
	オリエンテーション  見学実習  実習後報告会	見学実習の実習目的, 目標, 実習内容等の説明  病院等実習施設における見学実習  見学実習で学んできたことについての報告会	【専門】 V-1 概要 A 安全管理 (インシデント・感染症対策等) B 事故・過誤 C 感染症対策 D インフォームドコンセント E 守秘義務 V-2 実施 A 情報管理 (カルテ管理・個人情報保護等) B 個人情報保護 C 記録・報告 D 対人関係技術 E 画像等の医学情報の理解

教 科 書	配布プリント
参 考 書	「標準理学療法学 臨床実習とケーススタディー」鶴見隆正編 (医学書院) 「実習の達人 学生編」理学療法科学学会編 (アイベック)

授業科目名	評価学実習	単位認定者	黒力
対象学年	第3学年	学期	後期
単位数	3単位(3週間)	必修・選択	必修

指導方法	講義、学外演習(3週間)
科目の目的	病院・施設等の実習指導者の指導のもとに、既習の知識を総動員し患者の臨床的問題を解決するための情報収集、理学療法評価、理学療法診断、問題点抽出、目標設定ができるようになることを目的とする。
学習到達目標	1. 社会人・専門職としての基本的態度を身につける。 2. 理学療法を実施するのに必要な患者の情報を収集することができる。 3. 患者の疾患、障害に即した検査・測定を選択、実施することができる。 4. 情報収集、検査・測定の結果から理学療法における問題点の抽出ができる。 5. 理学療法における目標設定ができる。
関連科目	総合臨床実習、総合臨床実習
成績評価方法・基準	出席状況・レポート・実習後報告会での内容
準備学習の内容	

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準
			理学療法士
	オリエンテーション 評価学実習 実習後報告会	評価学実習の実習目的、目標、実習内容等の説明 病院等実習施設における評価学実習 評価学実習で学んできたことについての報告会	【専門】 V-1 概要 A 安全管理(インシデント・感染症対策等) B 事故・過誤 C 感染症対策 D インフォームドコンセント E 守秘義務 V-2 実施 A 情報管理(カルテ管理・個人情報保護等) B 個人情報保護 C 記録・報告 D 対人関係技術 E 画像等の医学情報の理解

教科書	配布プリント
参考書	「標準理学療法学 臨床実習とケーススタディー」鶴見隆正編(医学書院) 「実習の達人 学生編」理学療法科学学会編(アイベック)